

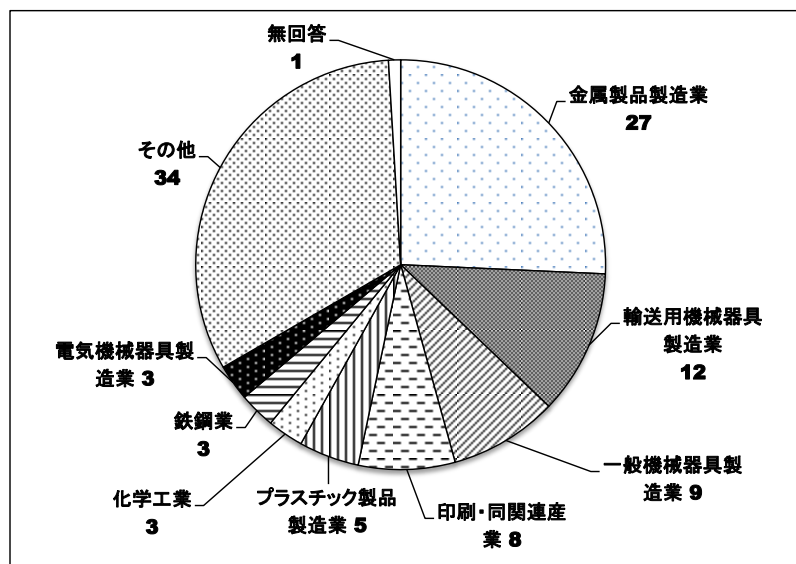
## 1 事業者(工業者)アンケート結果

### (1) アンケート調査実施概要

- ① 基準日  
平成22年12月1日現在
- ② 調査方法  
郵送配布・郵送回収
- ③ 調査実施期間  
平成22年12月24日～平成23年2月28日
- ④ アンケート対象及び送付数  
市内工業者350件
- ⑤ 有効回答数  
105件（有効回答率：30%）

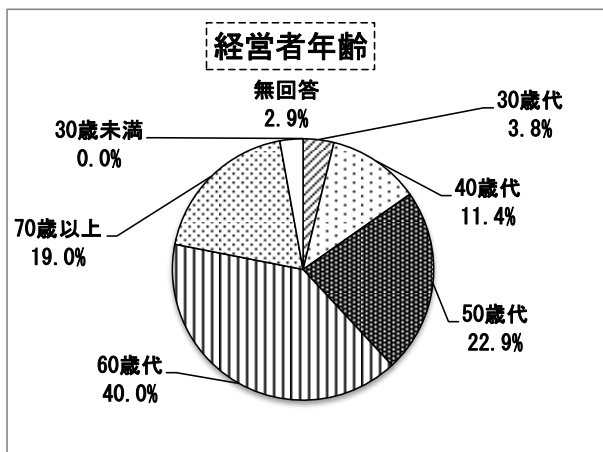
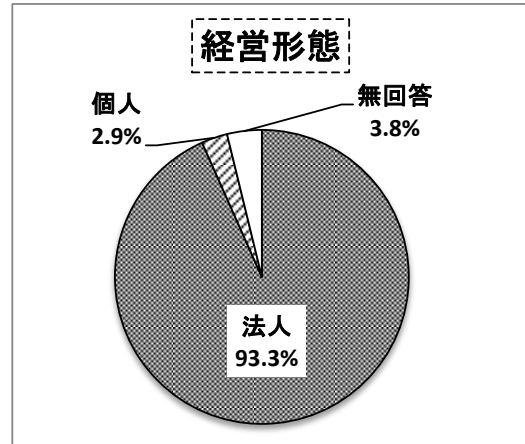
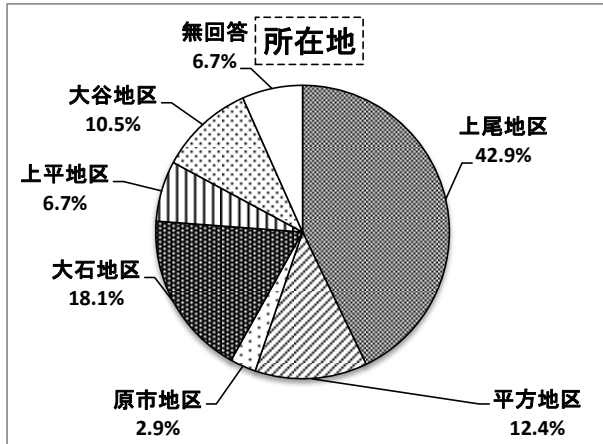
### (2) アンケート調査結果

問1 貴事業所の業種は、次のどれに該当しますか。（複数ある場合は、売上高が最も多いもの）



回答があった中で、最も多かったのは「金属製品製造業」で、次いで「輸送用機械器具製造業」、「一般機械器具製造業」、「印刷・同関連産業」であった。

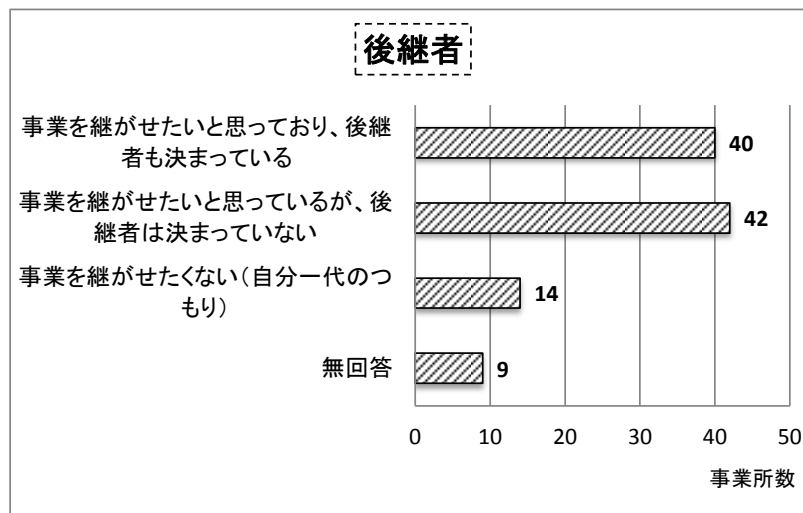
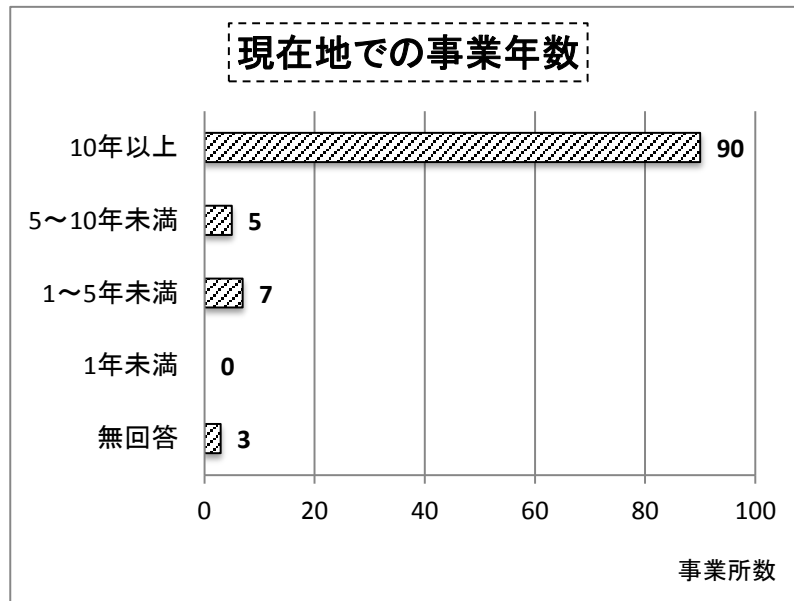
問2 貴事業所の事業概要についてお聞きします。



回答があったのは、上尾地区が最も多く、大石地区、平方地区と続いている。

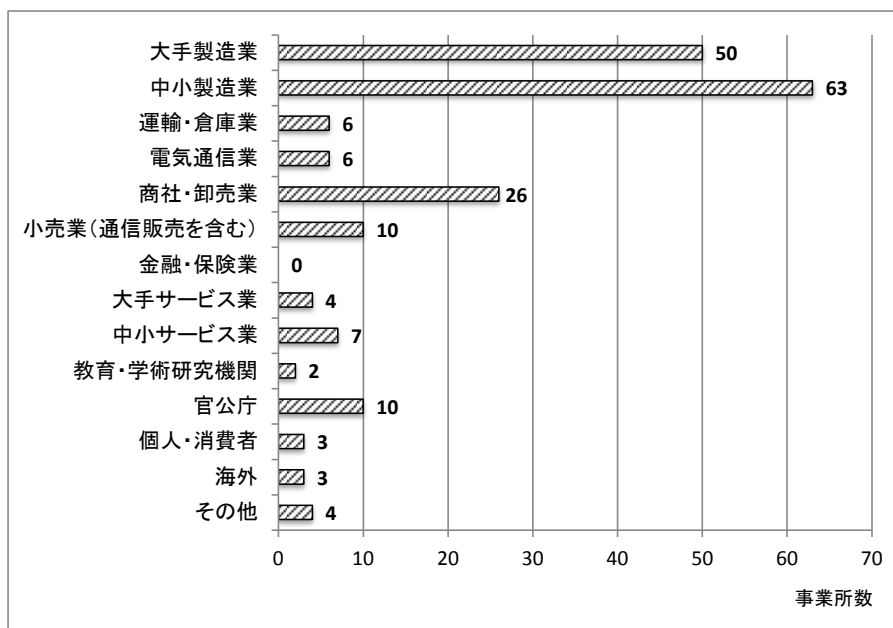
経営形態は、ほとんどが法人である。

経営者年齢は、60歳代以上が約6割を占めており、50歳代以上を加えると8割を超えている。



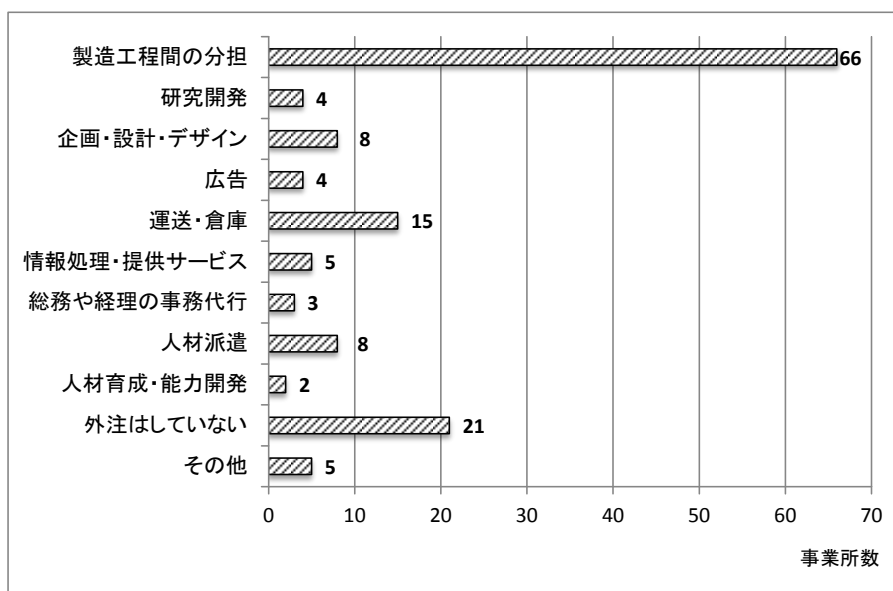
現在地（上尾市）での事業年数は、8割以上の事業所が10年以上と回答している。  
 後継者については、後継者が決まっている事業所と、後継者が決まっていない事業所の割合は、半々であった。

問3 貴事業所の主な得意先（顧客）は、どのような業種ですか。（複数回答）



主な得意先（顧客）は、「中小製造業」「大手製造業」が圧倒的に多く、次いで「商社・卸売業」「小売業」「官公庁」との回答があった。

問4 貴事業所は、主にどのような業務を外注していますか。（複数回答）

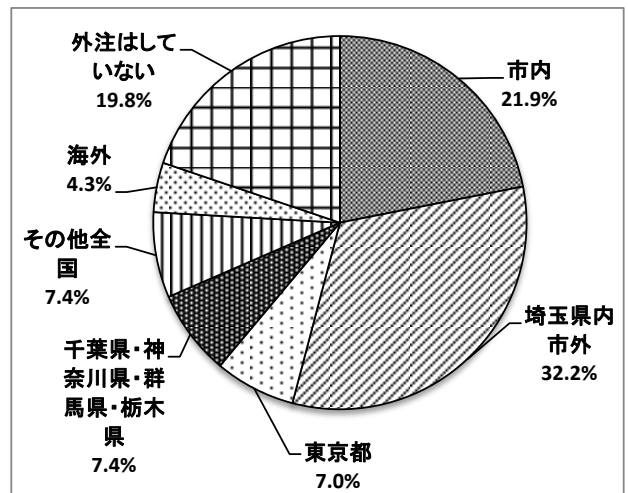
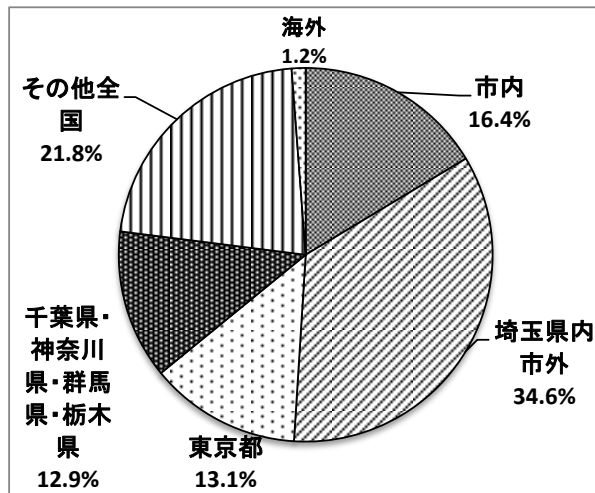


主な外注業務としては、「製造工程間の分担」が最も多く、次に多かったのは「外注はしていない」という回答であった。

問 5 貴事業所の主な得意先（顧客）・外注先はどの地域にありますか。それぞれの地域が占める割合は概ねどの程度ですか。（いずれも平均値をグラフ化）

A) 得意先（顧客） [回答：102 事業所]

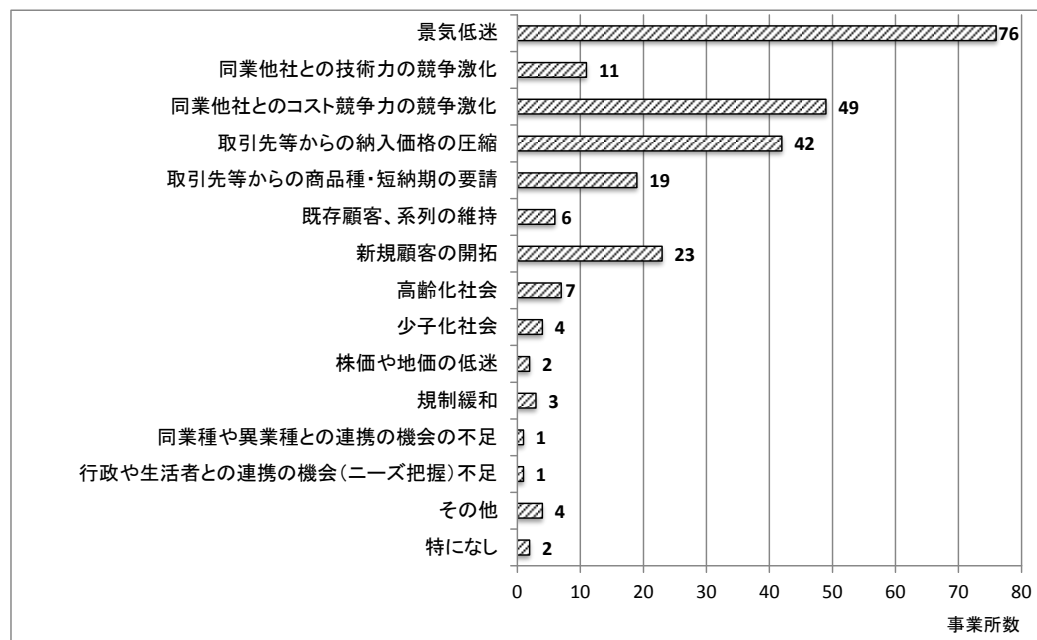
B) 外注先 [回答：92 事業所]



得意先（顧客）及び外注先ともに、埼玉県内（上尾市内含む）が半数を超えている。また、東京都をはじめ、関東地方を加えると、得意先（顧客）は4分の3程度、外注先は7割程度となっている。

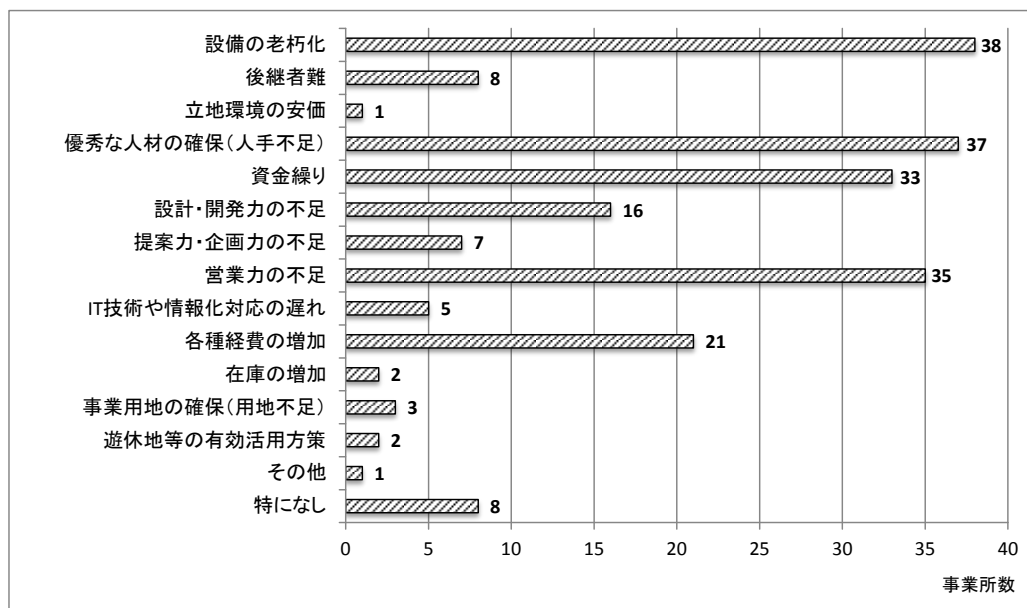
問 6 現在抱えている経営上の問題点は何ですか。（複数回答）

●外部経営環境面



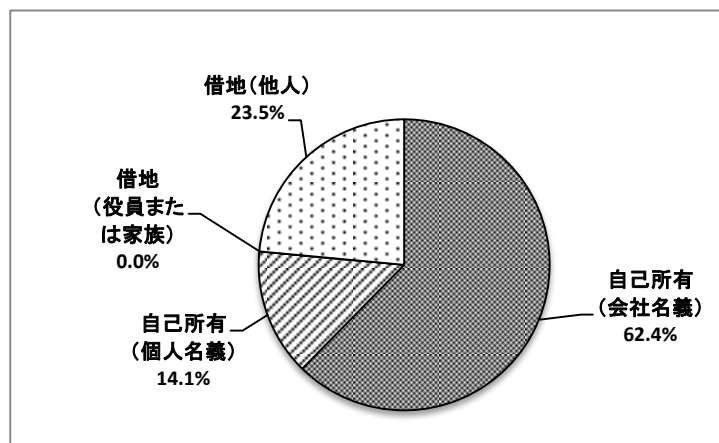
外部経営環境面における問題点として、「景気低迷」が最も多く、次いで「同業他社とのコスト競争力の競争激化」「取引先等からの納入価格の圧縮」という回答が多かった。

●内部経営環境面



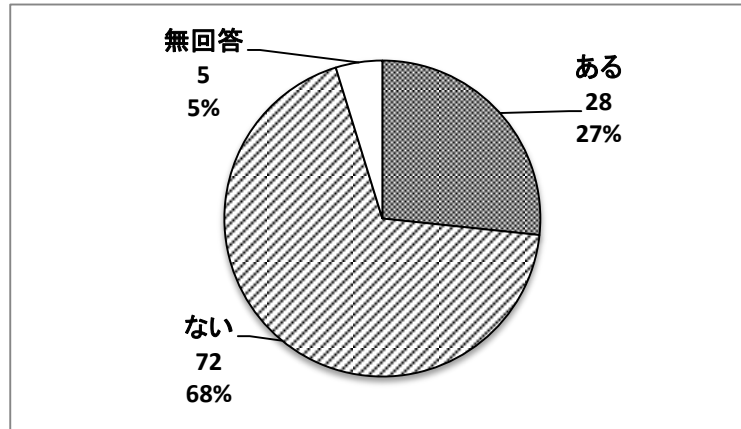
内部経営環境面における問題点として、「設備の老朽化」という回答が最も多かったが、「優秀な人材の確保（人手不足）」「営業力の不足」「資金繰り」についても、多数の回答があった。

問7 貴事業所の所有状況についてお聞きします。



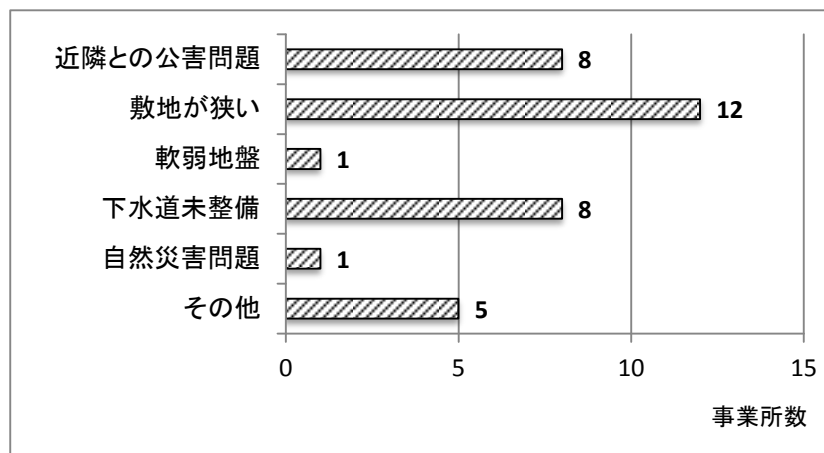
事業所の所有については、会社名義、個人名義を合わせて76.5%の事業所が自己所有、23.5%が借地であると回答している。

問 8 操業していく上で、立地条件的に何か問題点がありますか。



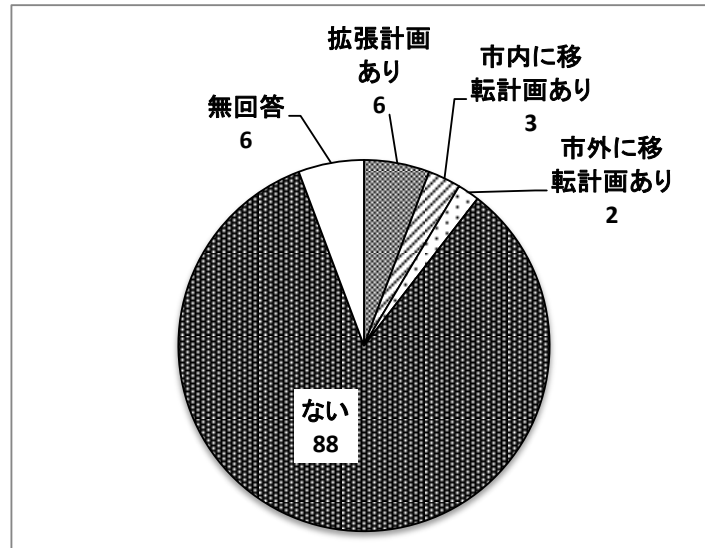
立地条件の問題点については、約7割（72件）の事業所が「ない」と回答しているが、残り3割（28件）の事業所が「ある」と回答している。

問 9 （問 8 で「ある」と回答した事業所のみ）どのような問題点がありますか。（複数回答）



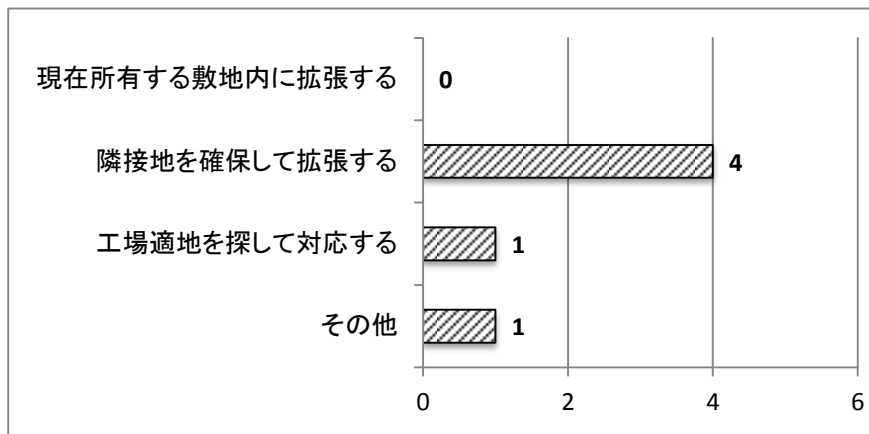
「立地条件的に問題がある」と回答した事業所のうち、具体的な問題点として、「敷地が狭い」と回答している事業所が最も多かった。

問 10 貴事業所では、工場の拡張または移転計画がありますか。



工場の拡張や移転計画の有無について、88 事業所が「ない」と回答している。拡張計画があるのは 6 事業所で、市内での移転計画があるのは 3 事業所、市外に移転計画があるのは 2 事業所であった。

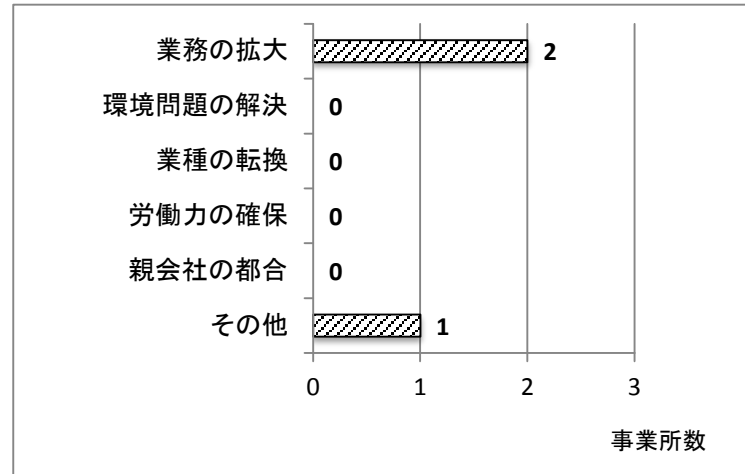
問 11 (「拡張計画あり」と回答した事業所のみ) どのような計画ですか。



「工場の拡張計画あり」と回答した 6 事業所のうち、4 事業所が「隣接地に拡張」、1 事業所が「工場適地を探して対応」、1 事業所が「その他」と回答した。

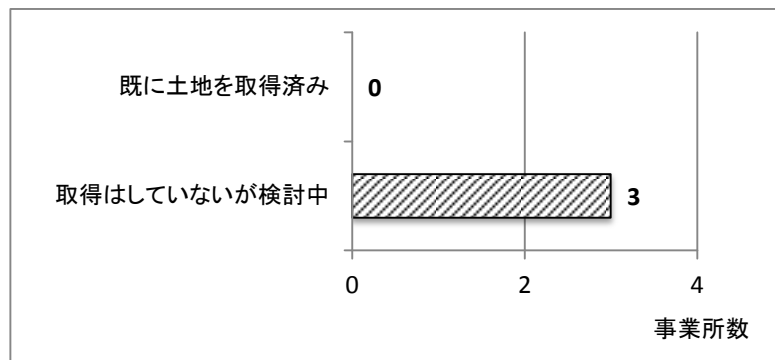


問 12 「市内に移転計画あり」と回答した事業所のみ) 移転計画を立案した理由



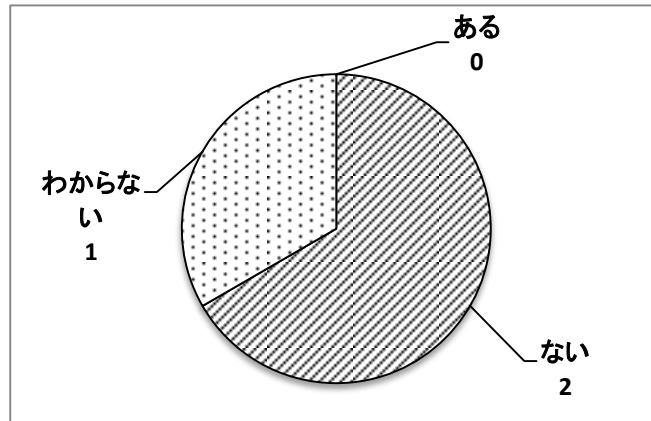
「市内に移転計画あり」と回答した3事業所のうち、移転計画を立案した理由として、2事業所が「業務の拡大」、1事業所が「その他」と回答した。

問 13 「市内に移転計画あり」と回答した事業所のみ) 移転先用地の有無



「市内に移転計画あり」と回答した3事業所のうち、移転先用地について、3事業所ともに「取得はしていないが検討中」と回答した。

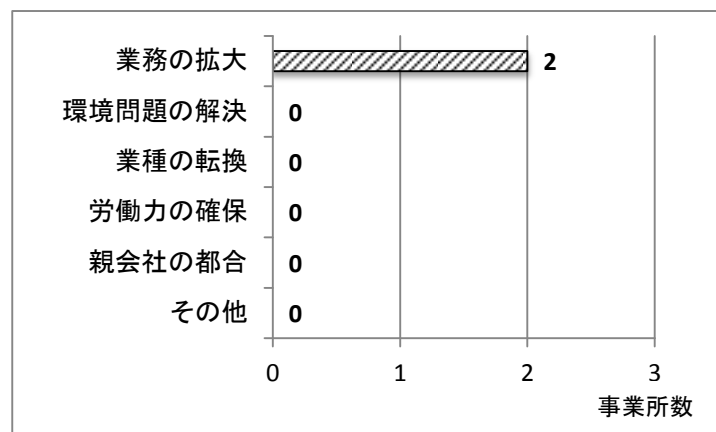
問 14 「市内に移転計画あり」と回答した事業所のみ)市が工業団地を造成した場合、  
移転する希望の有無



「市内に移転計画あり」と回答した3事業所のうち、市が工業団地を造成した場合、2事業所が「移転の希望はない」と回答し、1事業所が「わからない」と回答した。

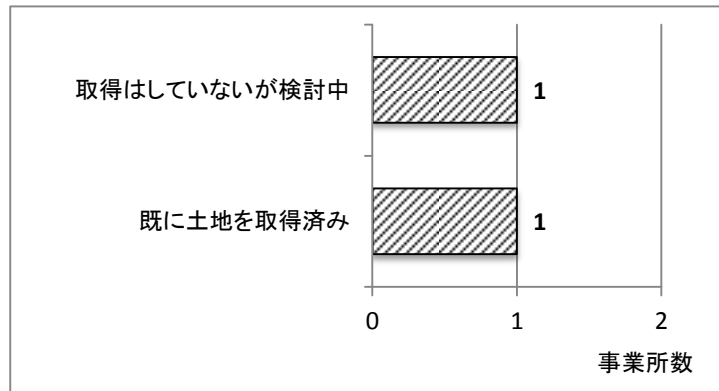
問 15 「移転希望あり」と回答した事業所のみ)  
取得したい又は借地したい面積(坪)及び価格(坪単価)  
→回答なし

問 16 「市外に移転計画あり」と回答した事業所のみ)移転計画を立案した理由



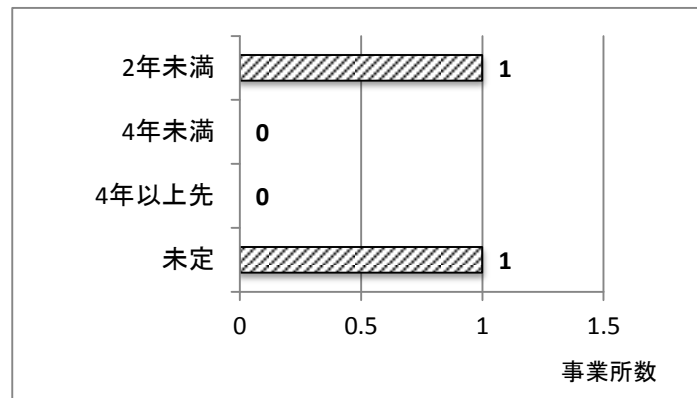
「市外に移転計画あり」と回答した2事業所のうち、移転計画を立案した理由について、2事業所ともに「業務の拡大」と回答している。

問 17 「市外に移転計画あり」と回答した事業所のみ) 移転先用地の有無



「市外に移転計画あり」と回答した2事業所のうち、移転先用地について、1事業所が既に土地を取得しており、1事業所が「取得はしていないが検討中」と回答した。

問 18 「市外に移転計画あり」と回答した事業所のみ) 時期はいつですか。



「市外に移転計画あり」と回答した2事業所のうち、移転時期について、1事業所が「2年未満に移転」と回答し、1事業所が「未定」と回答した。

問 19 購入した(希望する)面積(坪)及び価格(坪単価)

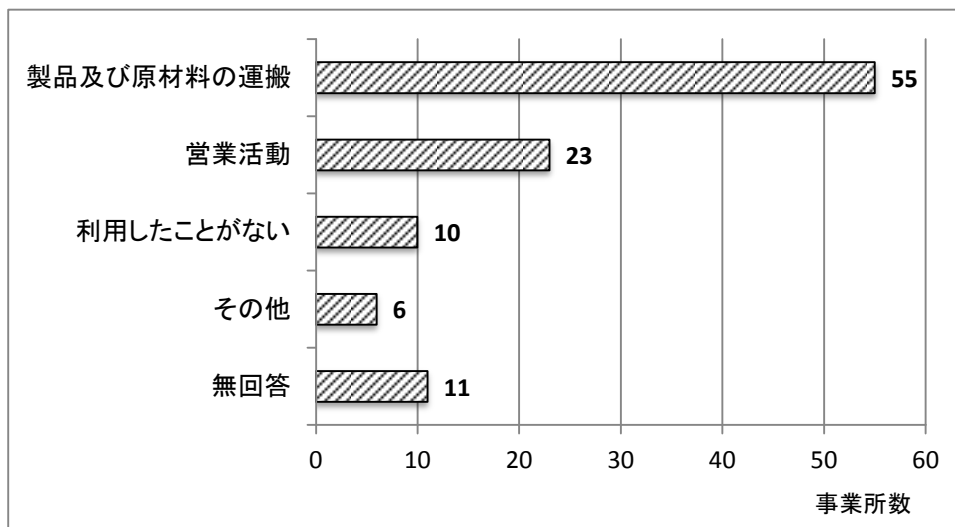
問 20 移転先はどこですか。

問 21 移転先では工場誘致への優遇措置(固定資産税等の軽減)はありますか。

問 22 優遇措置とは、具体的にどのようなものか。

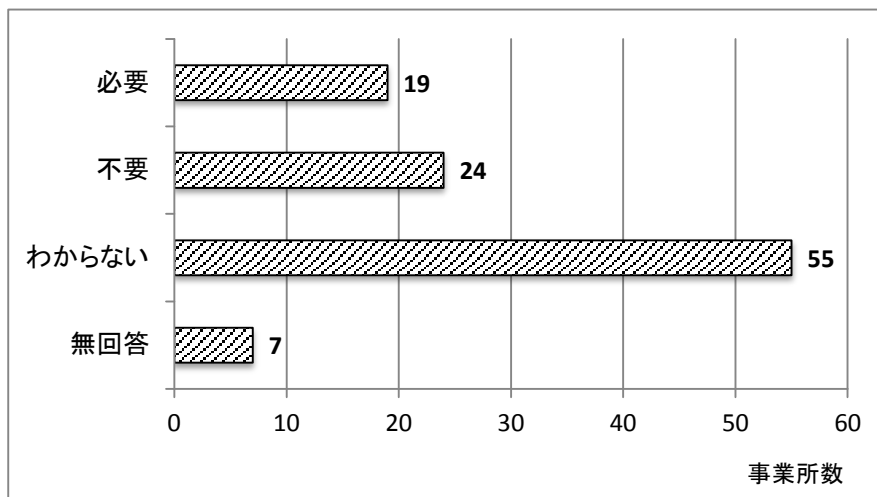
→回答対象企業が1事業所であるため、省略する。

問 23 上尾道路の主な利用目的をお答えください。



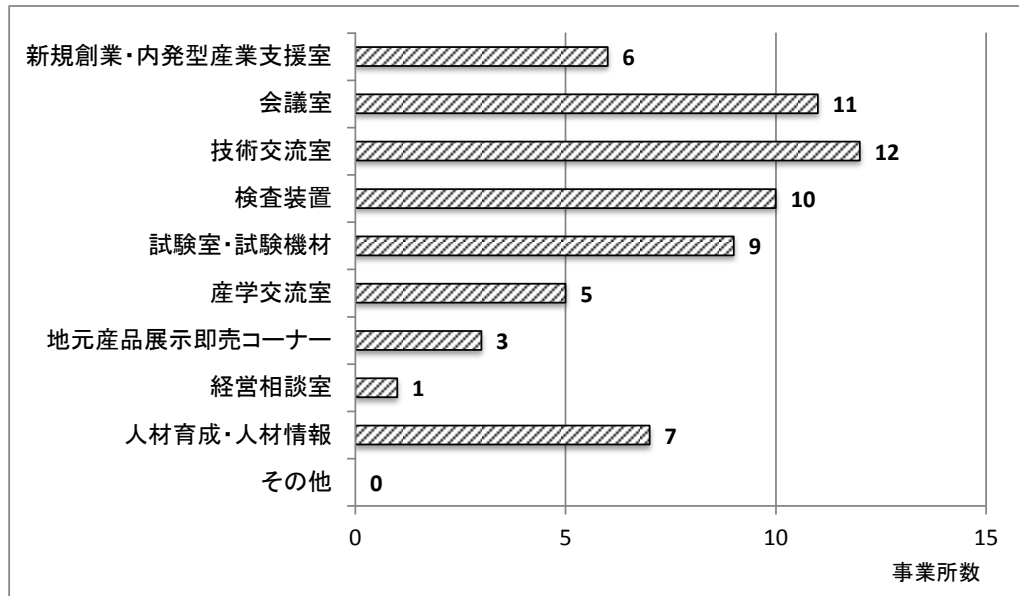
上尾道路の主な利用目的としては、「製品及び原材料の運搬」と回答した事業所が最も多かった。

問 24 貴事業所は、(仮)産業振興センターが必要だと思いますか。



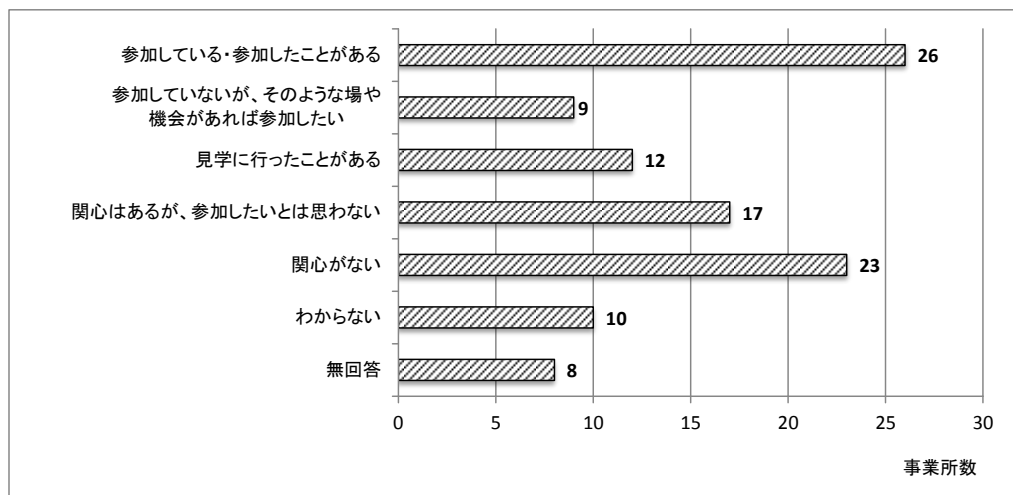
(仮)産業振興センターの必要性について、19事業所が「必要」とし、24事業所が「不要」と回答したが、最も多かったのは「わからない」という回答であった。

問 25 「必要」と回答した事業所のみ) どのような機能を求めますか。(複数回答)



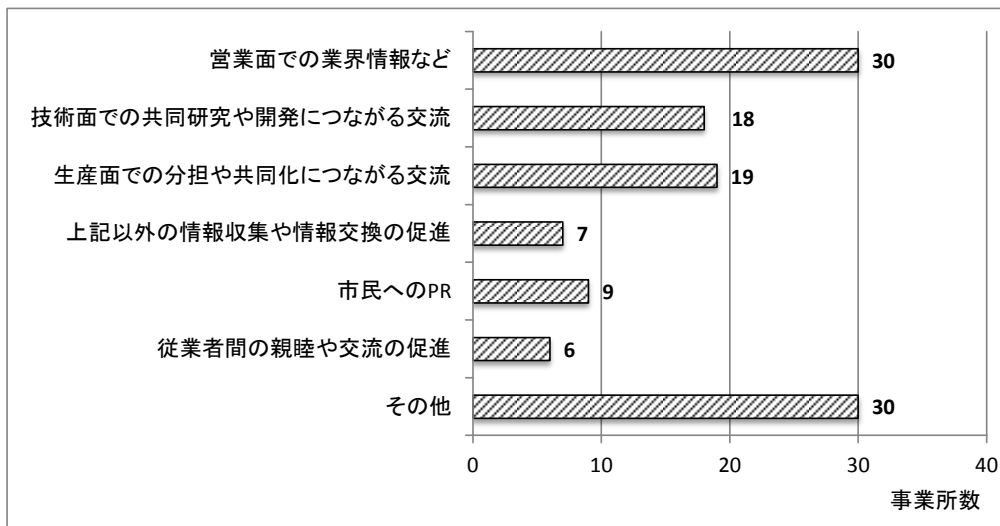
「(仮) 産業振興センターは必要」と回答した 19 事業所のうち、施設に求める機能としては、「技術交流室」「会議室」「検査装置」との回答が多かった。

問 26 現在、上尾市内にある企業の同業種・異業種交流の場として工業フェアを開催していますが、参加していますか。



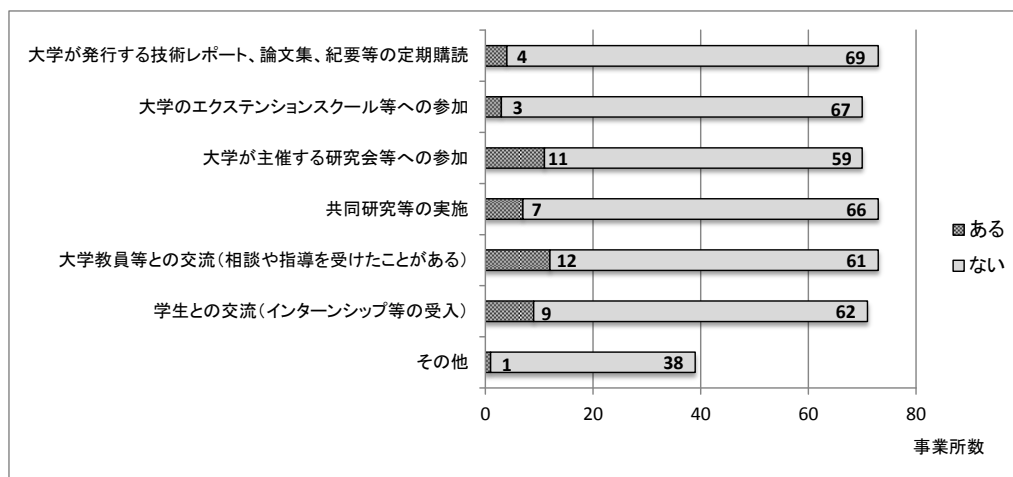
工業フェアへの参加の状況について、35 事業所が「参加している (したことがある)」「機会があれば参加したい」と回答した。一方、「参加したいとは思わない」「関心がない」と回答した事業所は、合わせて 40 事業所にのぼっている。

問 27 (問 26 で「1~3」と回答した事業所のみ) 企業との交流でどのようなことを期待しますか。(複数回答)



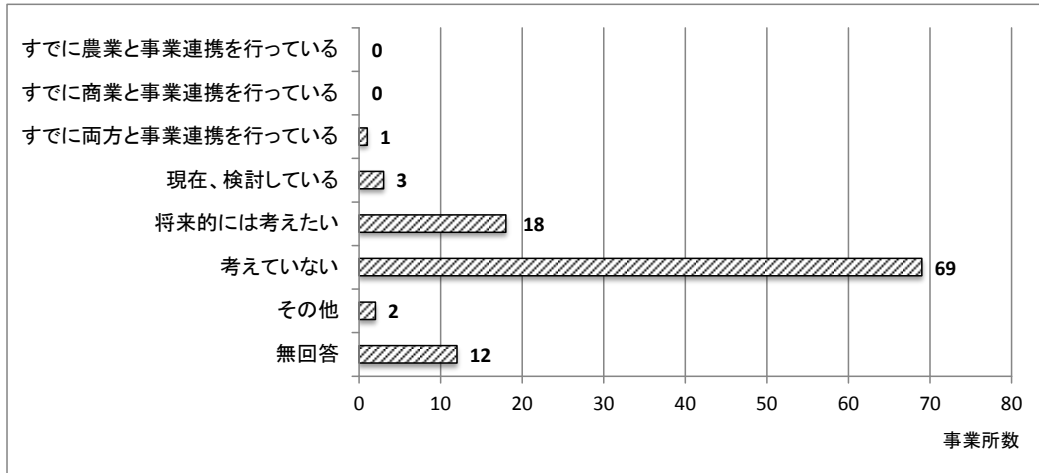
工業フェアに期待することとして、「営業面での業界情報」が最も多かった。また、技術面や生産面での「交流」を期待するという意見も多く見受けられた。

問 28 貴事業所では、産学官連携についてこれまでどのような取り組みを実施していますか。



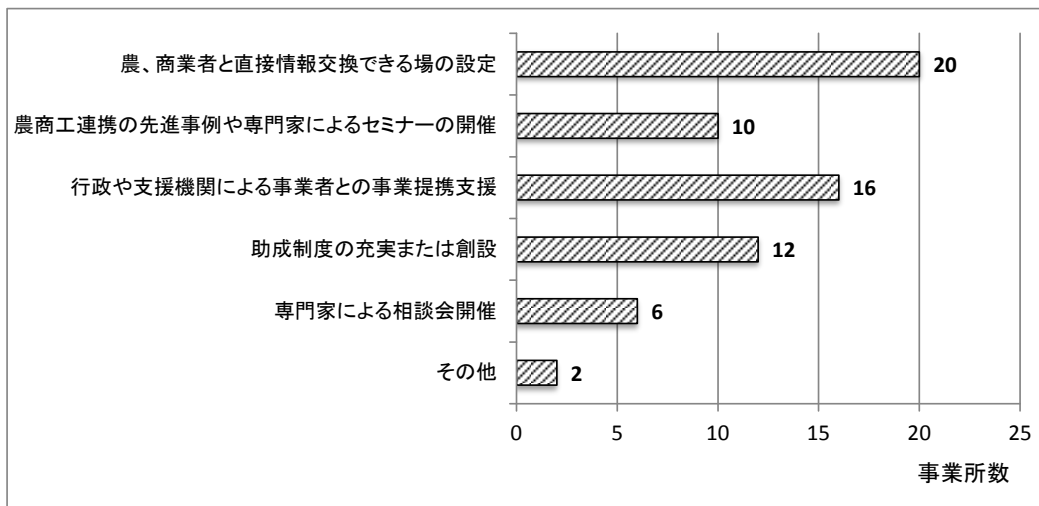
産学官連携の取り組みについて、「大学教員等との交流(相談や指導など)」、「大学が主催する研究会等への参加」と回答した事業所が多かったが、全体としては「ない」という意見が多数を占めている。

問 29 農業や商業との事業連携についてどのようにお考えですか。



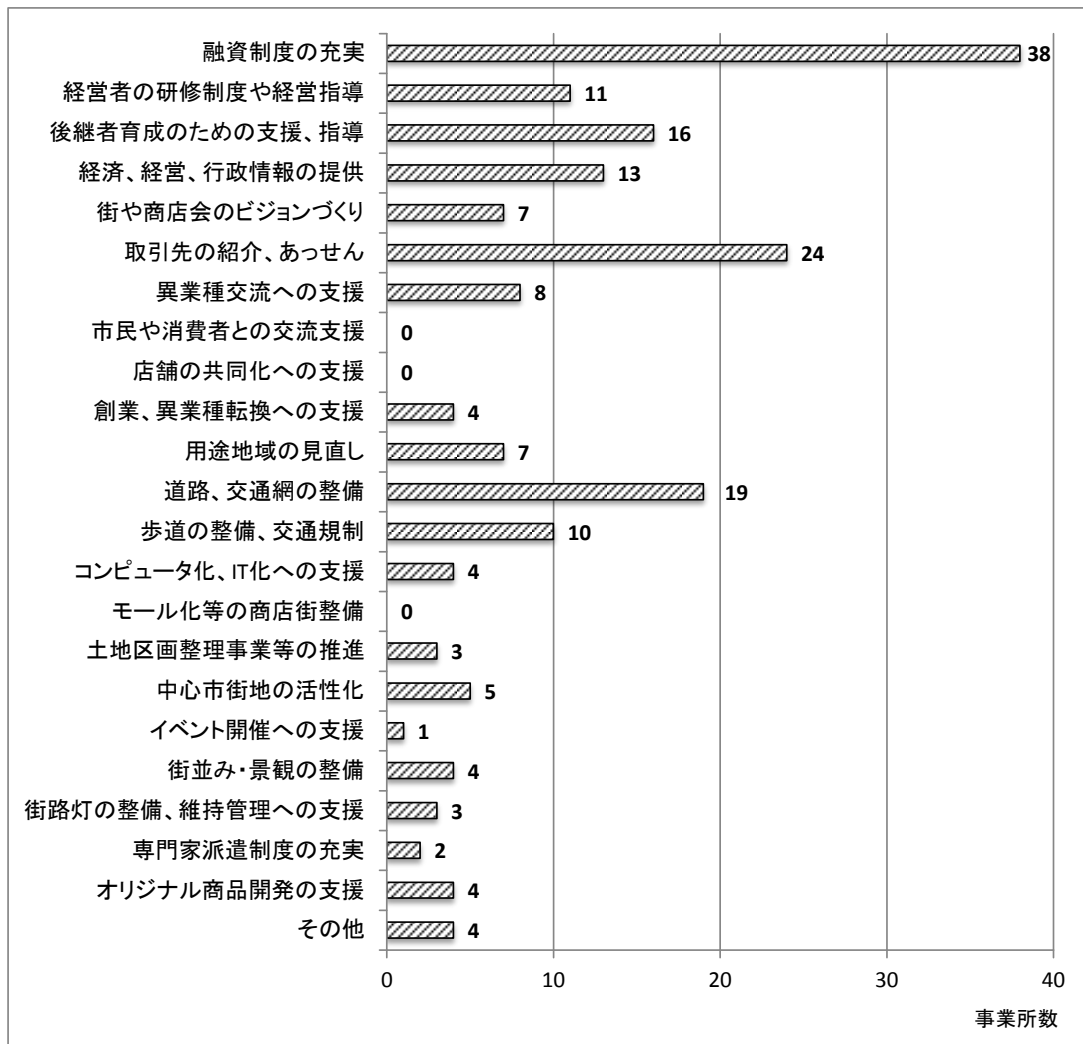
農業や商業との事業連携について、2割近くの事業所が「将来的には考えたい」と回答しているが、7割近くの事業所が「考えていない」と回答している。

問 31 農業や商業と事業連携を進めるにあたって必要と思われる支援は何ですか。(複数回答)



事業連携を進めるにあたっての必要な支援は、「情報交換の場の設定」との回答が最も多く、次いで「行政や支援機関による事業者との事業提携支援」との回答が多かった。

問 32 行政に対して期待する支援方策は何ですか。(複数回答)



行政に対して期待する支援策として、最も多かったのは「融資制度の充実」であった。これに次いで「取引先の紹介、あっせん」「道路、交通網の整備」という意見があった。



問 33 その他意見（自由回答）

主な内容
上尾道路の早期開通をお願いしたい。
道路等のインフラ整備を充実させてほしい。
産業振興センターの早期建設により、工業のまちとして中小企業の活性化を図る。
産業振興センターは絶対必要です。
産業振興センターを上尾市内の商工業者の交流の場として、利用していきたい。
行政や商工会議所の施策の充実を期待する。
商工業施策について、もっと事業者にはっきりとわかるものが欲しい。
工業誘致に力を入れるべきでは。
自転車のまちをPRしてほしい。
特にJRの駅近辺は、商業が集積できる、あるいは、集積させたいような魅力的街づくりを。

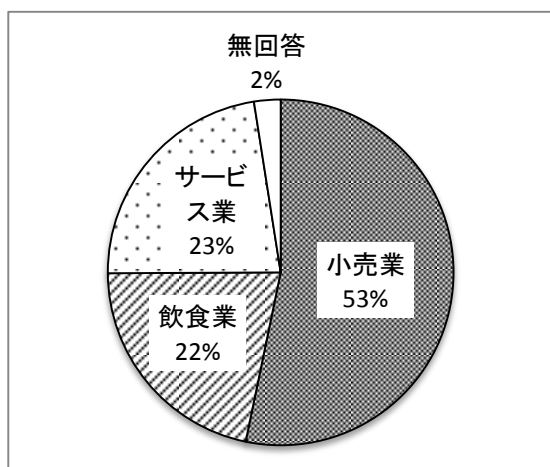
## 2 事業者(商業者)アンケート結果

### (1) アンケート調査実施概要

- ① 基準日  
平成22年12月1日現在
- ② 調査方法  
郵送配布・郵送回収
- ③ 調査実施期間  
平成22年12月24日～平成23年2月28日
- ④ アンケート対象及び送付数  
市内商業、サービス業者1,650件
- ⑤ 有効回答数  
323件 (有効回答率: 19.6%)

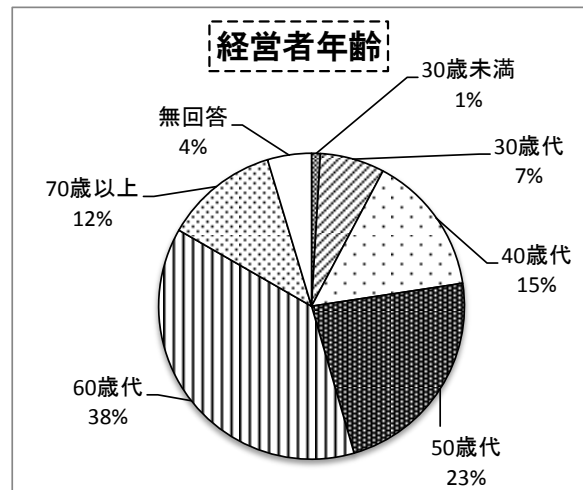
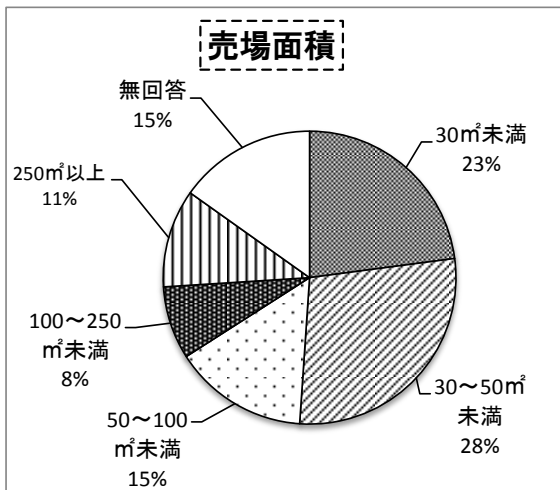
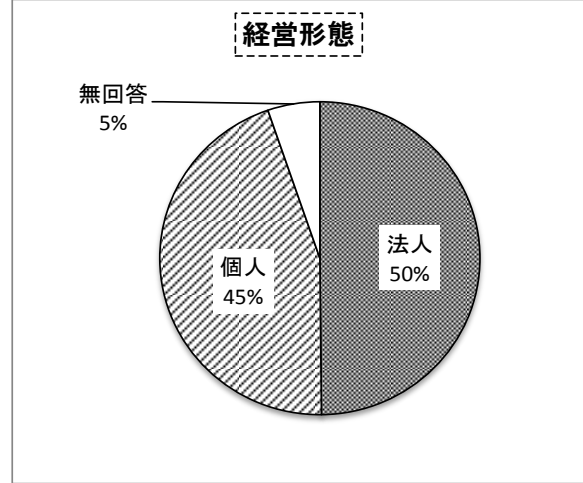
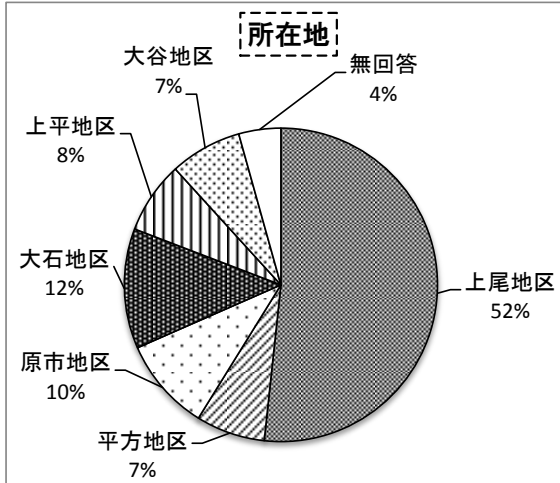
### (2) アンケート調査結果

問1 貴店の業種についてお聞きします。

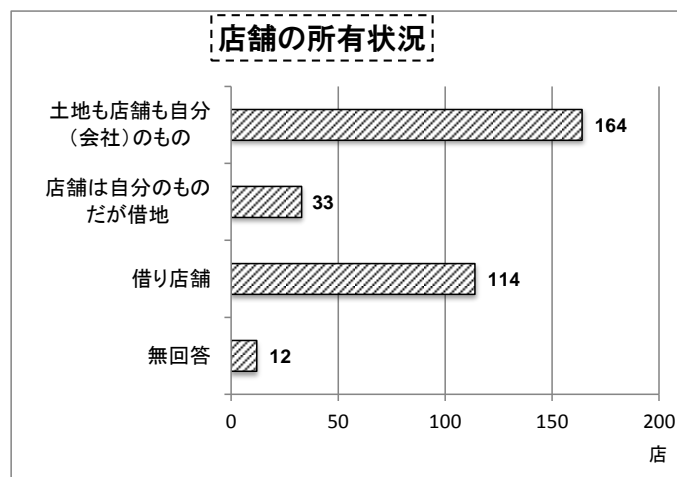
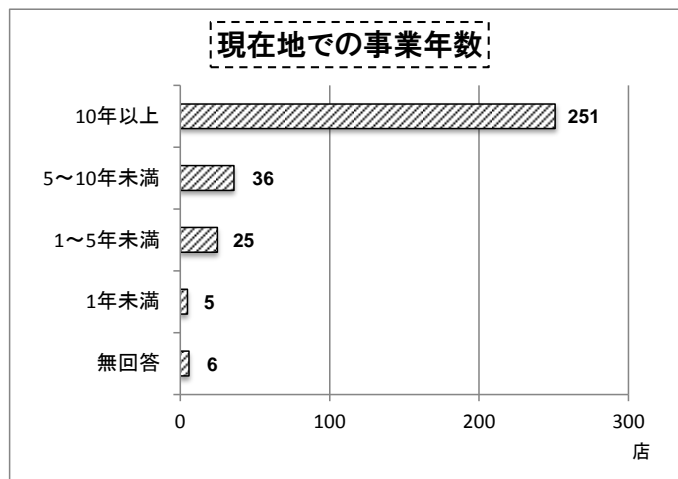
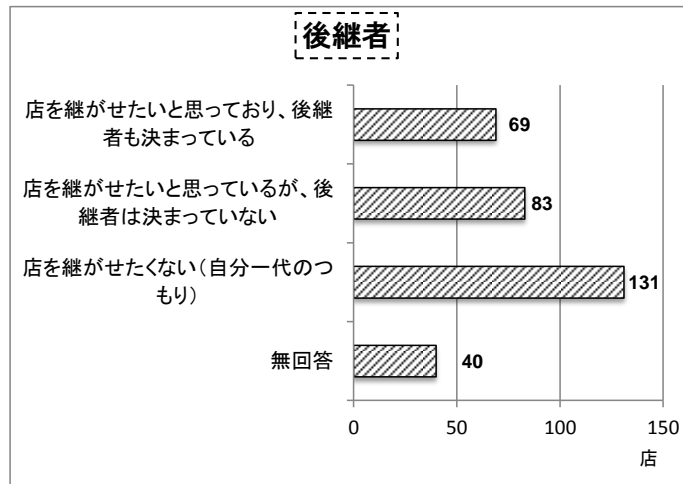


最も多い業種は小売業 (53%) であった。その内容としては、一般食料品、薬、自動車・自転車などである。サービス業では、クリーニングや理容 (美容) サービス、飲食業では、スナック・バー・居酒屋、和食などが多かった。

問2 貴店の事業概要についてお聞きします。

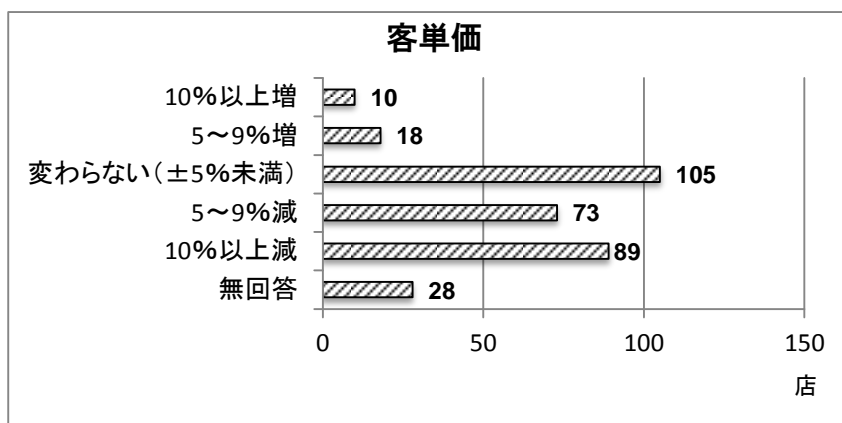
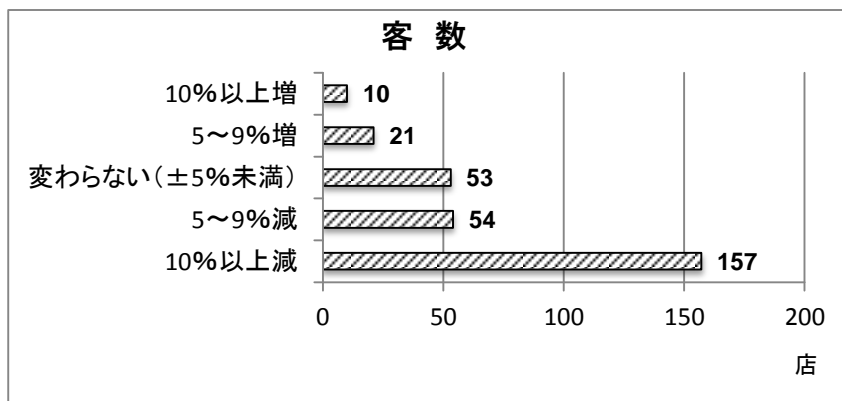
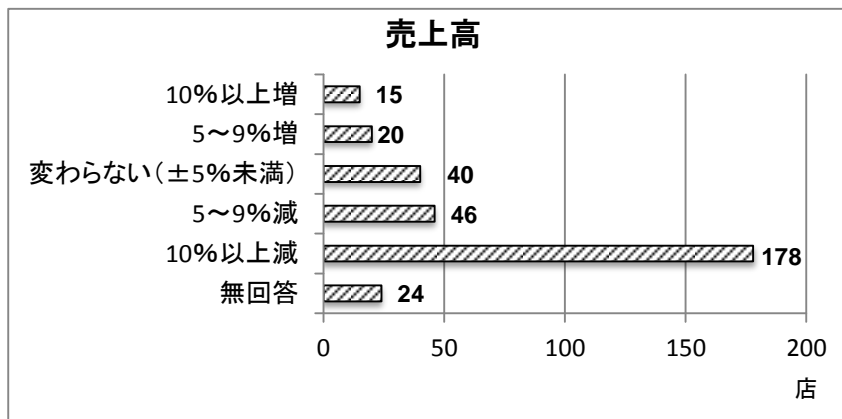


回答があったのは、上尾地区が最も多く、大石地区、原市地区と続いている。  
 経営形態は、法人と個人で、ほぼ半数ずつである。  
 売場面積は、100㎡未満の小規模店舗が7割弱を占めている。  
 経営者の年齢は、60歳代以上が半数を占めており、50歳代以上を加えると、7割を超えている。

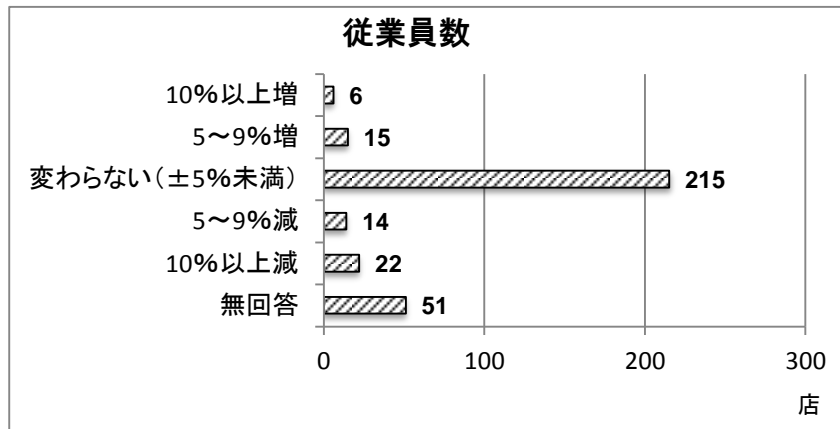
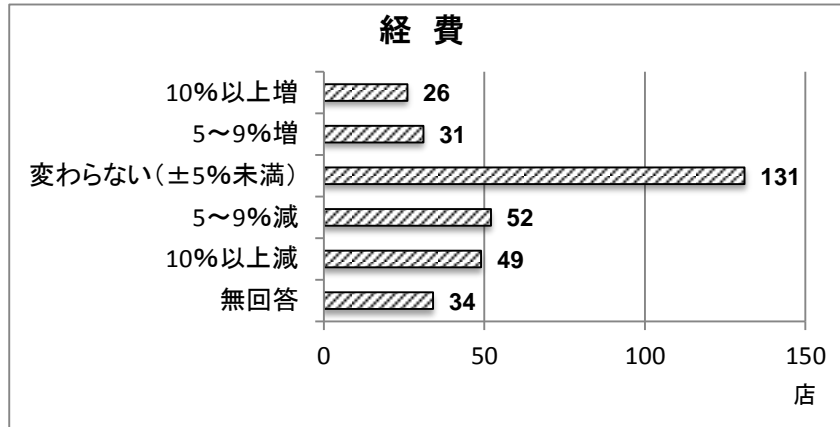


現在地（上尾市）での事業年数は、約8割が10年以上である。  
 後継者については、後継者が決まっているのは約2割、一代限りとしている事業者が約4割となっている。  
 店舗は、土地及び店舗が自己所有である場合と借り店舗である場合が、ほぼ半数であった。

問3 貴店において、現在（平成22年12月現在）と3年前（平成19年頃）とを比較した場合、どのように感じられますか。

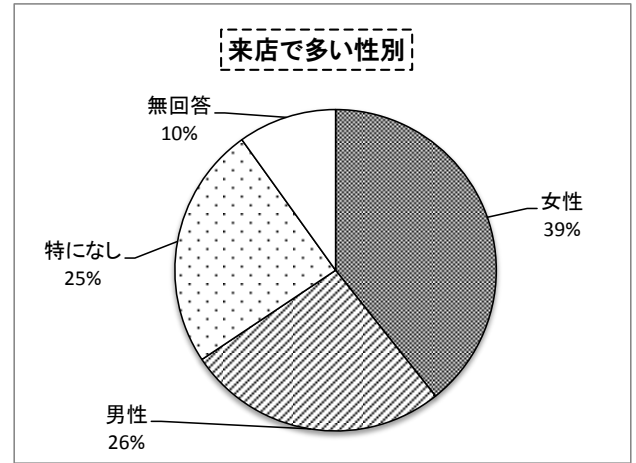
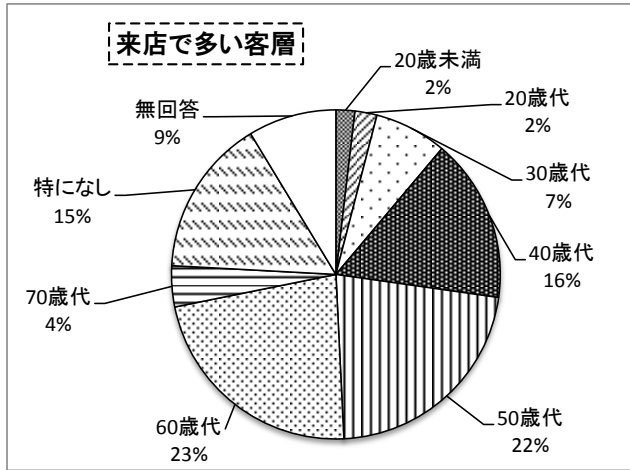


約半数の事業者が、売上高、客数ともに「10%以上減」と回答している。客単価については、「変わらない」と回答した事業者が最も多いものの、「10%以上減」「5~9%減」など、減少していると回答している事業者が半数である。



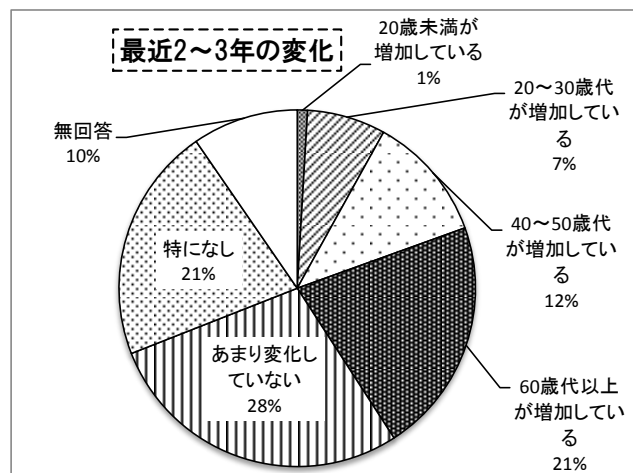
経費、従業員数については、「変わらない」と回答した事業者が最も多かった。

問4 貴店のお客様についてお聞きします。



来客の年齢層は、60歳代（23%）が最も多く、次いで50歳代（22%）、40歳代（16%）となっている。50歳代以上が約半数を占める。

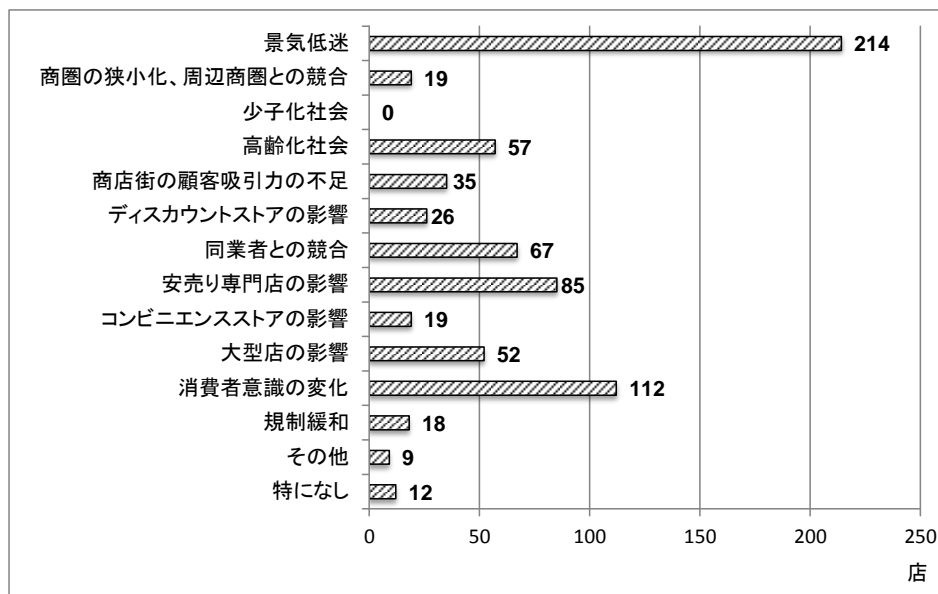
来店が多い性別では、「女性客」と答えた事業者が若干多いものの、特に性別による偏りは少ない。



客層の変化としては、「あまり変化していない」「特になし」と回答した事業者が約半数であるが、次いで「60歳以上が増加している」と回答する事業者が2割を占める。

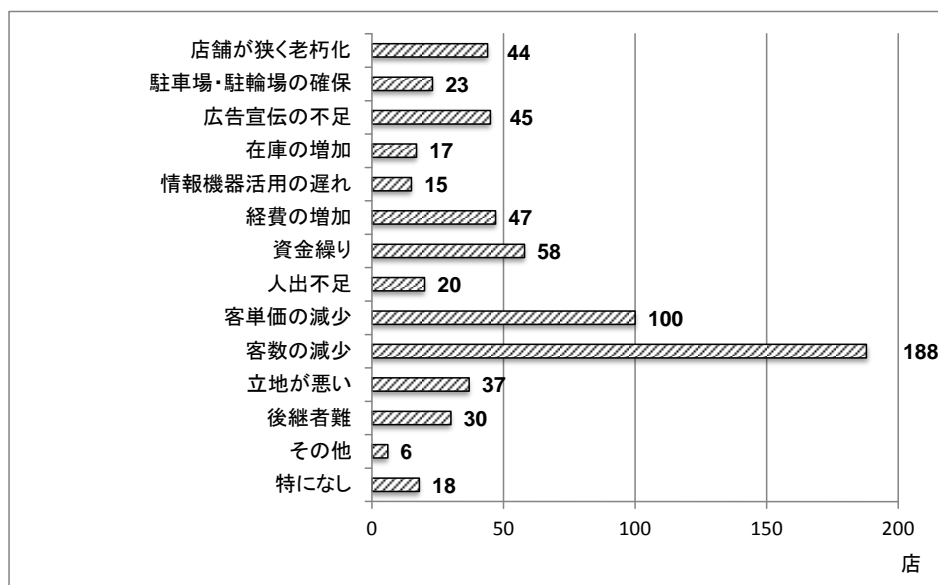
問5 現在抱えている経営上の問題点は何ですか。(複数回答)

●外部経営環境面



外部環境における経営上の問題点として、「景気低迷」が最も多く、次いで「消費者意識の変化」「安売り専門店の影響」という回答が続く。

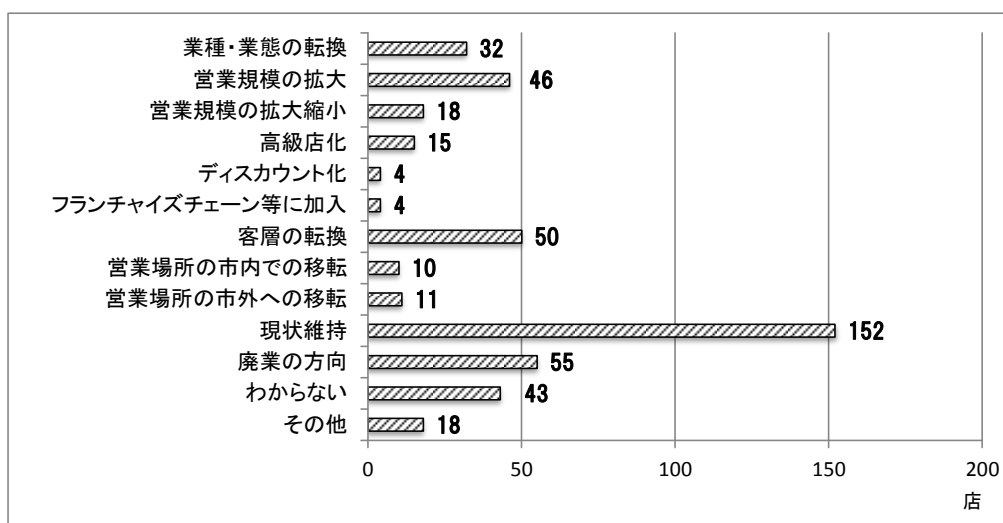
●内部経営環境面



内部環境における経営上の問題点として、「客数の減少」が最も多く、次いで「客単価の減少」「資金繰り」という回答が続いた。

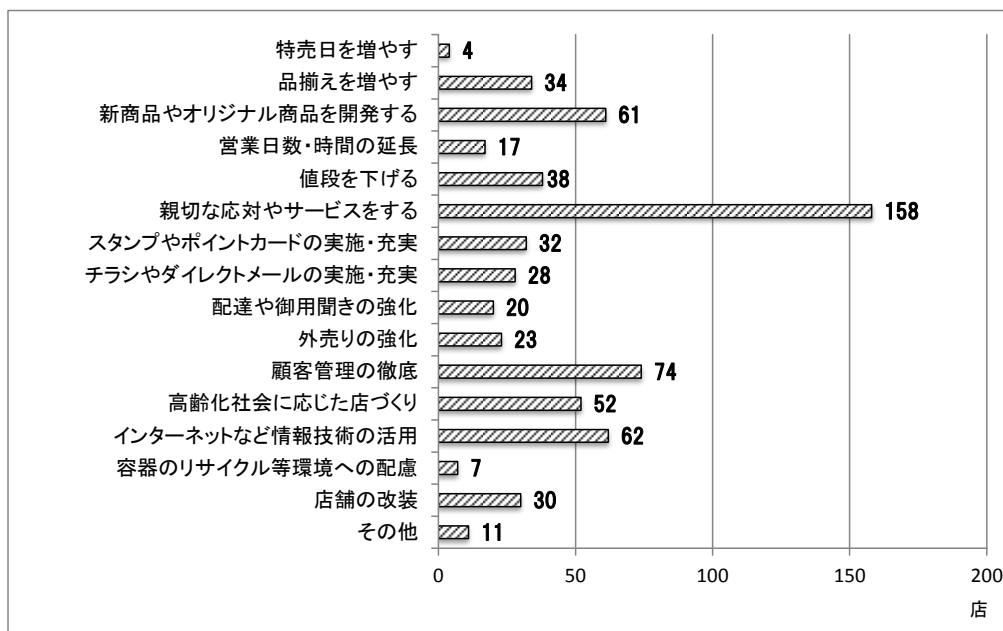


問6 今後の経営方針についてどのようにお考えですか。(複数回答)



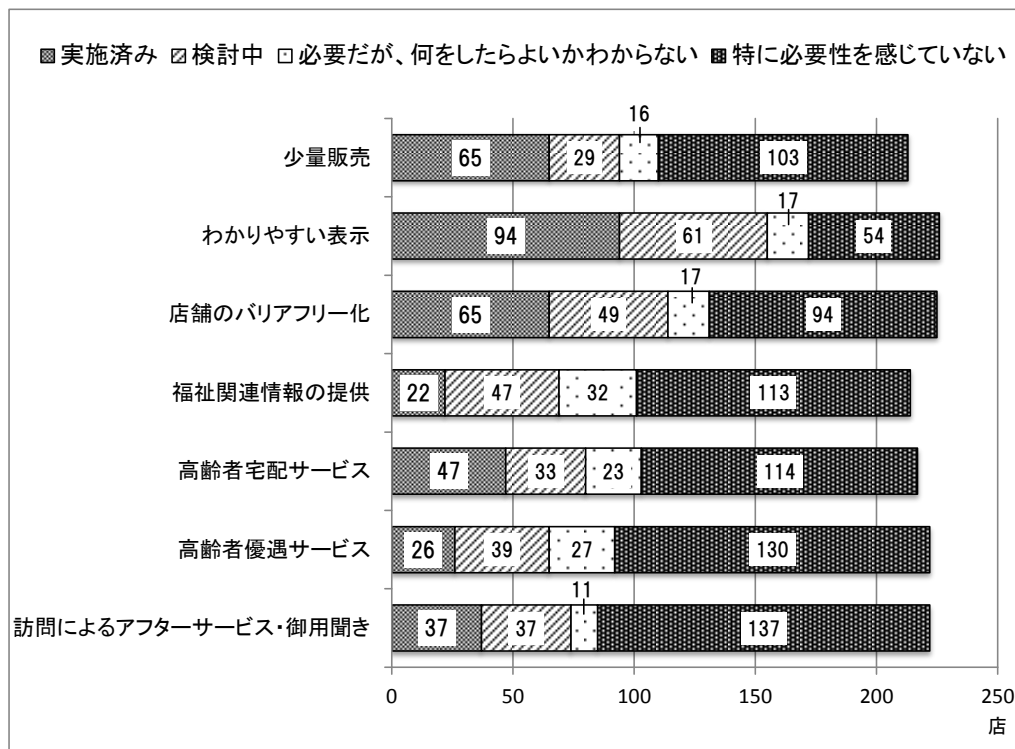
問5の問題点を受け、今後の経営方針について質問したところ、「現状維持」と回答する事業者が最も多かった。次いで「廃業の方向」「客層の転換」などの回答があった。

問7 販売促進のために必要と思われることは何ですか。(複数回答)



販売促進のためには、「親切的な対応やサービスをする」と回答した事業者が最も多く、次いで「顧客管理の徹底」「インターネットなどの情報技術の活用」「新商品やオリジナル商品の開発」という回答が多かった。

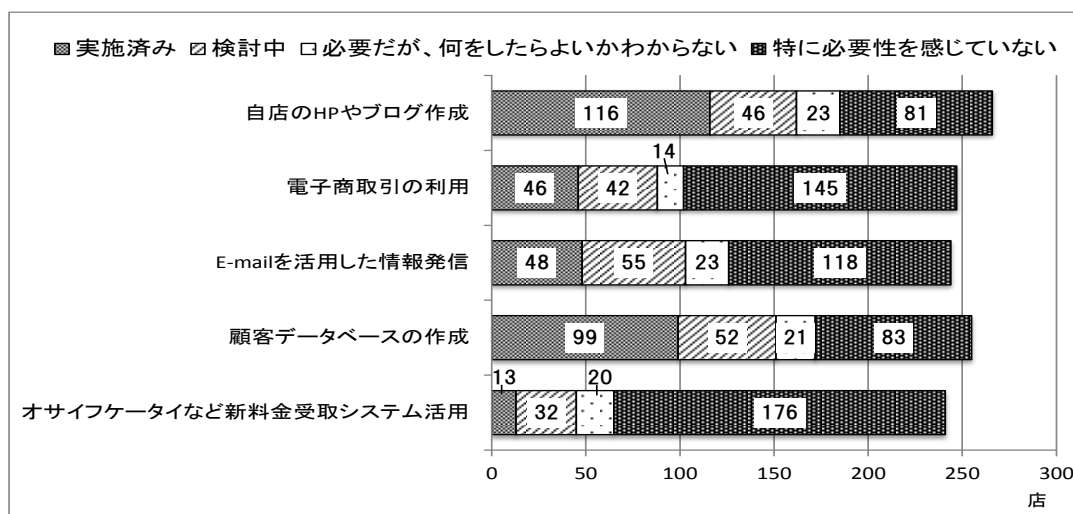
問8 高齢者に対するサービスの充実について、どのような取り組みを実施していますか。



高齢者に対するサービスについては、「特に必要性を感じない」という回答が多く見受けられるが、業種によってサービス内容が異なるため、「必要性を感じない」は、「業種の特性上、難しい」と読み替えることが望ましい。

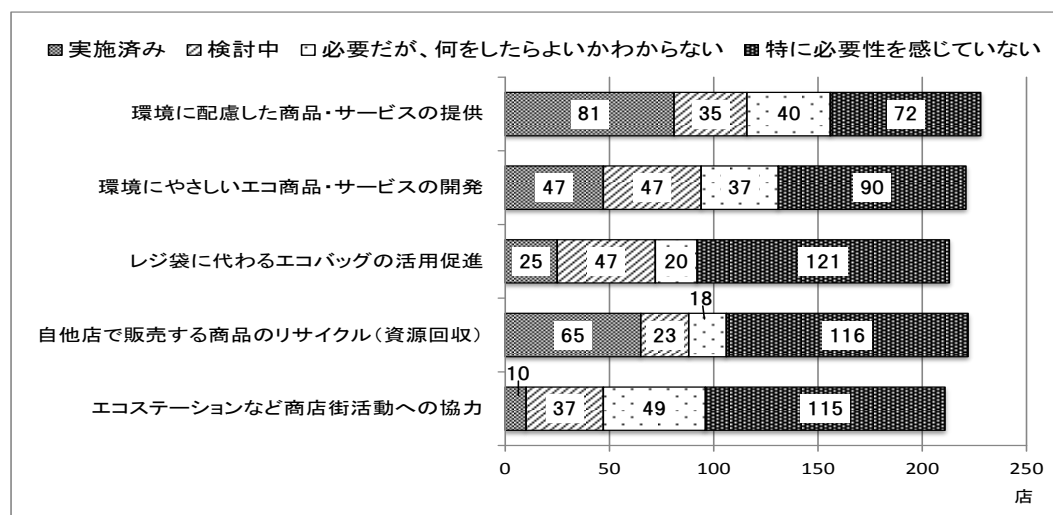
「わかりやすい表示」「バリアフリー化」「少量販売」については、実施済みまたは検討中としている事業者が多く、比較的取り組みが進んでいる。他方、「福祉関連情報の提供」「高齢者宅配サービス」「高齢者優遇サービス」「訪問によるアフターサービス・御用聞き」については、「特に必要性を感じない」としている事業者が半数を超えている。

問9 情報技術を活かした取り組みを実施されていますか。



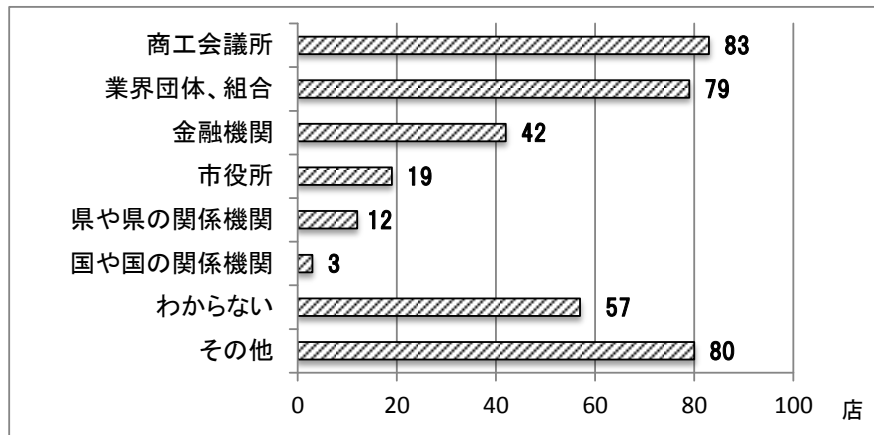
情報技術を活かした取り組みについては、「自店のHPやブログ作成」「顧客データベースの作成」を実施済みまたは検討中と回答する事業者が多かった。一方、「電子商取引の利用」「E-mailを活用した情報発信」「新料金受取システム活用」などは、「特に必要性を感じない」とする事業者が多い。

問10 循環型社会への対応として、どのような取り組みを実施していますか。



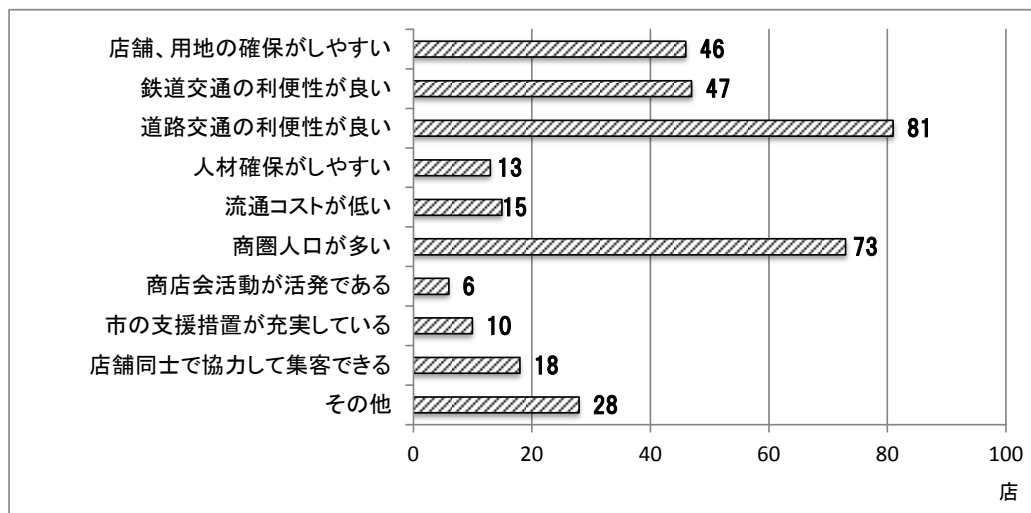
循環型社会への対応として、「環境に配慮した商品・サービスの提供」「自他店で販売する商品のリサイクル(資源回収)」について、実施済みまたは検討中と回答している事業者が多い。また、「環境にやさしいエコ商品・サービスの開発」や「エコバッグの活用促進」を検討している事業者も多い。一方、いずれの項目においても、「必要だが何をしたらよいかわからない」と回答している事業者が多い。

問 11 経営上で、専門的な問題や相談事が発生した場合、主な相談相手としては、どこに行かれますか。(複数回答)



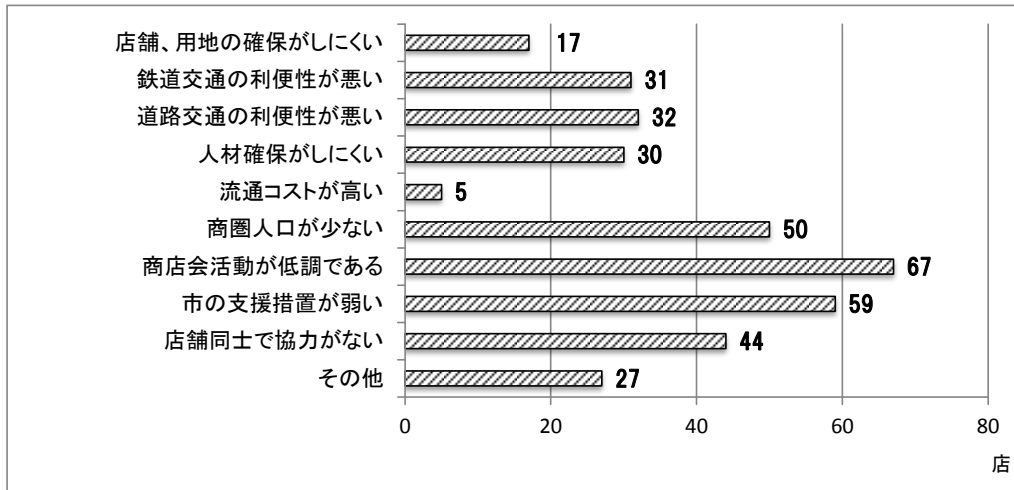
相談相手先として、最も多いのは「商工会議所」で、「業界団体、組合」「金融機関」と続いている。「その他」には、税理士と回答する事業者が多い。

問 12 本市で事業を営む上で、良いと思われる点は何ですか。(複数回答)



上尾市で事業を営むメリットとして、「道路交通の利便性が良い」「商圈人口が多い」という回答が多かった。また、「店舗、用地の確保がしやすい」「鉄道交通の利便性が良い」という回答も多い。

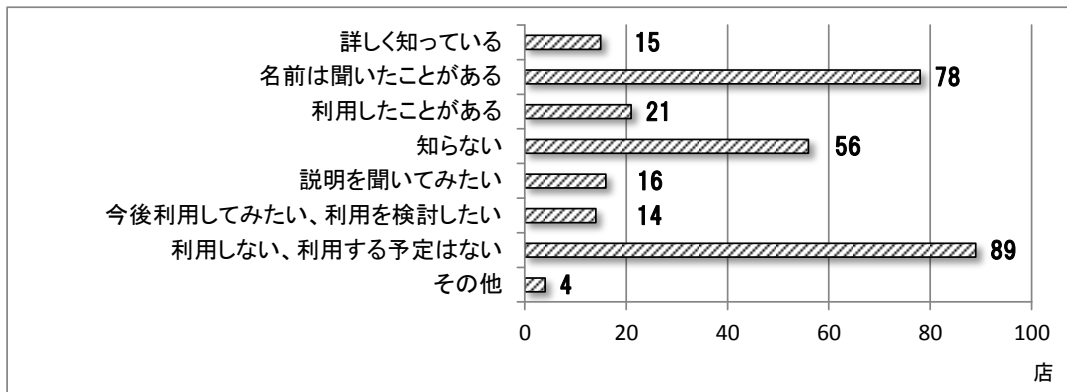
問 13 本市で事業を営む上で、問題と思われる点は何ですか。(複数回答)



上尾市で事業を営む上での問題点として、「商店会活動が低調である」「市の支援措置が弱い」「商圈人口が少ない」という回答が多かった。

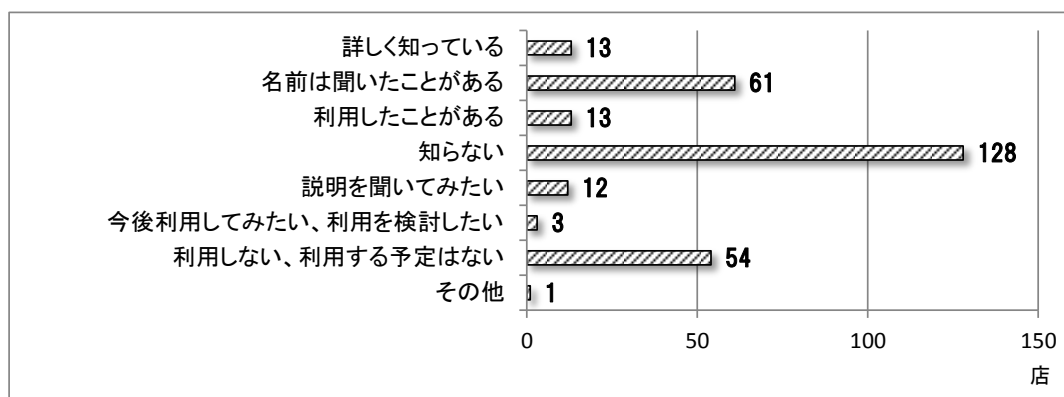
問 14 本市が実施している次の支援制度についてお聞きます。

●上尾市中小企業融資制度について



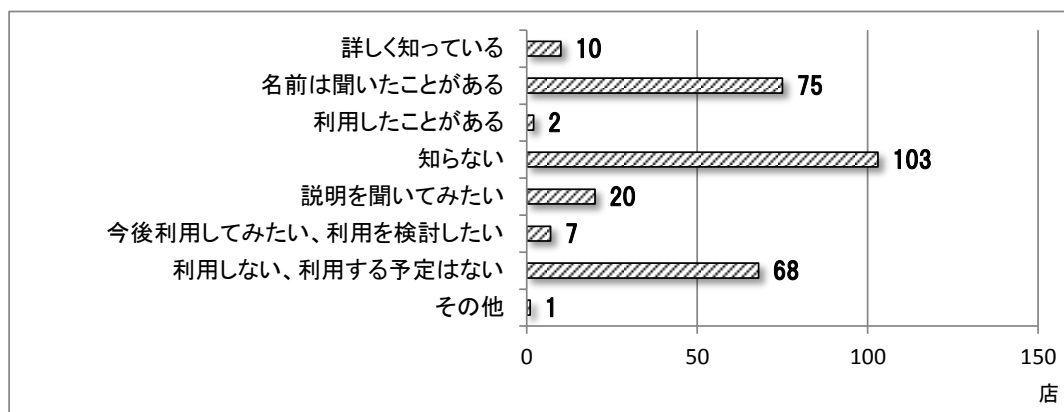
上尾市中小企業融資制度について、「利用しない、利用する予定はない」と回答した事業者が多かったが、約半数の事業者が「名前は聞いたことがある」「知らない」と回答している。

●セーフティネット保証制度について



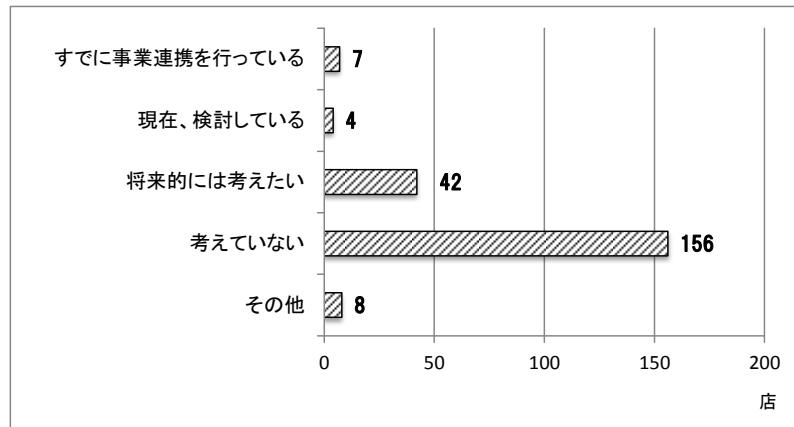
セーフティネット保証制度については、「知らない」と回答した事業者が半分を占めている。次いで、「利用しない、利用する予定はない」との回答数が多い。

●中小企業経営相談窓口（よろず相談所）について



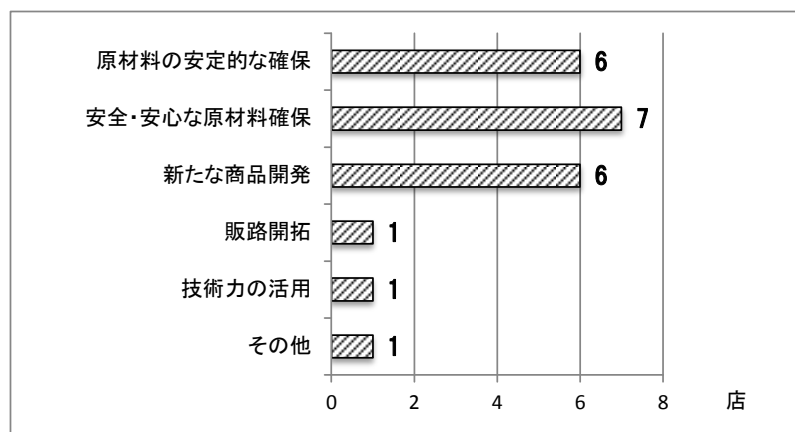
中小企業経営相談窓口（よろず相談所）については、「知らない」と回答した事業者が多かったが、「名前は聞いたことがある」「利用しない、利用する予定はない」と回答している事業者も多くみられる。

問 15 農業や工業との事業連携について、どのようにお考えですか。



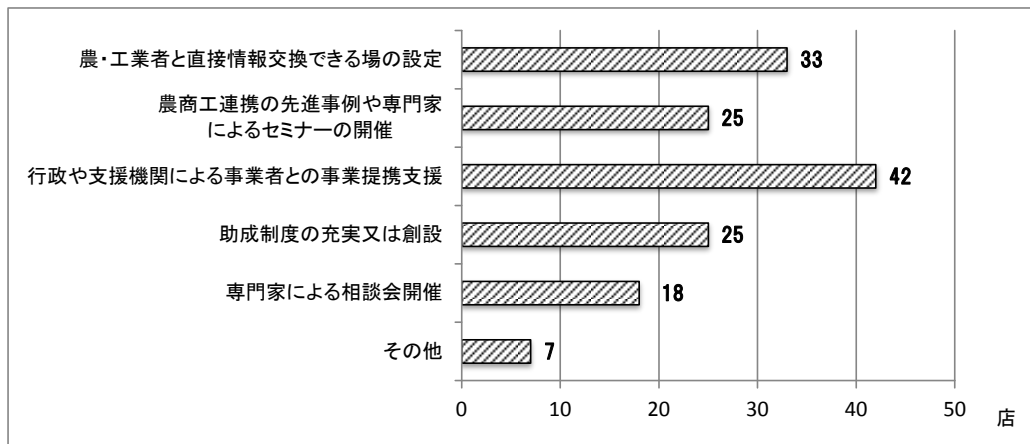
農業や工業との事業連携について、「すでに事業連携を行っている」「現在、検討している」という事業者は、ごくわずかであった。現在のところ、「考えていない」と回答した事業者が7割を超えている一方で、「将来的には考えたい」とする事業者が約2割である。

問 16 前問で「すでに連携を行っている又は現在検討している」と回答した方は、どのような連携を行って（検討して）いますか。



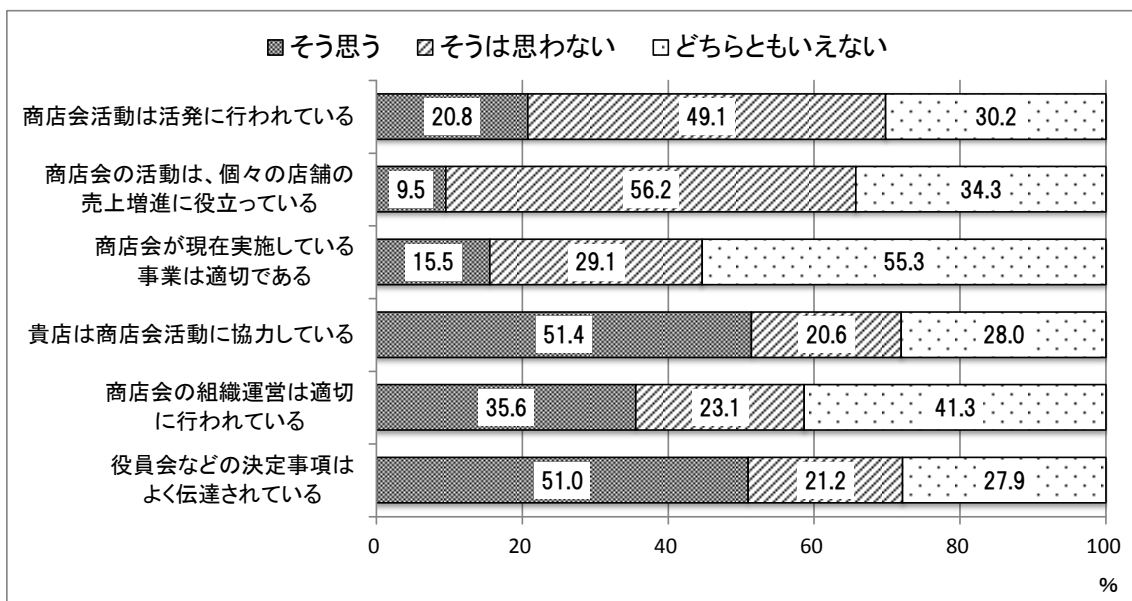
問 15 で「すでに事業連携を行っている」、「現在、検討している」と回答した事業者を対象に、どのような連携を行っている（検討している）かたずねたところ、「安全・安心な原材料確保」が最も多く、次いで「原材料の安定的な確保」、「新たな商品開発」となっている。

問 17 農業や工業と事業連携を進めるにあたって、必要と思われる支援は何ですか。



「行政や支援機関による事業者との事業提携支援」「農・工業者と直接情報交換できる場の設定」などが必要だとする回答が多い。

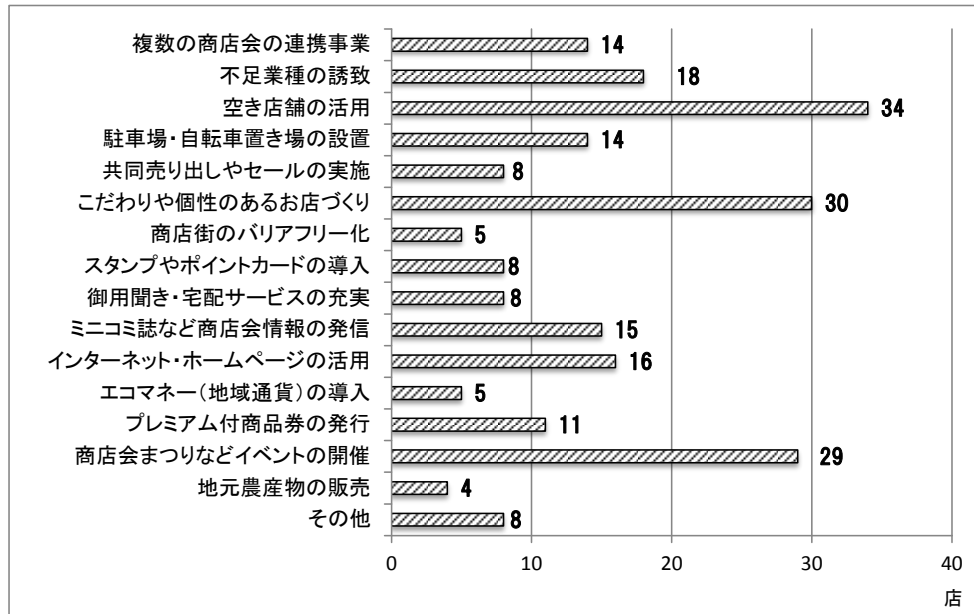
問 18 貴店の所属する商店会の運営についてお聞きします。(商店会に加入する方のみ回答)



商店会活動について、「活動が活発に行われている」「売上増進に役立っている」との問いに、「そうは思わない」と回答した事業者が多い。しかし、「商店会活動に協力している」「商店会の組織運営は適切に行われている」「決定事項はよく伝達されている」との問いには、「そう思う」と回答した事業者が多い。

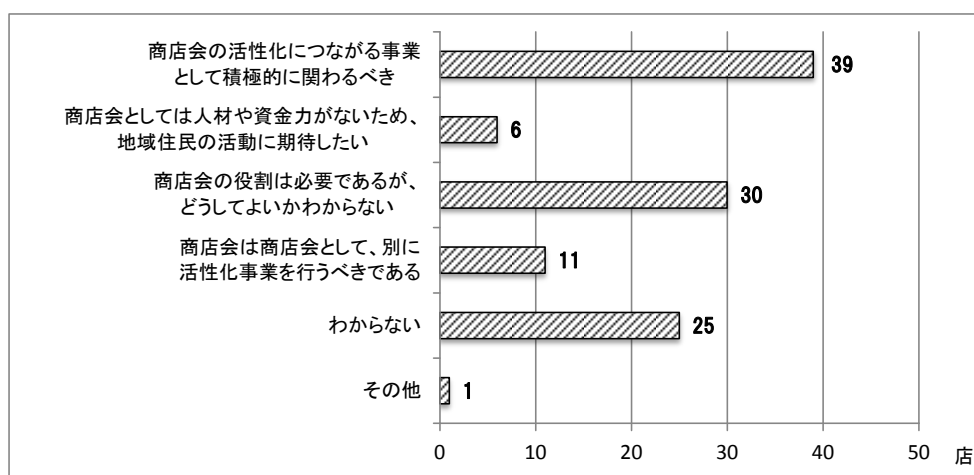


問 19 商店会で実施すると良いと思われる取り組みはどのようなものですか。  
(複数回答)



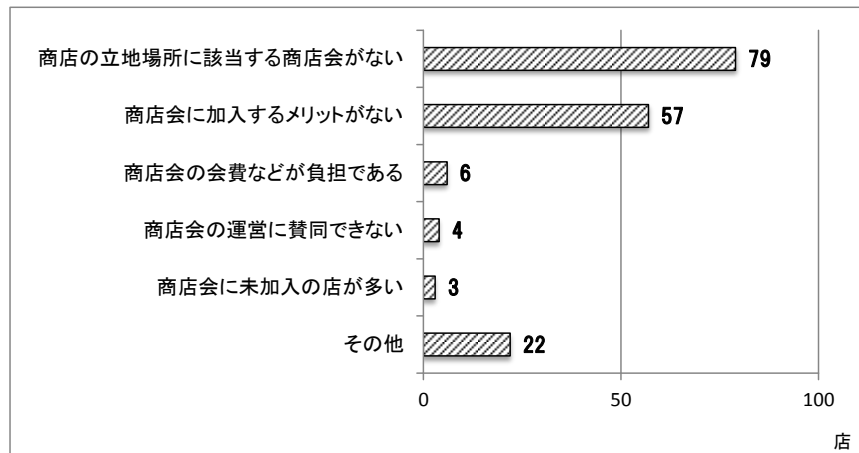
商店会で実施すると良い取り組みとして、「空き店舗の活用」が最も多く、次いで「こだわりや個性のあるお店づくり」「商店会まつりやイベントの開催」との回答が多かった。また、「不足業種の誘致」や「情報発信」という回答も多くみられる。

問 20 地域コミュニティの再生やまちづくりにおいて、商店会の役割が再認識されています。貴店では、地域住民の方と協働してまちづくりに参加することについて、どのようにお考えですか。



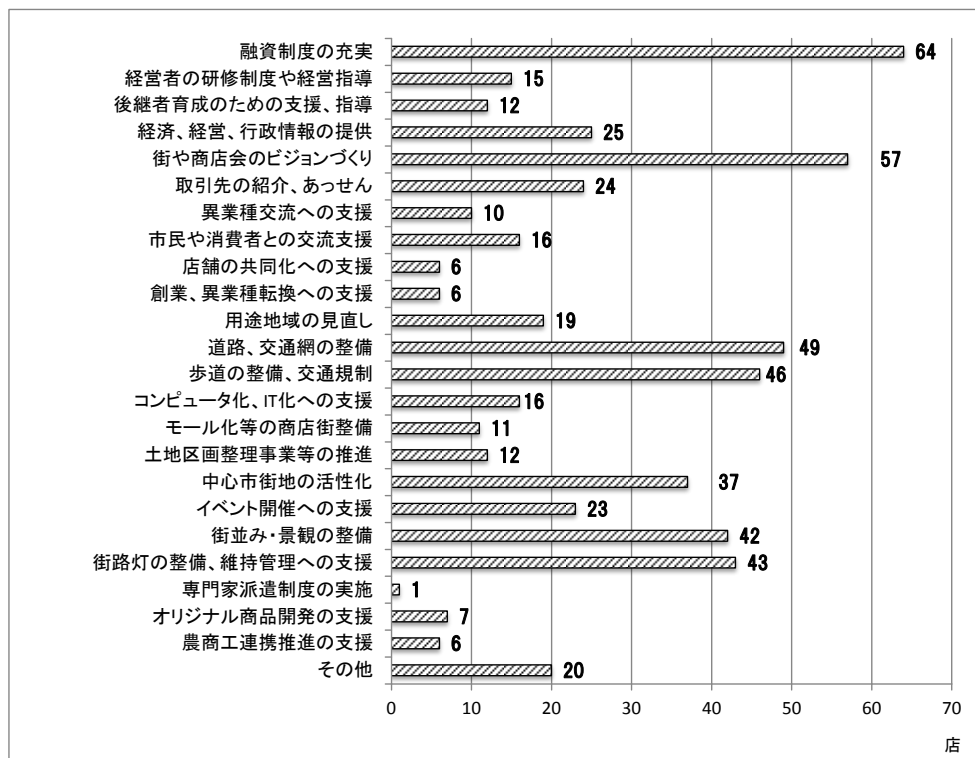
まちづくりへの参加として、「商店会の活性化につながる事業として、積極的に関わるべき」という回答が最も多かったが、「どうしてよいかわからない」という意見も多数見受けられた。

問 21 商店会に加入しないのはなぜですか。最も近いものを選んでください。



商店会に加入しない理由として、「商店の立地場所に商店会がない」という理由が最も多く、次いで「加入するメリットがない」という回答が多かった。

問 22 行政に対して期待する支援施策は何ですか。(複数回答)



行政に対して期待する支援施策として、最も回答が多かったのは「融資制度の充実」であった。次いで、「街や商店会のビジョンづくり」「道路、交通網の整備」「歩道の整備、交通規制」「街路灯整備、維持管理への支援」「街並み・景観の整備」があげられている。

問 23 その他意見（自由回答）

主な意見内容
地域・地場の商業支援が少なく、市の助成や支援、相談をもっと実践的に受けたいが、方法がわからない。
市と小規模経営者が近い位置にあり、経済が低迷しても頑張っていける雰囲気づくり、情報提供、交流をお願いしたい。
上尾市の商店会を今後どう盛り上げていくのか、ビジョンが伝わってこないなので、明確に伝えてほしい。
上尾バイパスの整備促進を。
ハコモロ行政をやめ、歩道の整備・バリアフリーや高齢者の交通手段の確保などに力を入れてほしい。
街区、道路等の公共の部分について、景観の浄化を！路面に並ぶ商店、商業施設の経営者や管理者も、小奇麗な街を創造してほしい。
郊外型大型ショッピングセンターの出店規制をするべき。
上尾駅周辺は、上尾の顔であり、活気のない駅前では、上尾の魅力がなくなるのでは。
上尾市で買い物をするより、近隣のショッピングモールで買い物をするケースが増えている。上尾にショッピングモールがないのは、いかがなものか？
上尾は特徴のない市といわれているが、大型店があつて住みやすく、生活するには便利で、世代を問わず、消費者は大型食品スーパー・家電量販店・ホームセンターに行く。
市内でお金を回して、市内にお金がうるおうまちづくりを目指してほしい。
数々の名所を活かしたまちづくり、住み良いまちづくりから、名店が生まれてくると思う。
原市は、10年前から比べると、商店がだいぶ減少して、通りに店は何軒もないが、頑張って店を開いている。街が活気づくると良いと思う。
人々が駅前に集まり、お金を使いやすくすることが、上尾駅を中心とした経済の発展につながると思う。
上尾駅東口近くにスーパーがなく不便。庶民的なスーパーを駅前開発の1・2階に入れてほしい。また、化粧品やドラッグストア、共同の駐車場や駐輪場を作ってほしい。
行政は何もしなくていい。税金の無駄。
税金を下げてほしい。
自営業者に対する税金等の優遇を。商売をやっていてよかった、と思えるような、色々な面でのメリットの充実を期待したい。（もちろん、その店での努力も必要）
融資制度をもっとゆるくしてほしい。（例えば、税金の支払いでも利用可など）
テレビ、新聞など、マスコミが取り上げるようなイベントや施設を充実させてほしい。

主な意見内容
生活型都市として大変住みやすく良いが、街の景観が古く、商店街に活気がないので、市外に消費が流出している状況だが、地域貢献できるよう、精一杯頑張りたい。
散歩しながら座るところがない。
商店会のリーダーがない。

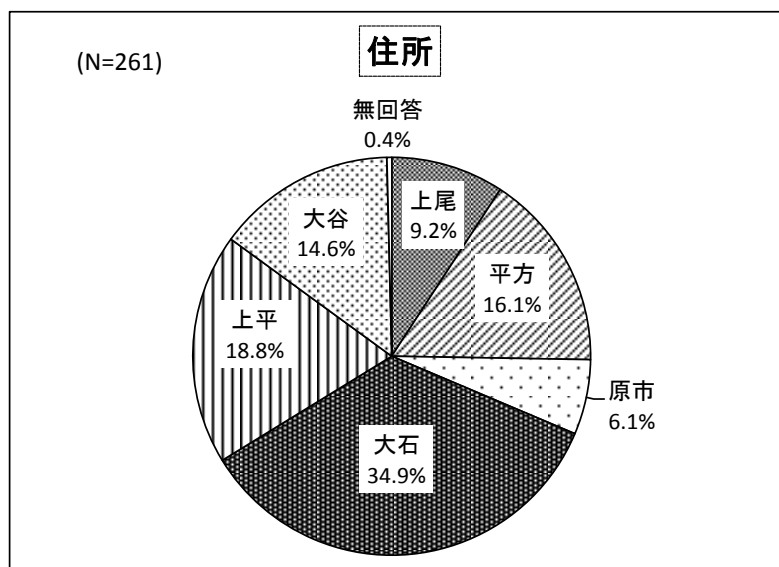
### 3 農業者意向・実態調査アンケート結果

#### (1) アンケート調査実施概要

- ① 基準日  
平成24年12月1日現在
- ② 調査方法  
郵送配布・郵送回収
- ③ 調査実施期間  
平成25年2月15日～平成25年2月25日
- ④ アンケート対象及び送付数  
農家台帳から無作為に抽出した市内農業者406件
- ⑤ 有効回答数  
261件（有効回答率：64.3%）

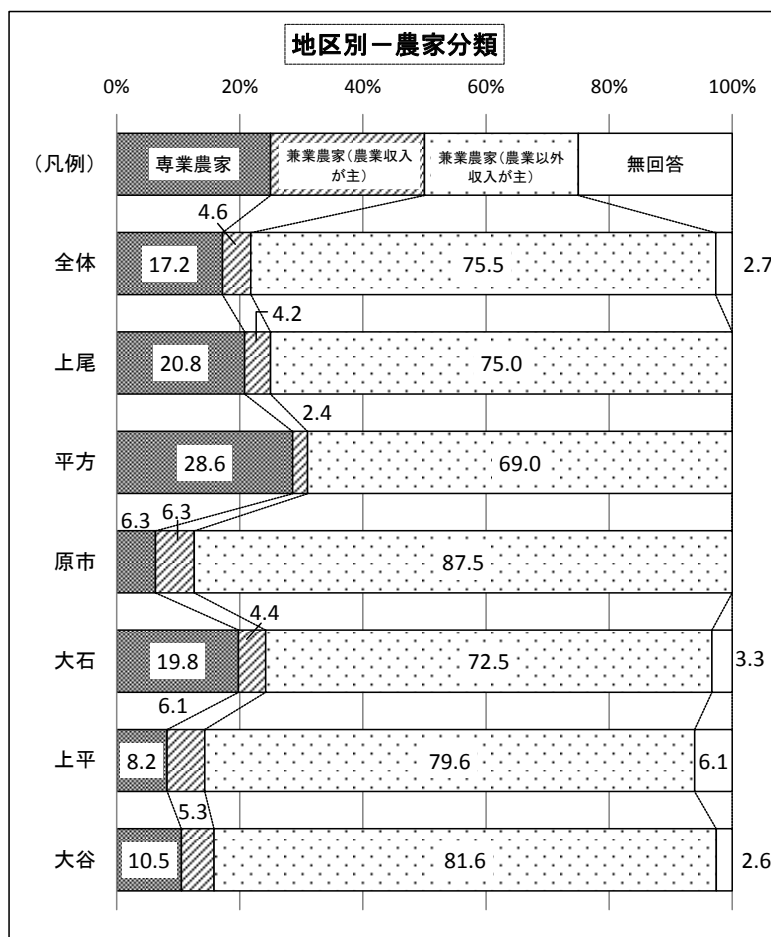
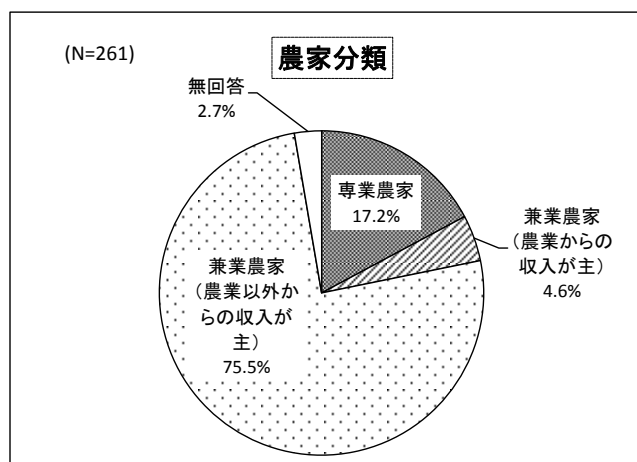
#### (2) アンケート調査結果

問1 あなたの世帯の住所はどちらですか。



最も回答が多い地区は「大石」地区で 34.9%、次いで「上平」地区 18.8%、「平方」地区 16.1%であった。

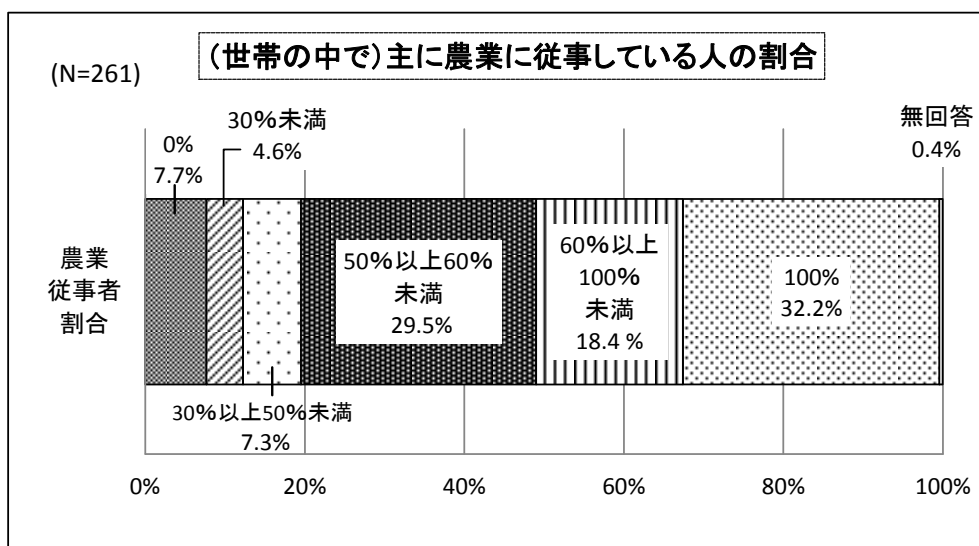
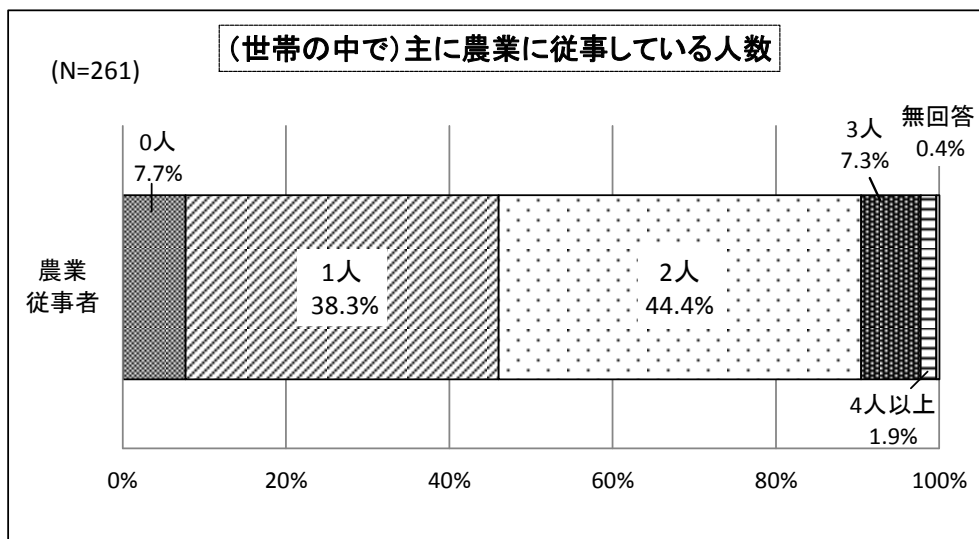
問2 あなたの世帯は、農家としてどの分類にあてはまりますか。



農家分類については、「兼業農家（農業以外からの収入が主）」が 75.5%と最も多く、約4分の3を占めている。次いで、「専業農家」17.2%となっている。

地区別にみると、「兼業農家（農業以外からの収入が主）」の割合が高かったのは、原市地区で 87.5%を占めている。一方、「専業農家」の割合が高かったのは平方地区で、28.6%を占めている。

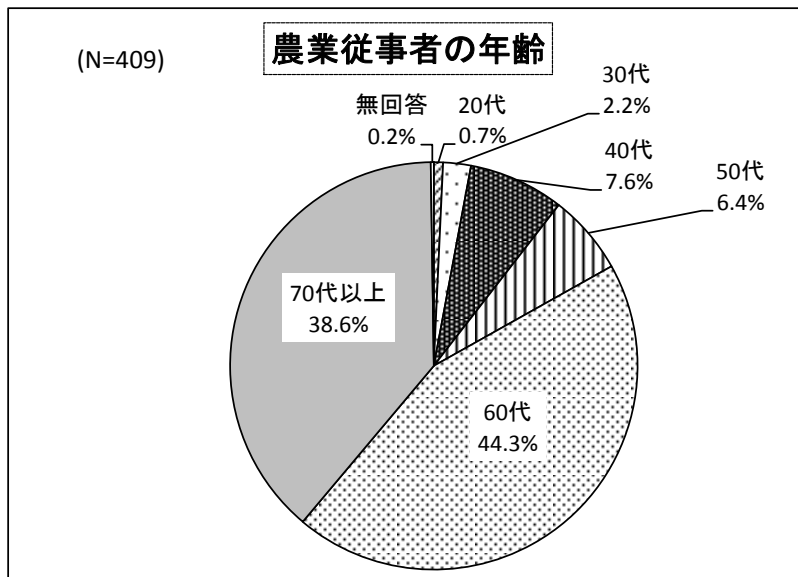
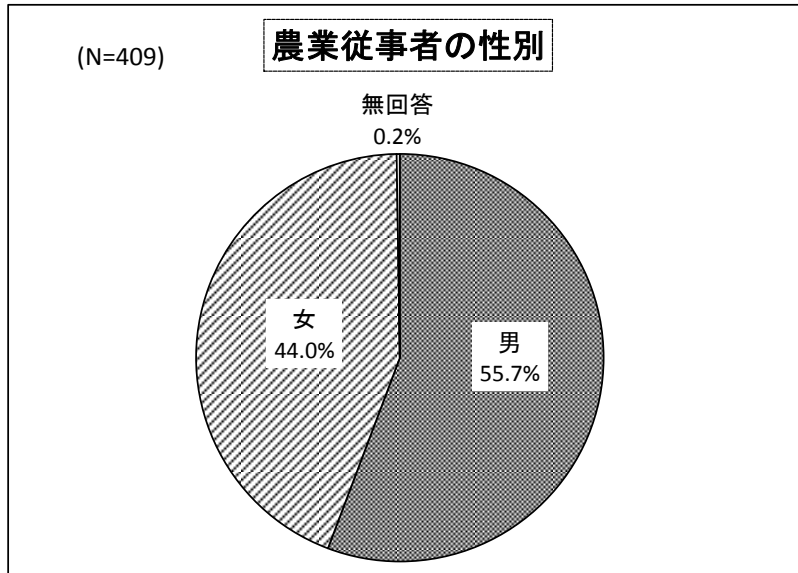
問3 あなたの世帯における農業従事者についておうかがいします。



世帯の中で主に農業に従事している人数については、「2人」という農家が最も多く、44.4%となっている。次いで、「1人」が38.3%となっている。

また、世帯の中で働いている人のうち、主に農業に従事している人の割合についてみると、「100%」が最も多く32.2%、次いで「50%以上60%未満」が29.5%となっている。

問4 あなたの世帯の中で、主に農業に従事されている方の性別と年齢について教えてください。

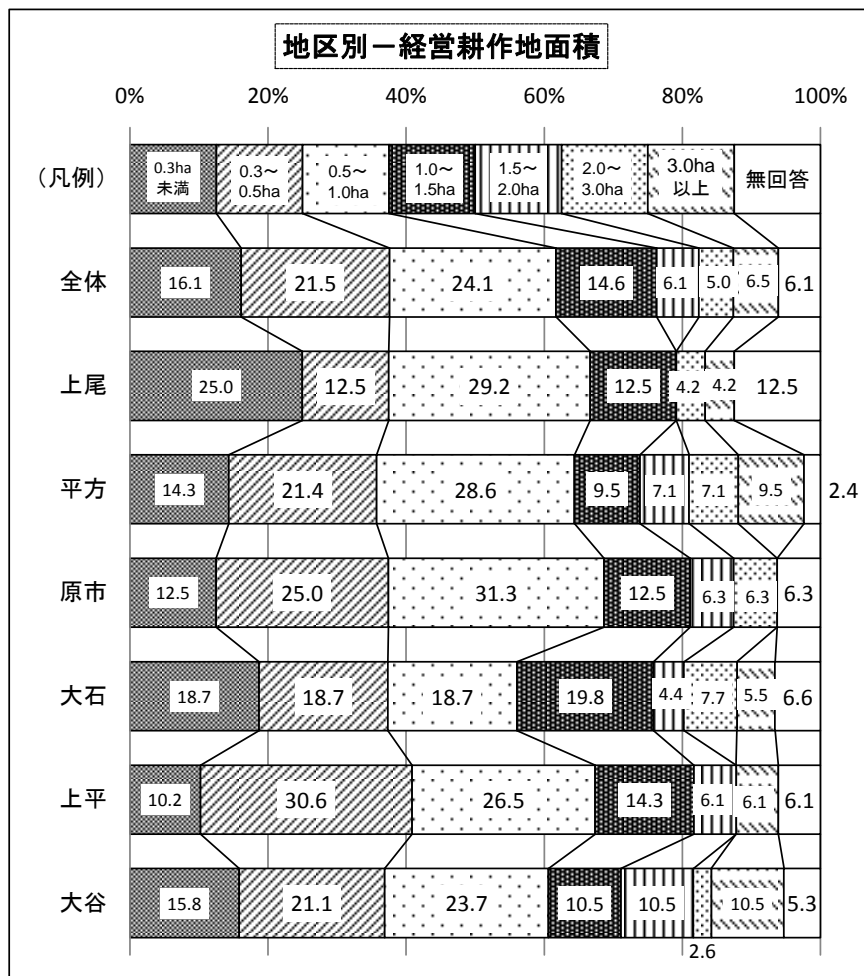
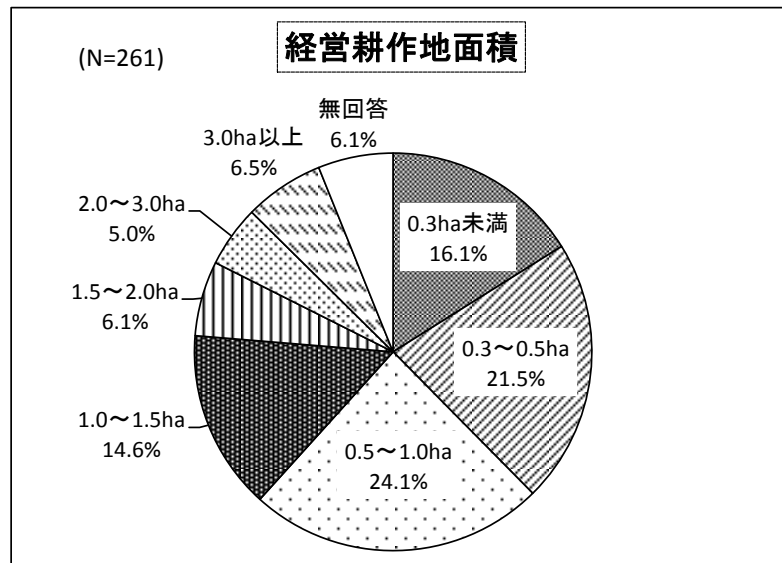


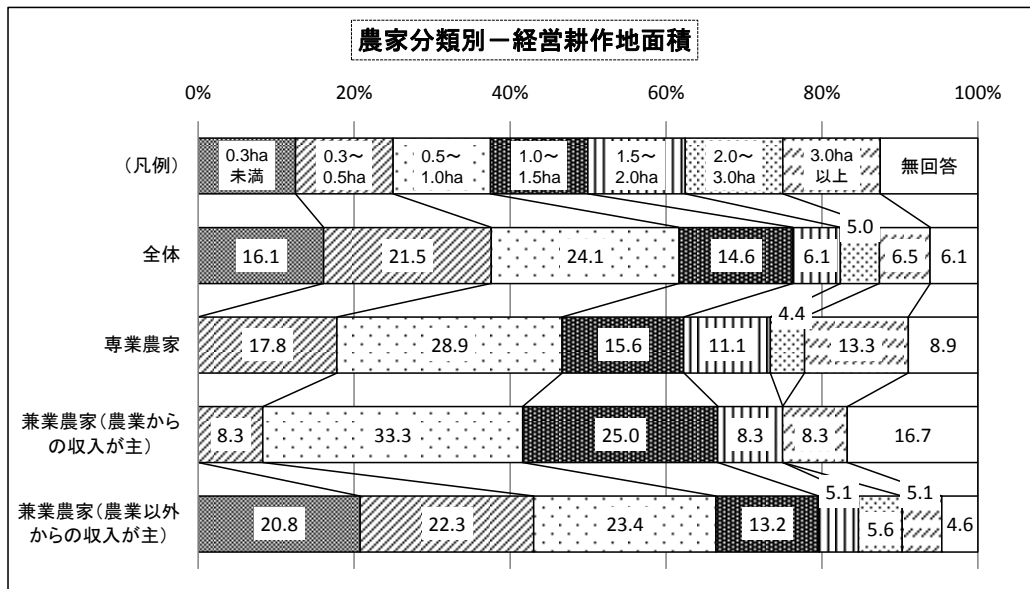
主に農業に従事している人の性別については、「男」55.7%、「女」44.0%となっている。

一方、年齢については、「60代」が最も多く44.3%、次に「70代以上」が38.6%となっている。



問5 あなたの世帯の、経営耕作地の面積はどのくらいでしょうか。



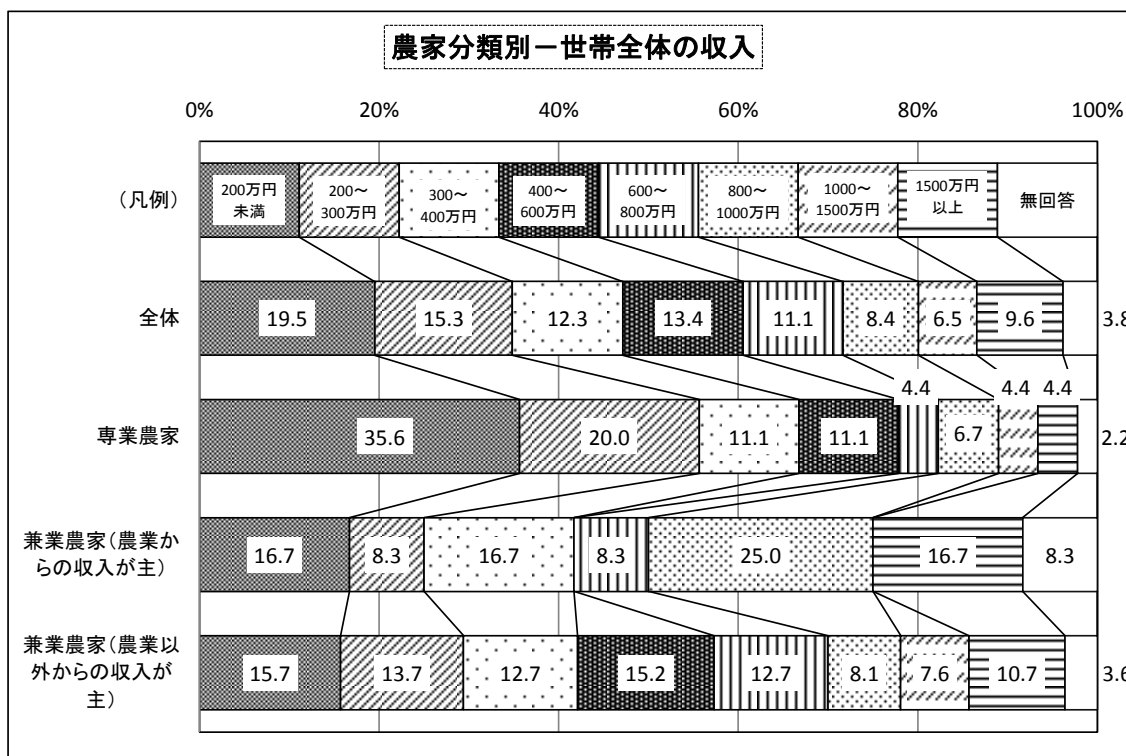
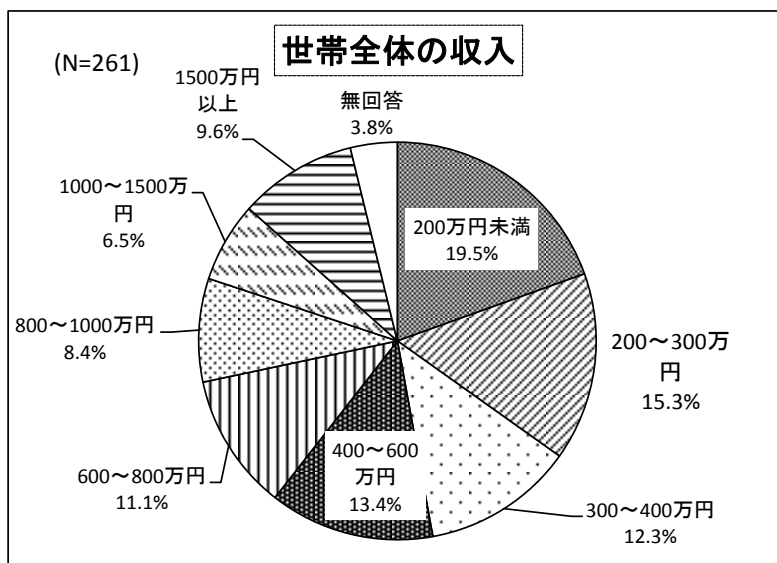


経営耕作地面積については、最も回答が多かったのは「0.5~1.0ha」の24.1%であった。次いで、「0.3~0.5ha」21.5%、「0.3ha未満」16.1%となっている。

地区別にみると、上尾地区では「0.3ha未満」が25.0%となっており、小規模な経営耕作地面積の農家他地区よりも多いことがうかがえる。一方、「3.0ha以上」の経営耕作地面積を有する農家の割合が高い地区は、大谷地区(10.5%)、平方地区(9.5%)などである。

農家分類別にみると、農業以外からの収入が主な兼業農家は「0.3ha未満」が20.8%を占めるが、専業農家及び農業からの収入が主な兼業農家では「0.3ha未満」の農家は、いずれも0%となっている。専業農家では「3.0ha以上」の経営耕作地を有する農家が13.3%となっている。

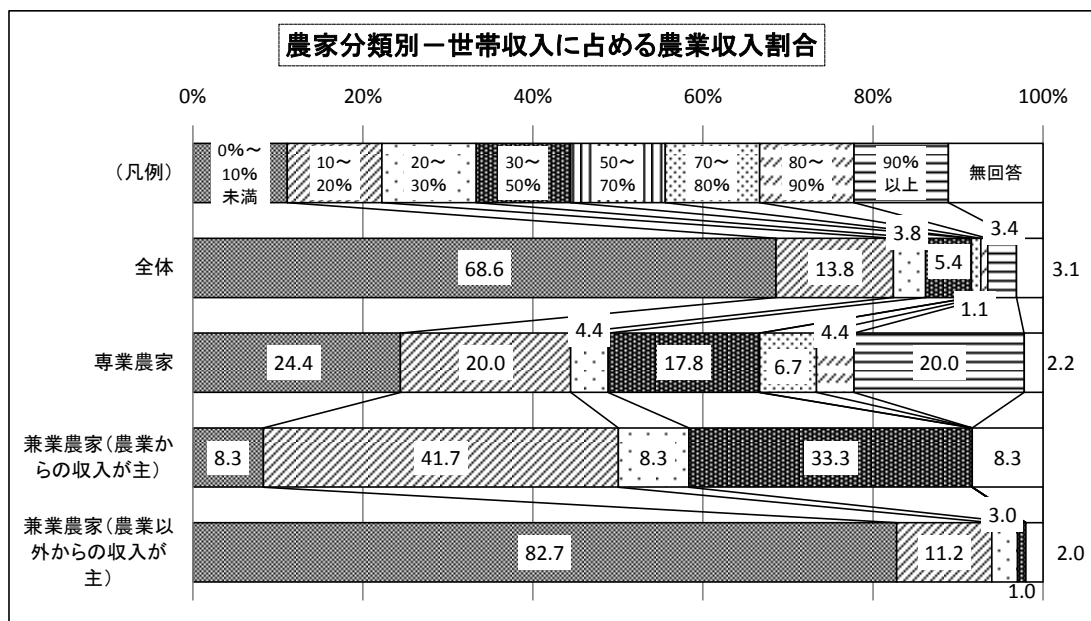
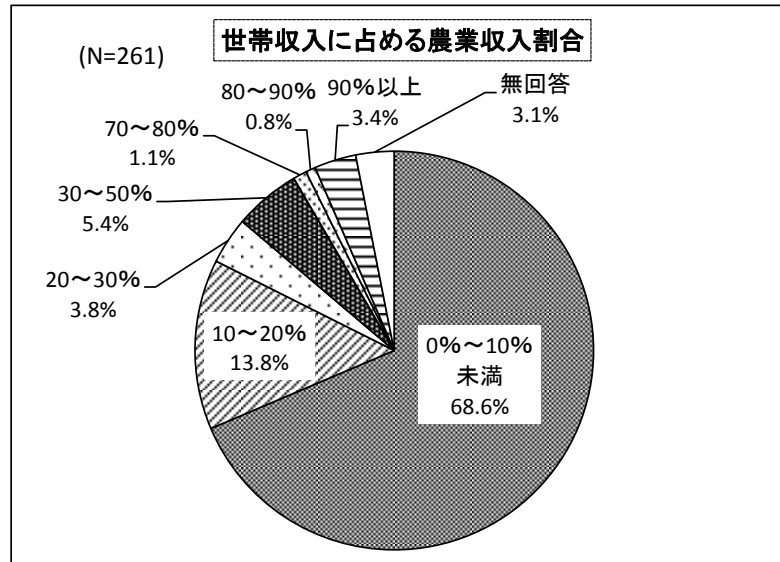
問6 あなたの世帯の、世帯全体の収入はどのくらいでしょうか。



世帯全体の収入については、「200万円未満」が最も多く、19.5%を占める。次いで「200~300万円」が15.3%となっている。

農家分類別にみると、専業農家では「200万円未満」が35.6%と最も多く、次いで「200~300万円」が20.0%となっており、収入が300万円未満の農家が過半数である。一方、兼業農家は専業農家よりも世帯全体の収入が高い傾向にあることがうかがえる。

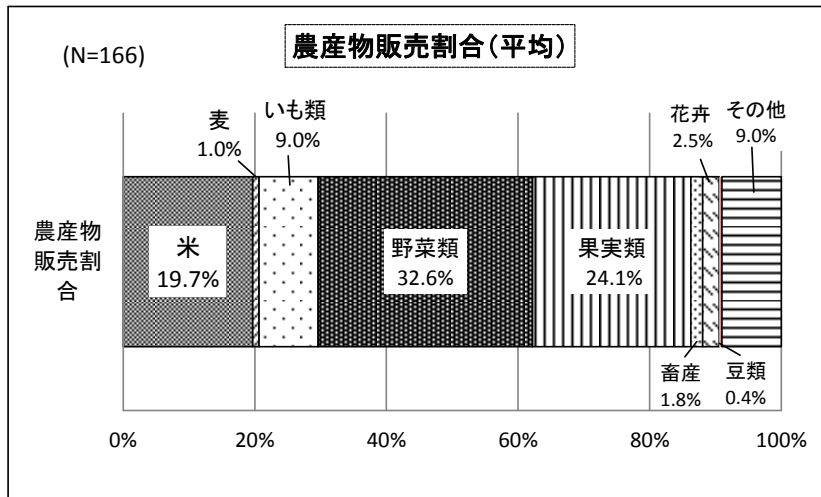
問7 あなたの世帯の、農業収入割合（世帯全体の収入を100%とした場合、農業からの収入割合）はどれくらいでしょうか。



世帯収入に占める農業収入の割合は、「0%~10%未満」の農家が68.6%と、過半数を占めている。

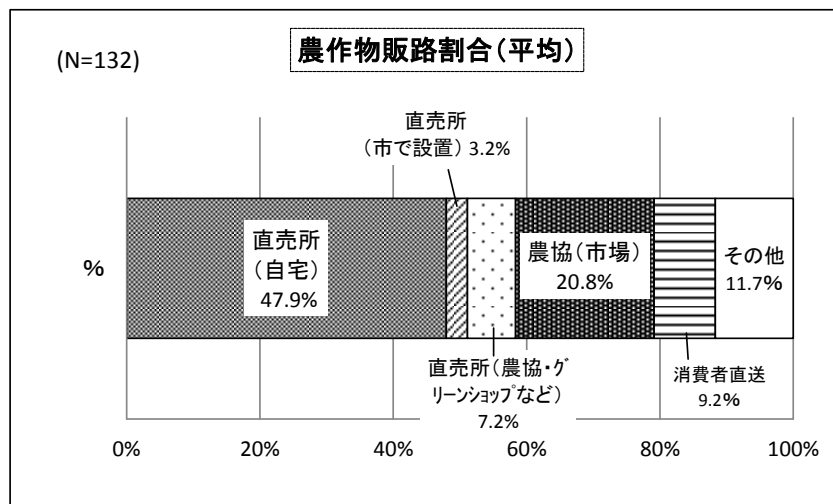
農家分類別にみると、農業以外からの収入が主な兼業農家では、「0%~10%未満」が82.7%と大半を占めている。農業からの収入が主な兼業農家でも、「0%~10%未満」が8.3%、「10~20%」が41.7%で、農業収入割合が20%未満である世帯が約半数を占めている。

問 8 あなたの世帯の、農産物販売割合は、それぞれどのくらいですか。  
(平均値をグラフ化)



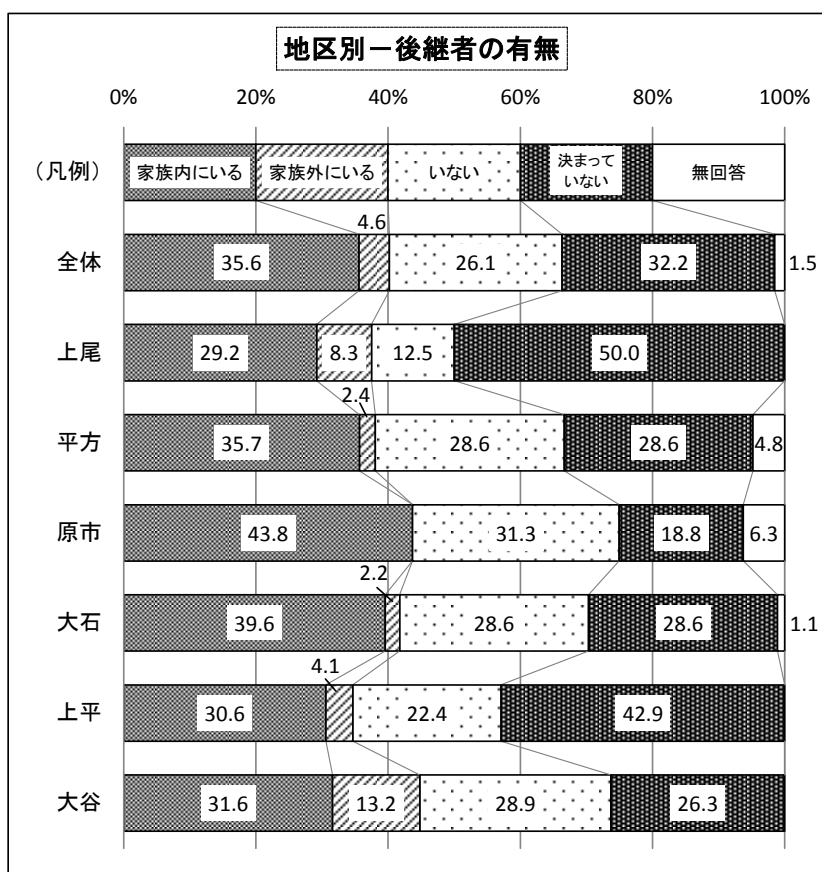
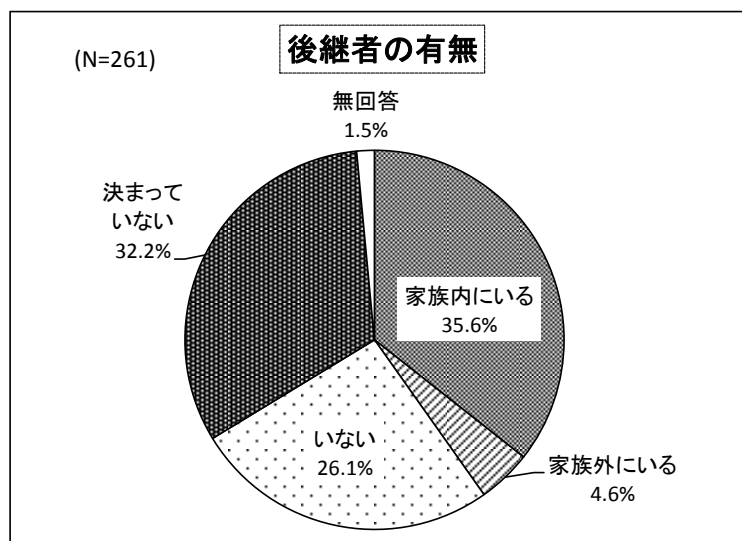
農産物販売の割合については、最も割合が高かったのは「野菜類」で 32.6%、次いで「果実類」 24.1%となっている。

問 9 あなたの世帯では、農作物はどのような販路を通じて販売していますか。  
(平均値をグラフ化)



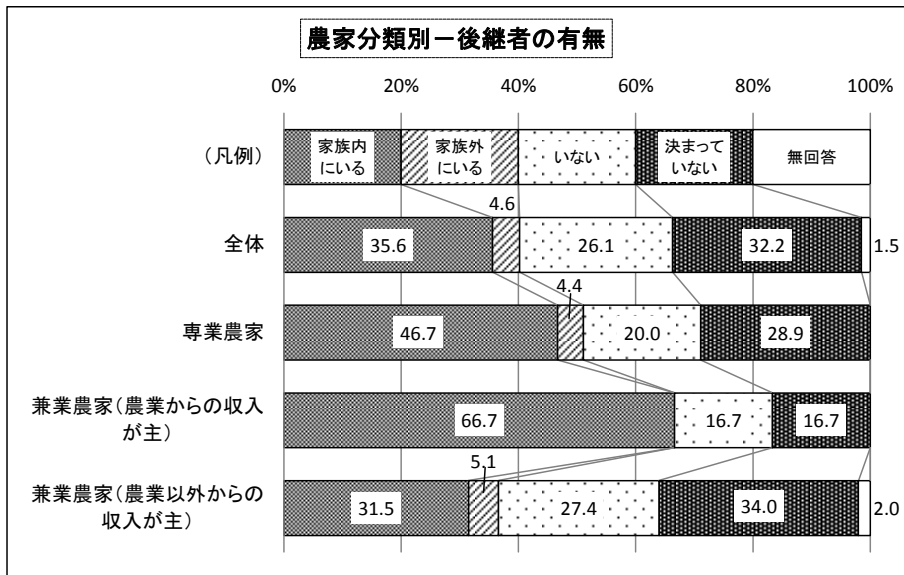
農作物の販路割合については、最も割合が高かったのは「直売所(自宅)」で 47.9%となっている。次いで、「農協(市場)」 20.8%となっている。市や農協等で設置した直売所は販路の約 1 割を占める。

問 10 あなたの世帯の、後継者の有無についてお聞きします。



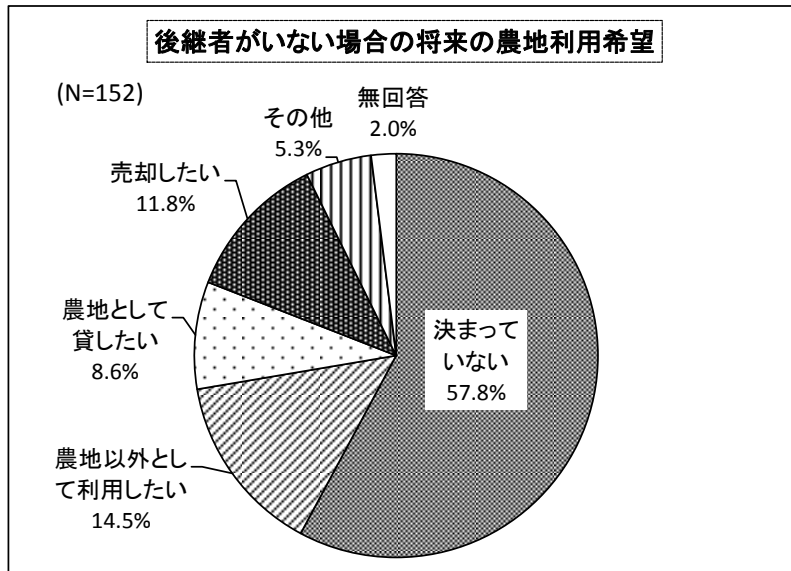
後継者については、「家族内にいる」が 35.6%、「家族外にいる」が 4.6%と、後継者が決まっている農家は約 4 割となっている。

地区別にみると、「家族内にいる」が多い地区は原市地区で 43.8%、「家族外にいる」が多い地区は大谷地区で 13.2%であった。一方、「いない」が多い地区は原市地区で 31.3%、「決まっていない」が多い地区は上尾地区で 50.0%であった。



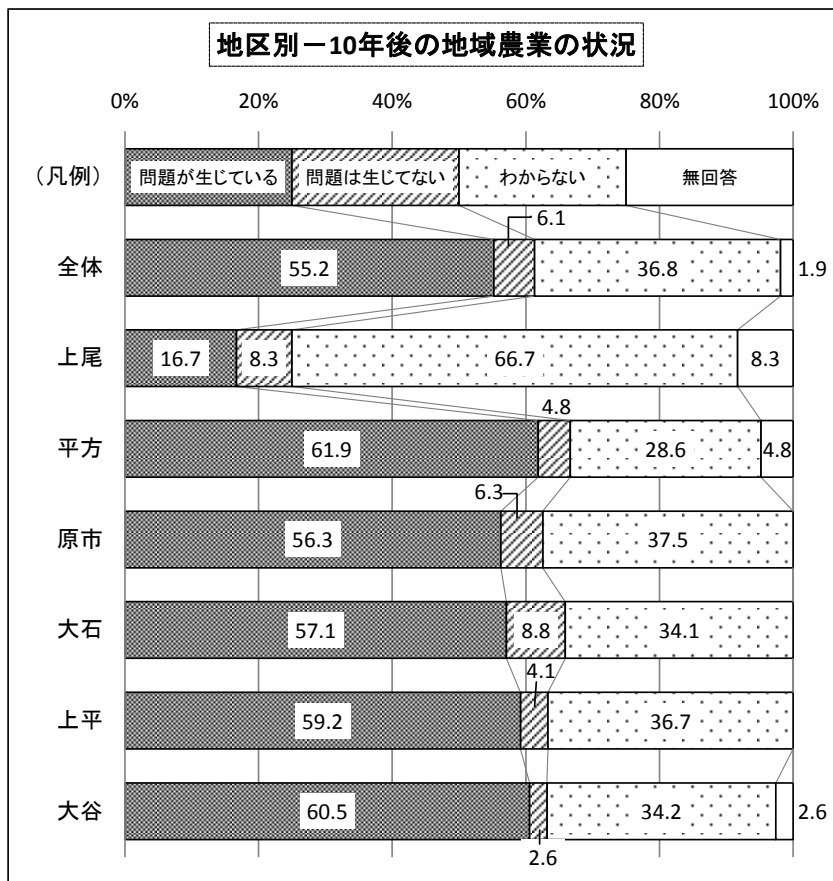
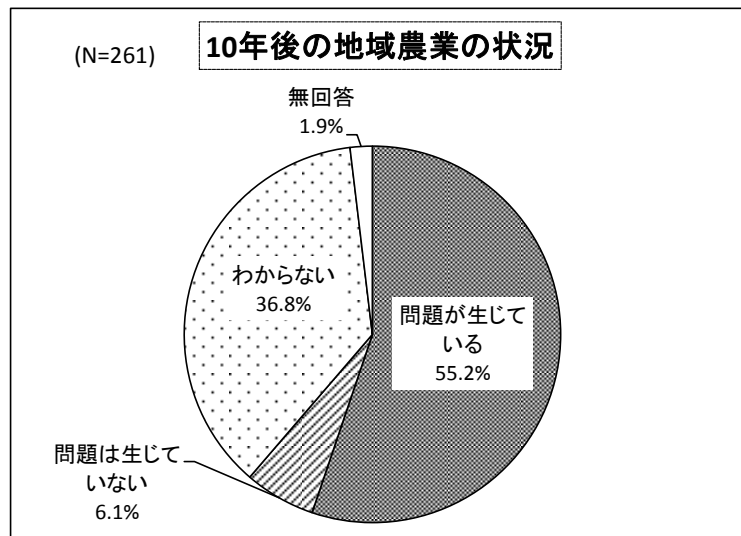
農家分類別にみると、農業からの収入が主である兼業農家では、「家族内にいる」が66.7%となっている。

問 11 (後継者は「いない」または「決まっていない」と回答した農業者のみ) 後継者が見つからない場合の将来の農地利用の希望についてお答えください。



将来の農地利用の希望については、「決まっていない」という回答が57.8%と過半数を占めた。一方、「農地として貸したい」という回答は8.6%となっている。

問 12 あなたの地域における、10年後の農業の将来について

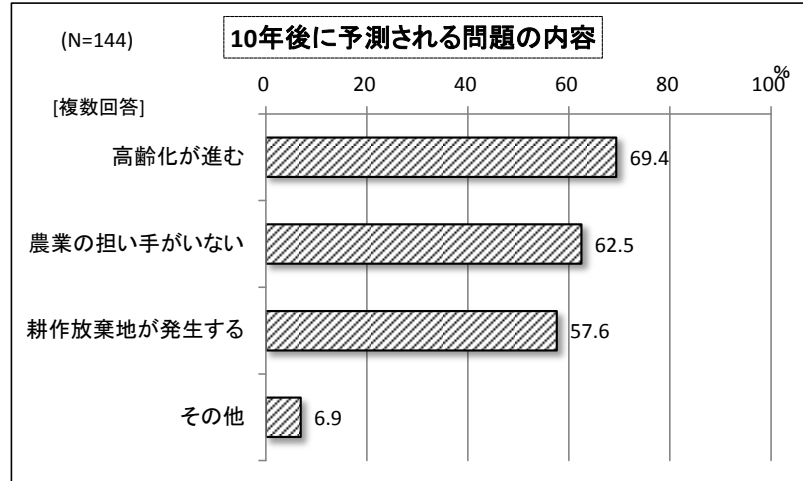


地域における 10 年後の農業の将来について、「問題が生じている」と回答した農家は 55.2%で、過半数に達している。

地区別でみると、いずれの地区も 6 割近くの農家が「問題が生じている」と回答しているが、上尾地区では「わからない」が 66.7%となっている。

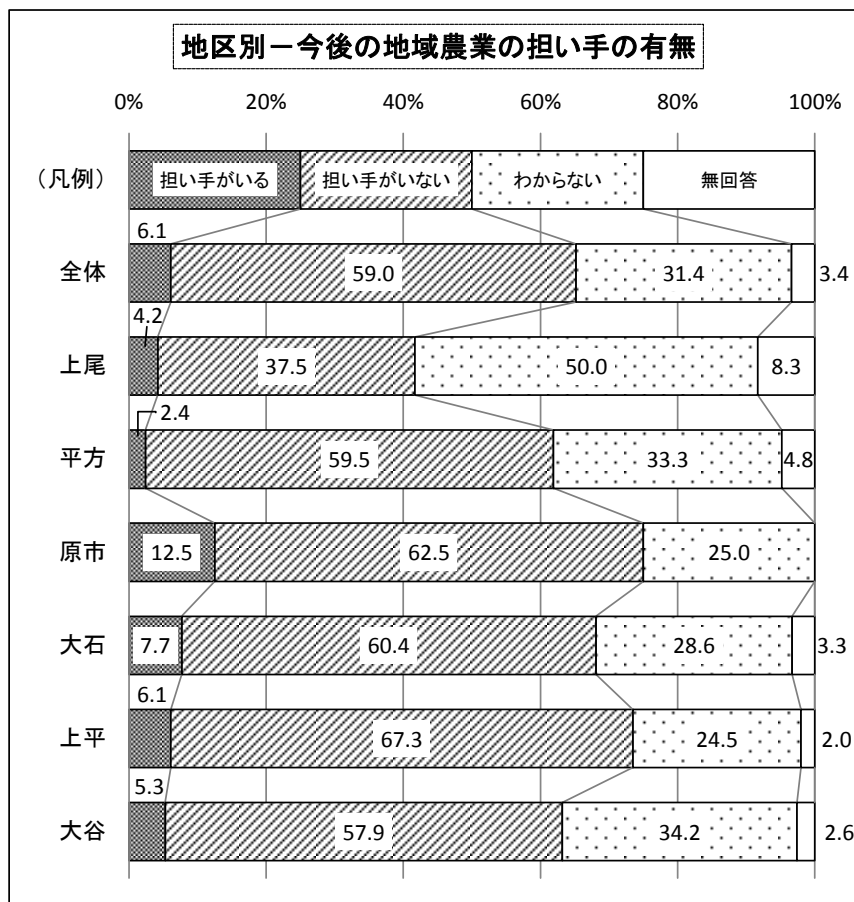
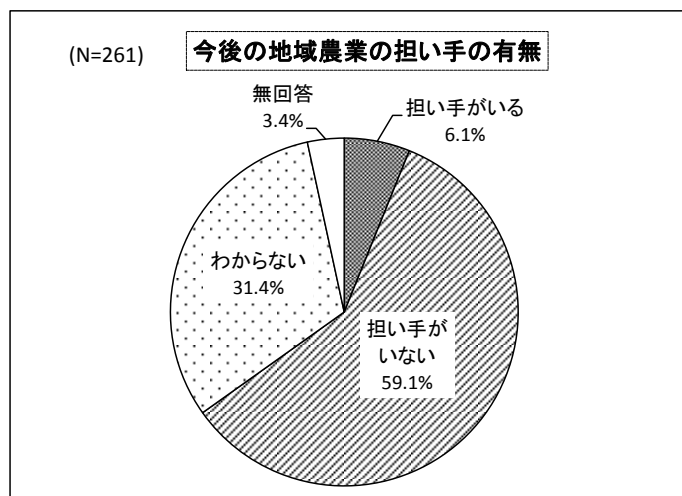


問 12-2 「問題が生じている」と回答した農業者のみ) どのような問題が生じていると思いますか。(複数回答)



具体的な問題の内容としては、「高齢化が進む」と予測している人が 69.4%と、約 7 割にのぼった。また、「農業の担い手がいない」(62.5%)、「耕作放棄地が発生する」(57.6%)など、いずれも過半数の回答率となった。

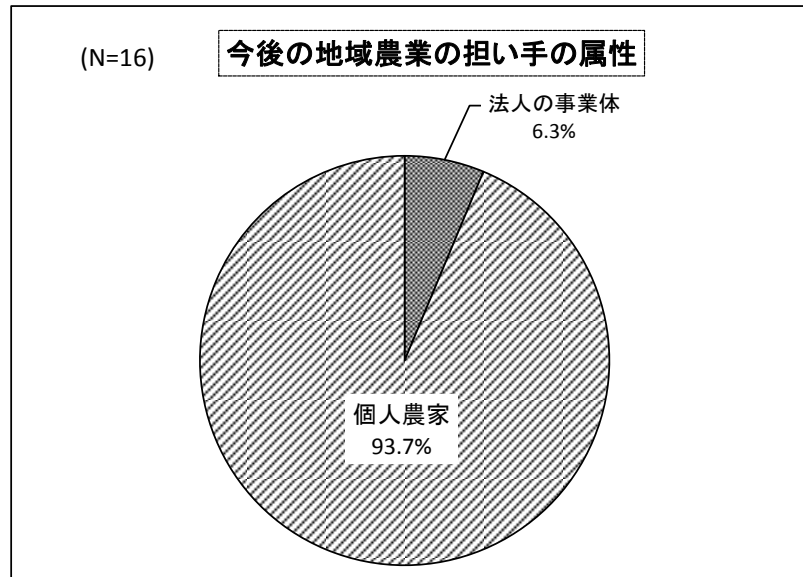
問 13 あなたの地域に、今後の地域農業の中心となる担い手がありますか。



今後の地域農業の担い手について、「担い手がある」は 6.1%と、1割未満にとどまっている。一方、「担い手がない」という回答は 59.1%と、約6割を占めている。

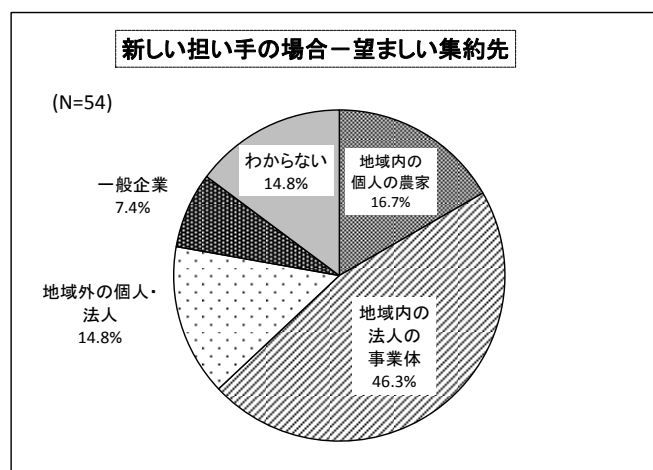
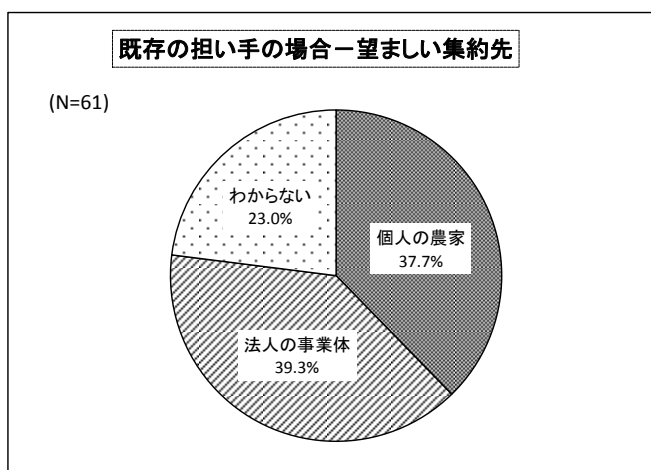
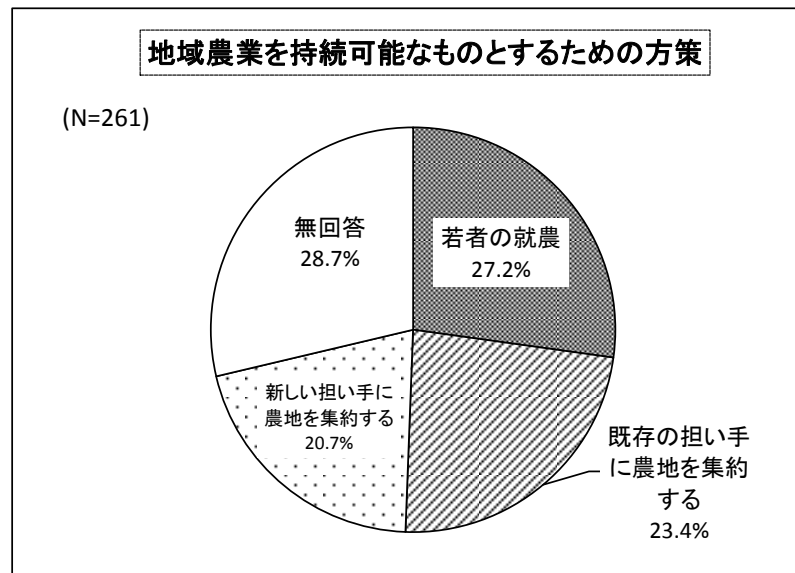
地区別にみると、原市地区では「担い手がある」という回答が 12.5%と、他地区と比較してやや高い割合である。

問 13-2 「担い手がいる」と回答した農業者のみ）地域農業の担い手はどのようなものですか。



地域農業の担い手としては、「個人農家」との回答が 93.7%と、大部分を占めている。

問 14 地域の農業を持続可能なものとするために、今後どうしたらよいと思いますか。

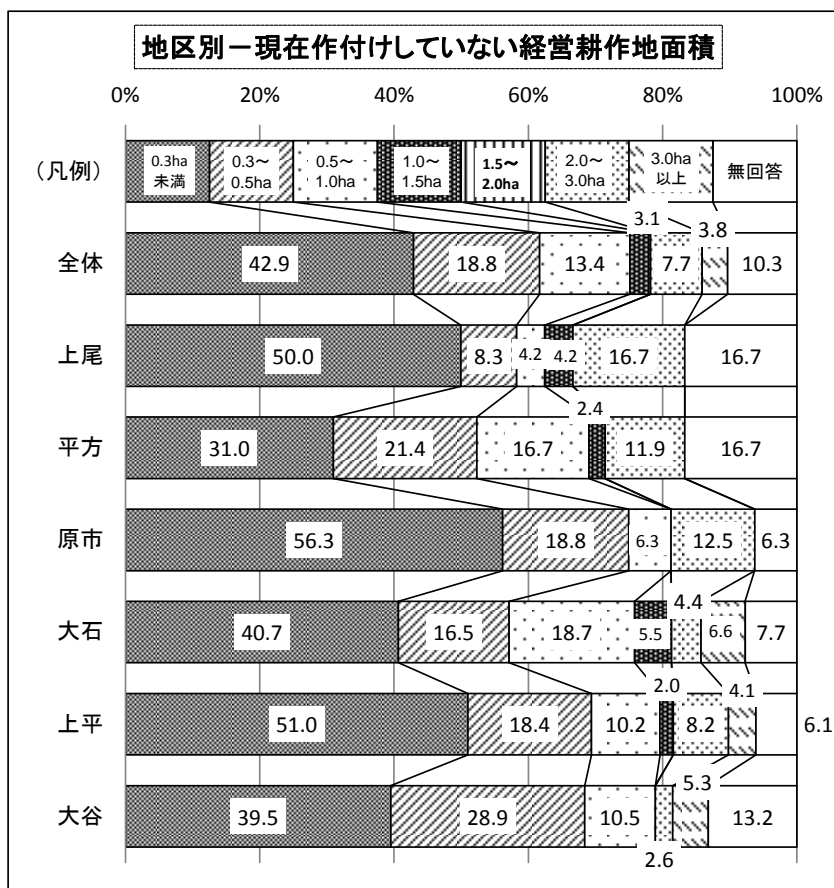
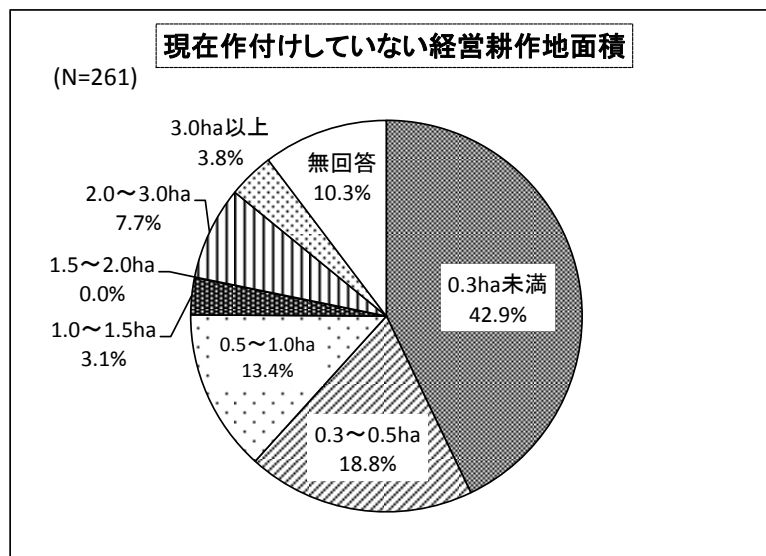


地域の農業を持続可能なものとするための方策としては、「若者の就農」が 27.2%、「既存の担い手に農地を集約する」が 23.4%、「新しい担い手に農地を集約する」が 20.7% という回答が得られた。

このうち、「既存の担い手に農地を集約する」と回答した農家に、望ましい集約先をたずねたところ、「法人の事業体」が 39.3%、「個人の農家」が 37.7%であった。

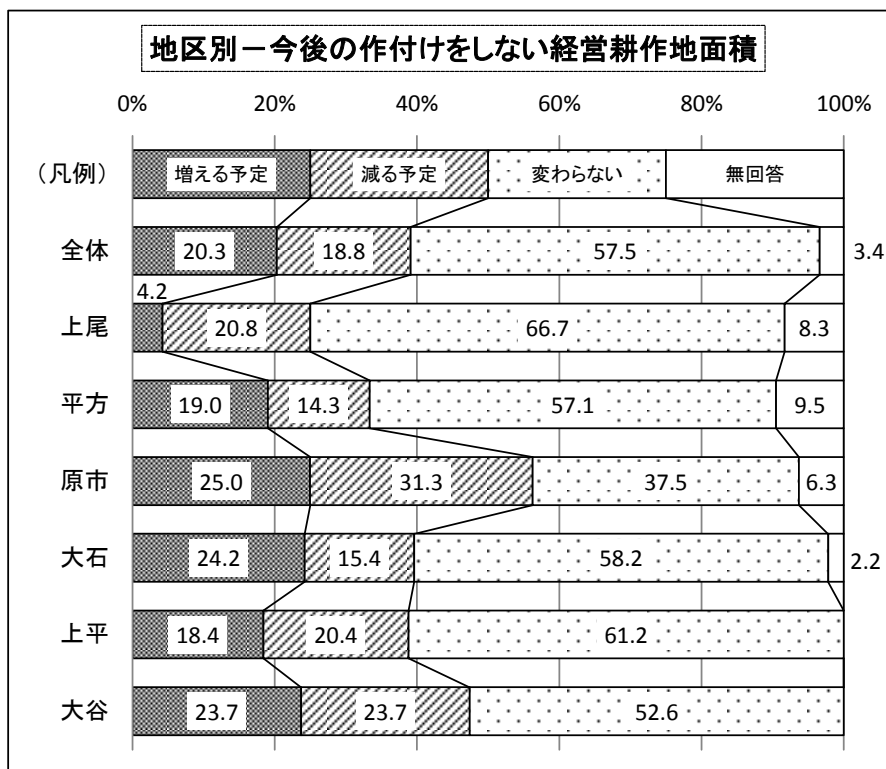
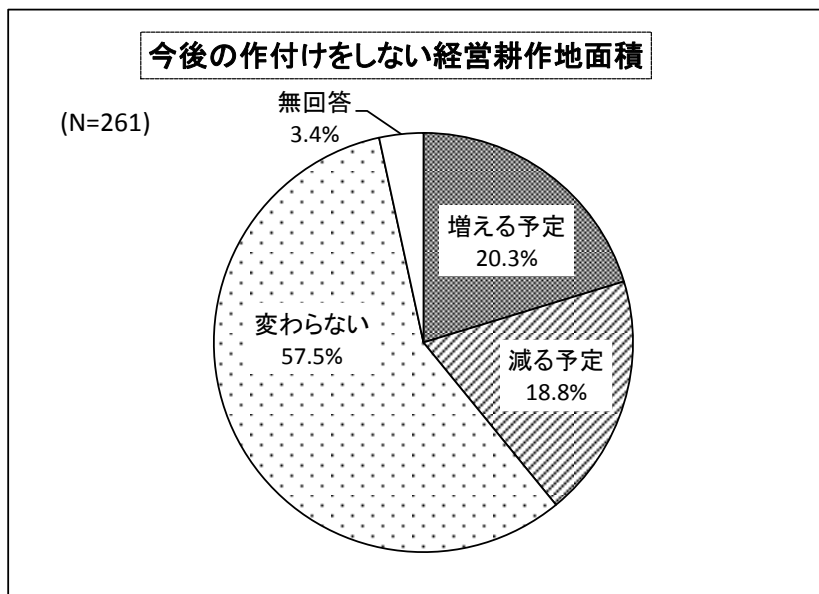
また、「新しい担い手に農地を集約する」と回答した農家に、望ましい集約先をたずねたところ、「地域内の法人の事業体」が最も多く、46.3%となっている。

問 15 現在、作付けしていない経営耕作地の面積はどれくらいですか。



現在、作付けしていない経営耕作地面積は、「0.3ha未満」が42.9%と最も多い。  
地区別にみると、作付けしていない経営耕作地面積「3.0ha以上」が最も多いのは、大石地区で6.6%であった。また、「2.0~3.0ha」が最も多いのは、上尾地区で16.7%となっている。

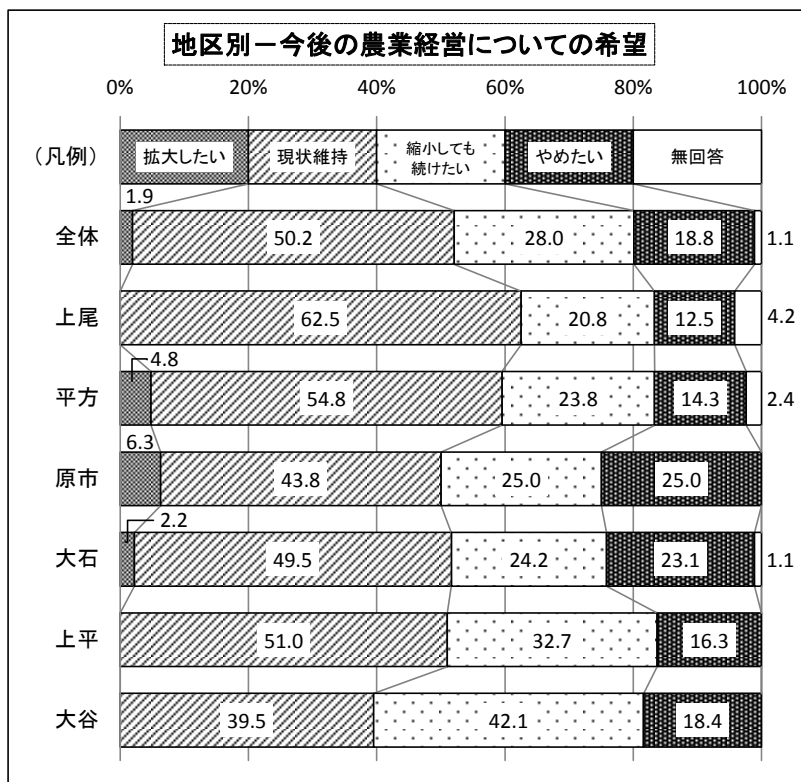
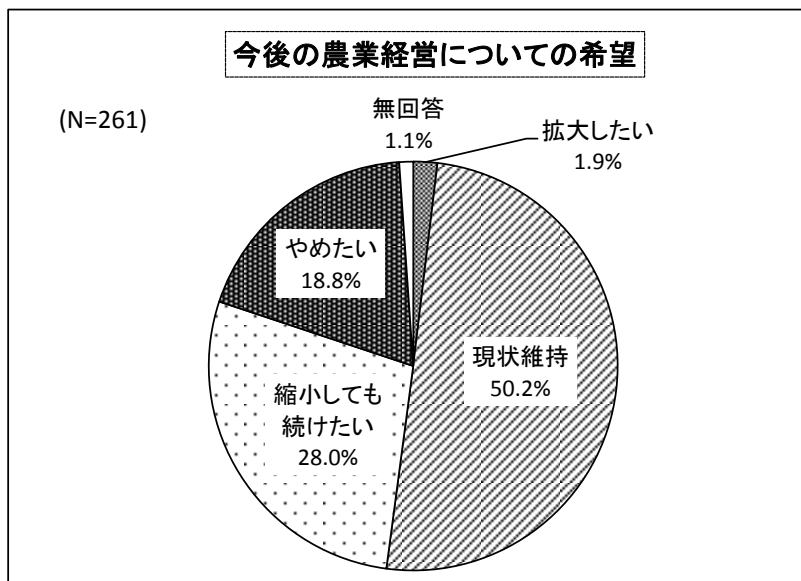
問 16 今後、作付けをしない経営耕作地の面積はどうかと思いますか。



今後、作付けをしない経営耕作地面積は、「変わらない」が 57.5%と過半数を占め、「増える予定」は 20.3%、「減る予定」は 18.8%となっている。

地区別にみると、上尾地区では「変わらない」が 66.7%と、全地区の中で最も高い。一方、原市地区では「増える予定」が 25.0%と、他地区と比較して回答率が高いが、「減る予定」とする回答も 31.3%と比較的高い。

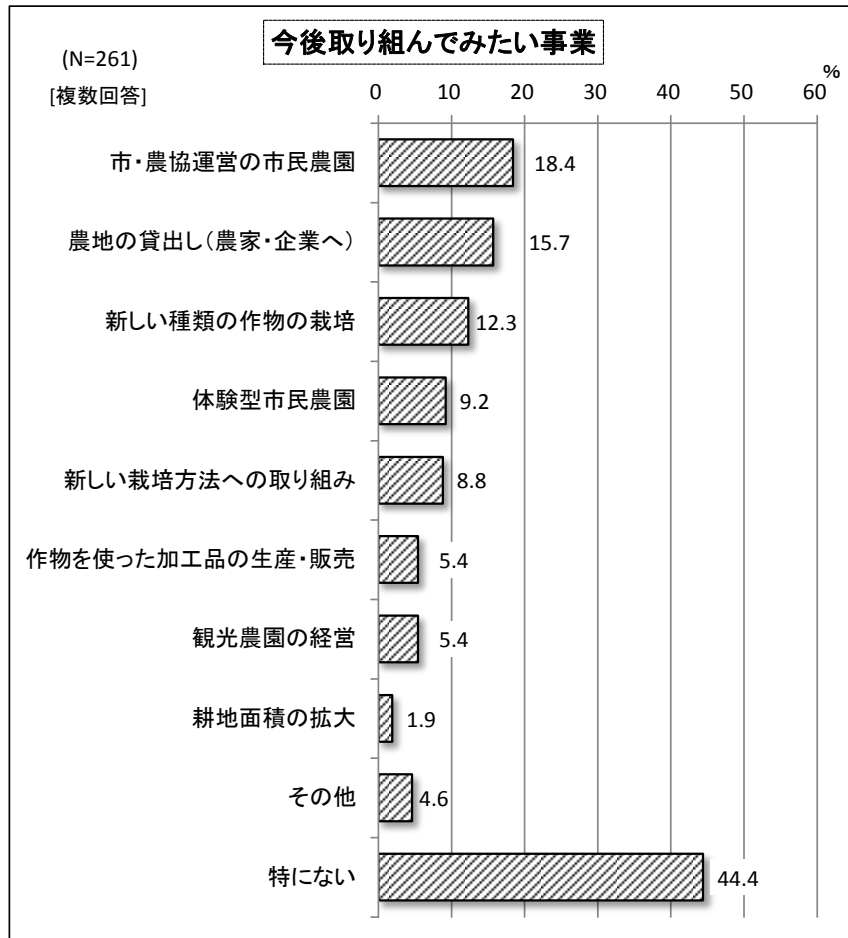
問 17 あなたの世帯の今後の農業経営についての希望をお聞かせください。



今後の農業経営については、「現状維持」が 50.2%と最も多い。「拡大したい」1.9%、「縮小しても続けたい」28.0%と合計すると、80.1%の農家は今後も農業経営を続けていく意向を持っていることがわかる。

地区別にみると、「拡大したい」、「現状維持」、「縮小しても続けたい」の合計が8割を超える地区が多い。

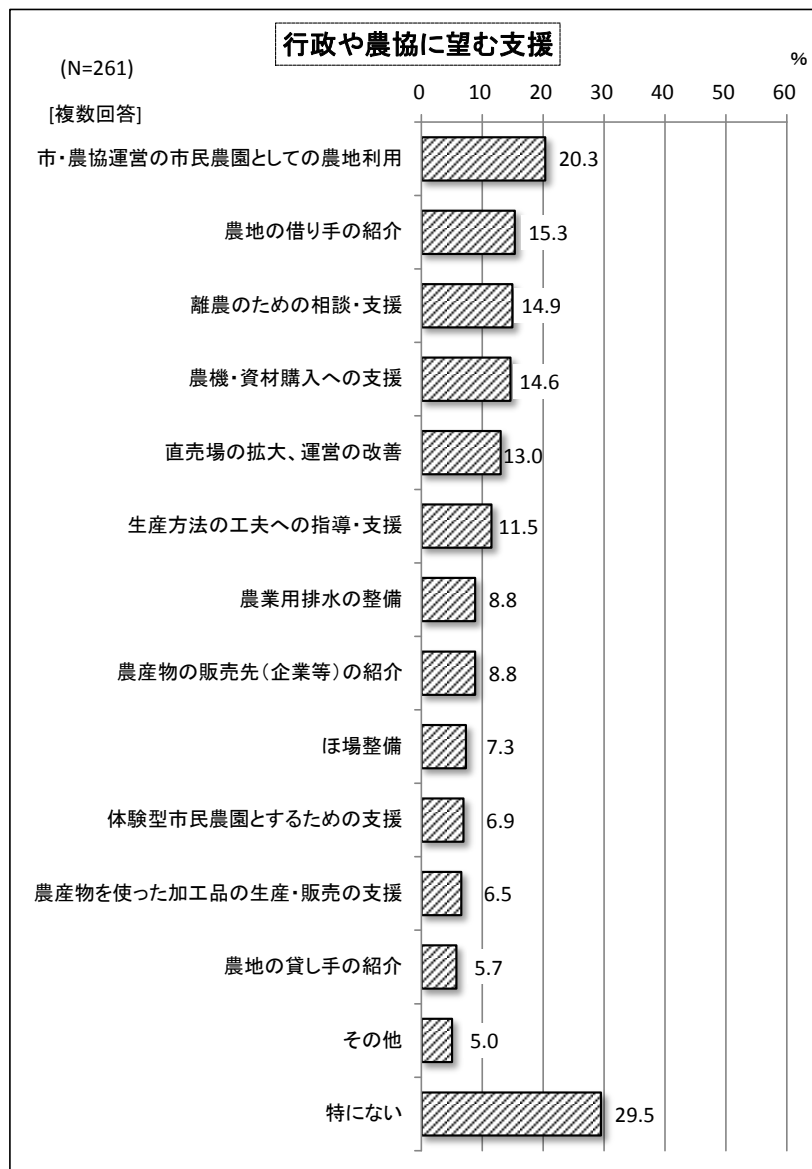
問 18 今後取り組んでみたい事業がありましたら、お答えください。(複数回答)



今後取り組んでみたい事業は、「市・農協運営の市民農園」が18.4%と最も多く、次に「農地の貸出し(農家・企業へ)」15.7%、「新しい種類の作物の栽培」12.3%、「体験型市民農園」9.2%、「新しい栽培方法への取り組み」8.8%となっている。



問 19 行政や農協に望む支援がありましたら、お答えください。(複数回答)



行政や農協に望む支援は、「市・農協運営の市民農園としての農地利用」が20.3%と最も多く、次いで「農地の借り手の紹介」が15.3%、「離農のための相談・支援」が14.9%となっている。また、「農機・資材購入への支援」14.6%や「直売場の拡大、運営の改善」13.0%、「生産方法の工夫への指導・支援」11.5%なども多い。

問 20 その他意見（自由回答）

自由意見

1. 高齢化及び後継者問題

農業に従事している人の高齢化や後継者がいない。また、耕地面積が1ha以下だと中途半端な面積で大変。

地域内の農家で、どの家も後継者がいないように思う。宅地化が進んで農地がなくなり、農家といえる家はなくなってしまうのではないのでしょうか？

市街地に隣接した地域の農業は、高齢者による小規模経営です。若い世代はサラリーマンが多く、60歳定年退職後に農業に従事する場合があります。今後の担い手は、60歳以上の高齢者の占める割合が増えると思います。農地を集約した大規模経営は難しいと考えます。

上尾市は都市化が進んでいるので、今後は後継者が全部勤めに出てしまうと思います。上尾市内の農業は、多くの後継者が勤めを早めに退職して継いでいけばよいと思います。

高齢化に向けての考えを明らかにしてほしい。

2. 耕作放棄地の影響とその対策

あと20年後には、農業をやっている(やれる)人は減っているのではないか。その時に草ぼうぼうの土地ばかりでは、防災面だけでも危険だと思う。たとえ畑の持ち分は減ってもいいから、いつも耕してある畑の持ち主になりたい。

周りに雑草が多く、雑草の処理が大変である。耕作放棄地の解消に向けた指導をお願いしたい。

3. 販路の拡大及び直売所運営方法の見直し

農作物ももっと有効な販売先があればよいのですが、農協や市で運営する直売所がもっと大きく活気のあるものになればよいと思います。また、その地域にあった作物(平方なら里いもとか)をもっと大規模に作ってブランド化するとか。

少量でも販売したいと考えているが、現在では持ち込み先がない。気軽に農産物を持ち込める先を望む。

小規模・少量生産であっても、販路があれば意欲も出てきます。少量であっても出店できる直売場を農協とタイアップして整備してはいかがでしょうか。

上尾市にも道の駅がほしかった。

4. 住宅地における農業経営の難しさ

住宅地に囲まれた農地は、農作業が難しいです(音、土ほこり等の苦情が出てくるため)。高齢化が進み、農業の担い手が少なく、将来の展望が明るいとはいえない状況と思います。土地開発が進む中、農地は集約し、首都圏密着型の農業のあり方を行政が主導して模索していけたらと思います。

市街化農家の周辺は、住宅が建ち込み、農耕の環境ではなく、農業を続けていけない。

区画整理のため、10年先以内に道路と面積が減る予定。区画整理地内につき、今後の農業は難しいのでは。

環境問題のため、いつか問題が発生するのではないか。

5. 税負担について

市民農園として農地利用をしたいと思っているが、納税猶予を受けていると農業委員会が認めてくれないので残念です。

<b>自由意見</b>
固定資産税の負担が重い。市街化区域の中での農業なので、税金ばかり高く、その中で農業をやっていくのは大変です。
固定資産税等が高くなってきている現在、今後の農業後継者はいなくなる。もう少し低価額の税金にしないと農業は「ダメ」になる。
0.5ha未満の農地しかない農業者は農地を購入できず、農業を拡大したくてもできない現状。遺産相続の際、農地も路線価で計算されるため相続が大変。現在の農業のあり方では、日本の農業は成り立たなくなる。
<b>6. 行政の支援への要望</b>
・今後の生産緑地制度の行方について、広報等で周知していただきたい。 市街化区域農地と相続(農地利用方法等)、税制等(緑地の定義・制度の緩和＝市街地の緑を残すための方策)。今回の調査に基づき、緑豊かなまちづくりの計画策定をお願いします。
補助金制度の見直し(補正予算の対応)。例)ガラス温室に関し、使用不能になった場合等(ボイラー、自動カーテン等)補助金制度が出来るようになればありがたいです。また、円安による重油価格の高騰により、経営が厳しい。一定価格以上は補助金等による支援をお願いしたいです。
農業従事者が年々高齢になりますので、問16-⑩(体験型市民農園)について早急に手当てしてほしい。
農業者への収入保障
農業改革に対して、もっと農政課の皆さんとのディスカッションがほしい。今は、無いのに等しい。
地産地消と上尾市行政はうたっているが、これといった農家への支援が少ない。
<b>7. 今後の地域農業のあり方への提案</b>
若者に希望が持てる農業にしたい。農業所得が上がる環境を作してほしい。
人口は益々減少する中で、宅地地域は有効利用の促進、農地地域は集約化して大規模にして生産性を向上するしかありません。人口減少、低成長などで宅地の有効利用も不十分な状態が続いています。これをどのようにすれば有効利用できるかが問題です。
作付けのない農地に対して、現状を元に戻すために個人だけでは出来ないことがあります。担い手に貸すにしても、費用負担が大きすぎて、手が付けられない状況があります。補助事業として面的な整備が出来るようなことを考える必要があると思います。
耕作放棄地を持っている者は高齢化して、トラクター等の機械を持っていない世帯が多いので、上尾市のシルバー人材センターの中に農業支援センターみたいな団体を作ったらどうか。
高齢となっていく中で、農業支援者(農業体験)を組織し、農作業の支援をお願いしたい。現金給付は少ないが、果実、野菜等の現物給付で対応したいと思う。
企業が参入できる。農地の集約と活用。
一年間何も作付けしない農地が増えているようです。若者の後継者がおりませんので、今後は定年で退職した元気なお年寄りを活用して農作物を作付けし、直売所で販売するべきです。①お年寄りの生きがいづくり、②地域社会の活性化、人と人とのつながりづくり、③地域の特産品づくり などJAの支店を中心に空いている農地を活用してはいかがでしょうか。
・小・中学校の学校ファームへの協力 ・農業に関する各種団体の活動報告
・カンづめ、ピンづめ機械の無料開放施設、くんせい等

自由意見
<b>8. TPPについて</b>
TPP反対。TPPは多くの国民に影響が及ぶ大問題である。本当の意味で国民の力が試されている時だと思う。
TPPで自由化にならないよう、農地の整備や育成資金の貸出、販売所の確保(道の駅等)を行ってほしい。
TPP交渉に参加することはとても了解できないので、上尾市もこのことには積極的に反対してほしい。
<b>9. その他</b>
農業振興地域指定を解除。
ダイオキシン、公害などに出来る限りの努力をしているものです。しかし、農家以外でまったく無視してプラスチック類を毎日燃やしている事業者がおります。臭いはもちろんのことガラス温室の汚れが一番気がかりです。
害虫の消毒の仕方を教えてほしい。
畑をやって自分たちで食べたり、おすそ分けしたりするなどして楽しんでいます。天候により作物ができない時など、知識がないのでどうしようもない。かといって、農業の学校に今さら入って勉強するのも？農協が一本化され、とても不便になった。近くの肥料店を利用している。
米の作付けに関する方針がよく変化する。作付面積の削減・増加、農地の集約化など、政策が頻繁に変わる。また、大規模な農家であっても、小規模な農家であっても、後継者問題は同様に抱えている。今後15年で作付けも不可能になってくるだろう。農機具等も高価で、所有権はあるが、まるで地代を払って農業を営んでいるような感じである。

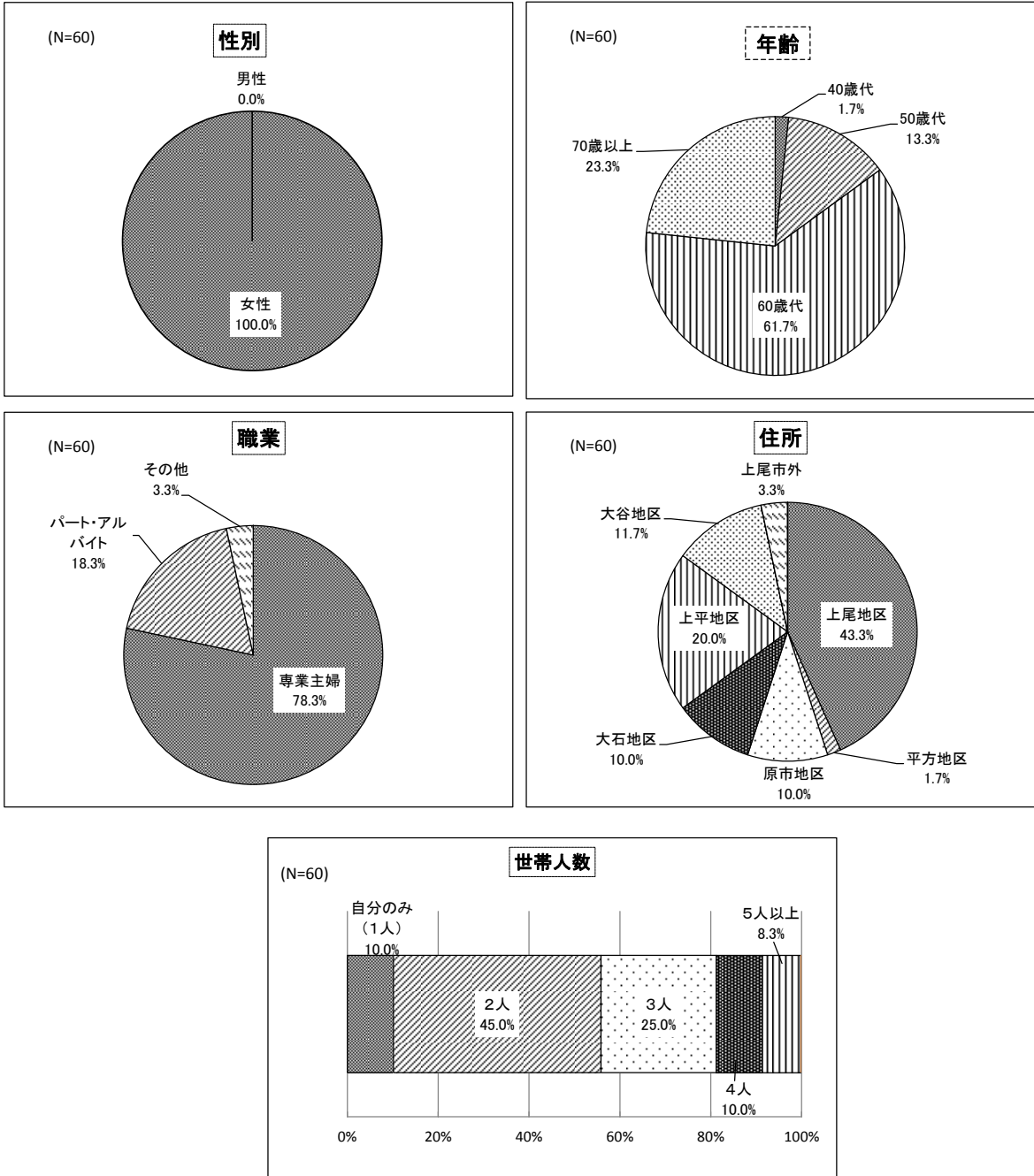
## 4 消費者アンケート結果

### (1) アンケート調査実施概要

- ① 基準日  
平成25年1月末日現在
- ② 調査方法  
消費者団体連絡会定例会にて配布・回収
- ③ 調査実施期間  
平成25年2月7日～平成25年3月7日
- ④ アンケート対象及び配布数  
消費者団体連絡会加盟9団体 90件
- ⑤ 有効回答数  
60件（有効回答率：66.7%）

## (2) アンケート調査結果

### ① あなたご自身について

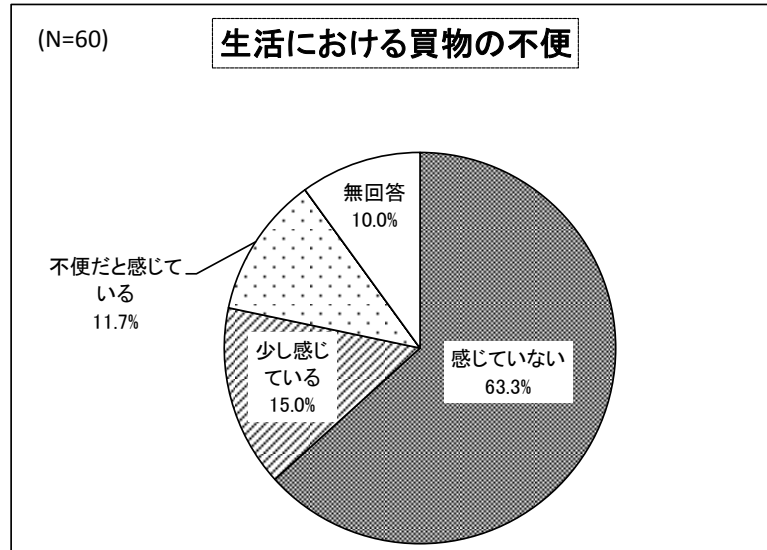


回答者の性別は、「女性」が100%である。年齢は「60歳代」が61.7%、「70歳以上」が23.3%と、60歳以上が85%を占めている。

職業は、「専業主婦」が78.3%と4分の3以上を占め、「パート・アルバイト」が18.3%を占めている。住所は、「上尾地区」に住む人が43.3%と4割以上にのぼる。世帯人数は、「2人」世帯が最も多く、45.0%、次いで「3人」世帯が25.0%となっている。

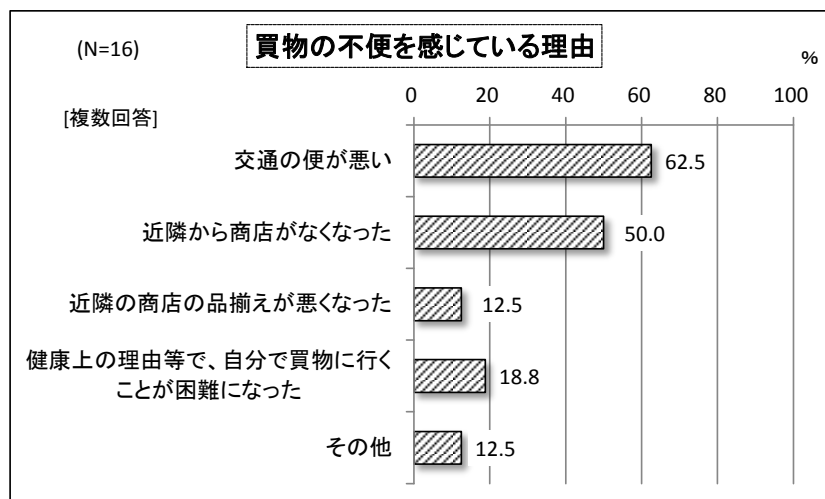
## ② 買物に関する利便性について

問6 現在の生活で買い物に不便を感じていますか。



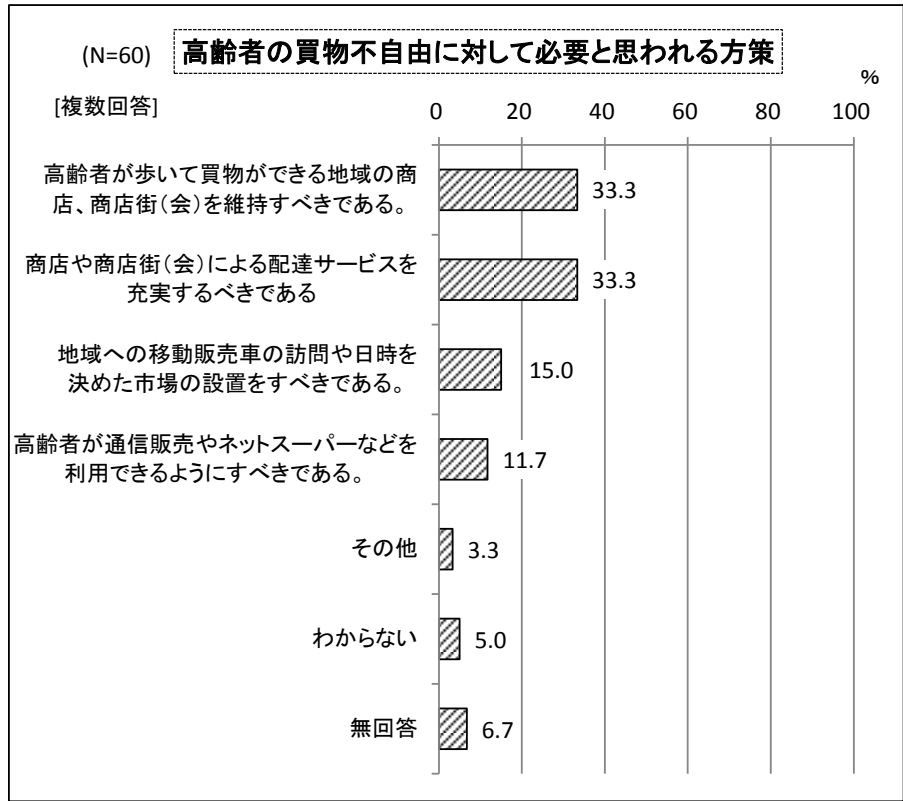
買い物の不便は、「感じている」が 63.3%と過半数を占めている。一方、「少し感じている」15.0%と「不便だと感じている」11.7%を合わせて、26.7%の消費者が日常の買い物に不便を感じている。

問7 (問6で「少し感じている」「不便だと感じている」と回答した消費者のみ) 不便を感じているのはなぜですか。(複数回答)



買い物に不便を感じている理由としては、「交通の便が悪い」(62.5%)、「近隣から商店がなくなった」(50.0%)をあげている。

問 8 高齢者の買物の不自由について、どのような方策が必要であると思いますか。



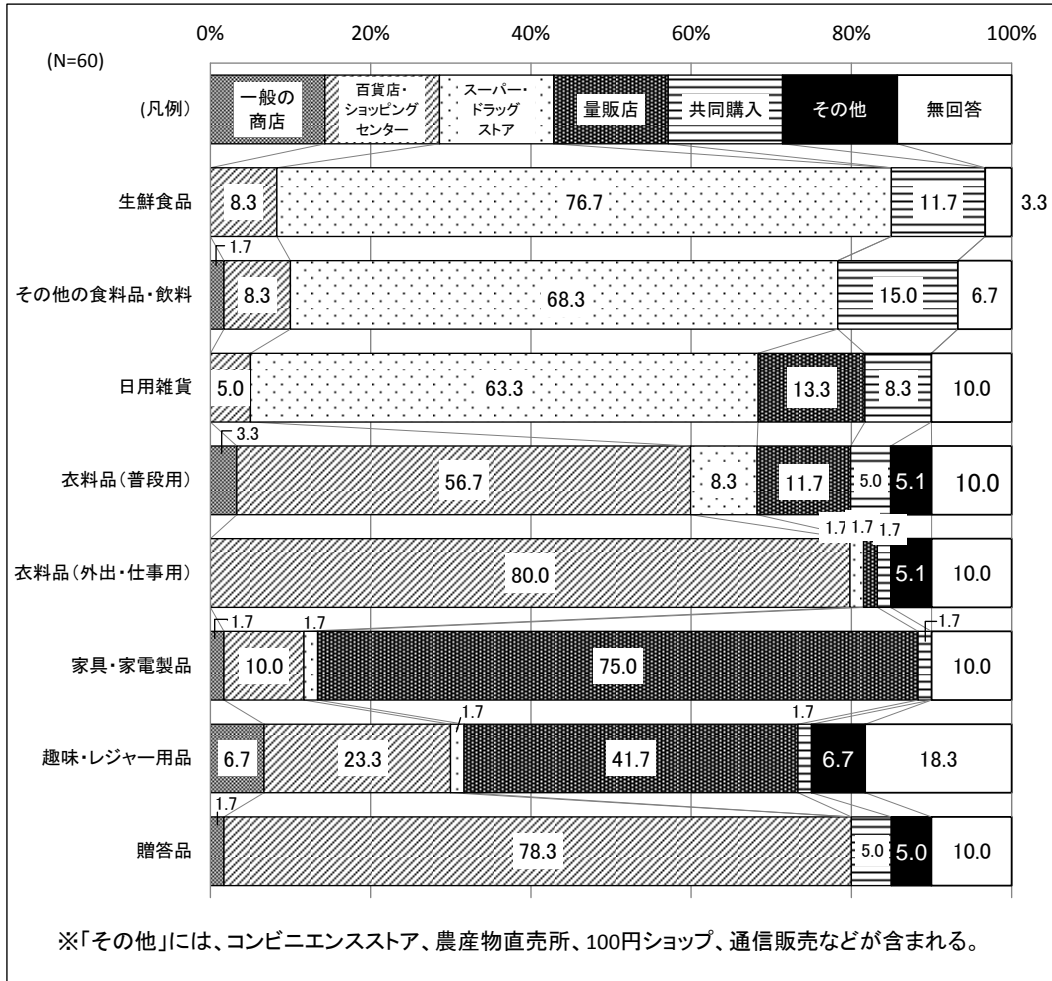
高齢者の買い物の不自由について必要と思われる方策については、「高齢者が歩いて買物ができる地域の商店、商店街（会）を維持すべきである」及び「商店や商店街（会）による配達サービスを充実するべきである」がともに 33.3%となっている。



### ③ 日常の買物について

問9 日常の買い物をする場合について、最も利用するお店、場所、交通手段、利用する理由を選んでください。

#### ●最も利用するお店



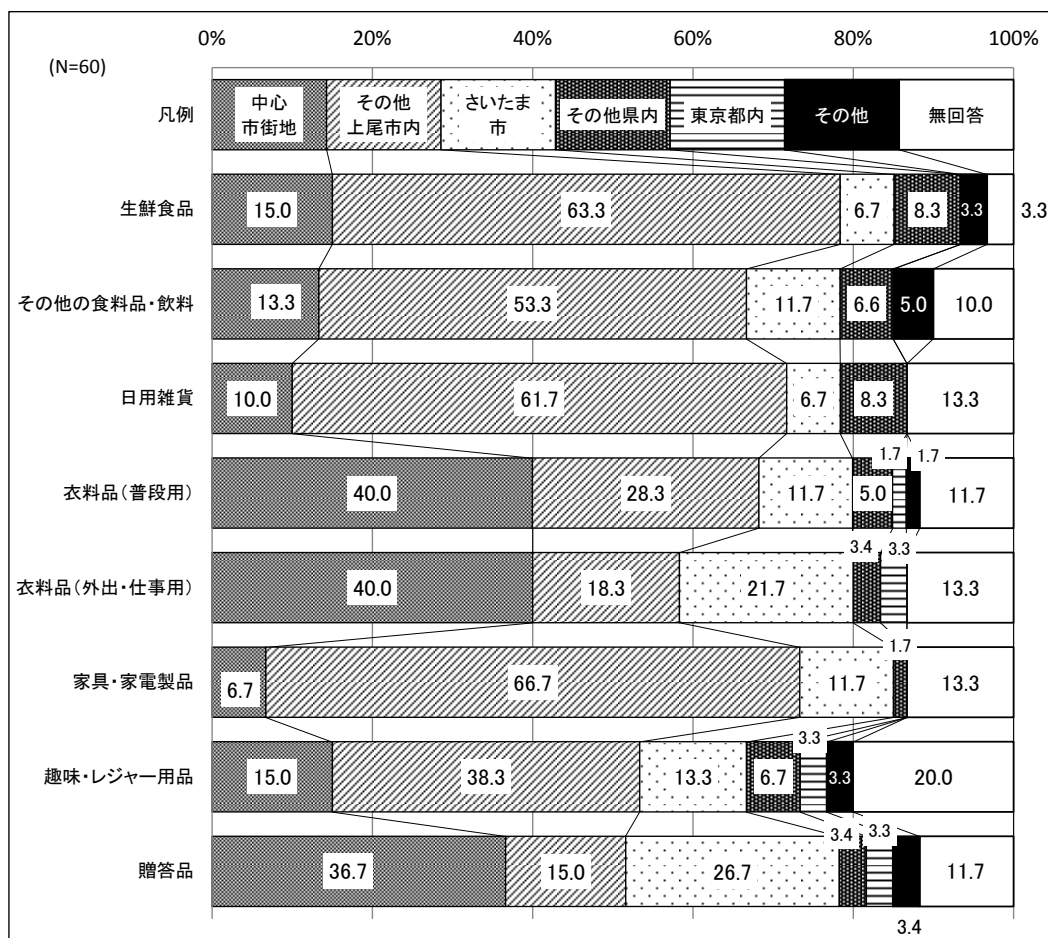
生鮮食品、その他の食料品・飲料、日用雑貨については、「スーパー・ドラッグストア」が多く利用され、いずれも6割以上を占めている。特に生鮮食品は、4分の3以上と高い割合となっている。

衣料品(普段用)、衣料品(外出・仕事用)、贈答品については、「百貨店・ショッピングセンター」が最も多く利用されている。特に贈答品は、8割以上と高い割合となっている。

家具・家電製品、趣味・レジャー用品については、「量販店」が最も多く利用されている。

いずれの商品についても、「一般の商店」を最も利用する店としてあげる消費者は少なかった。

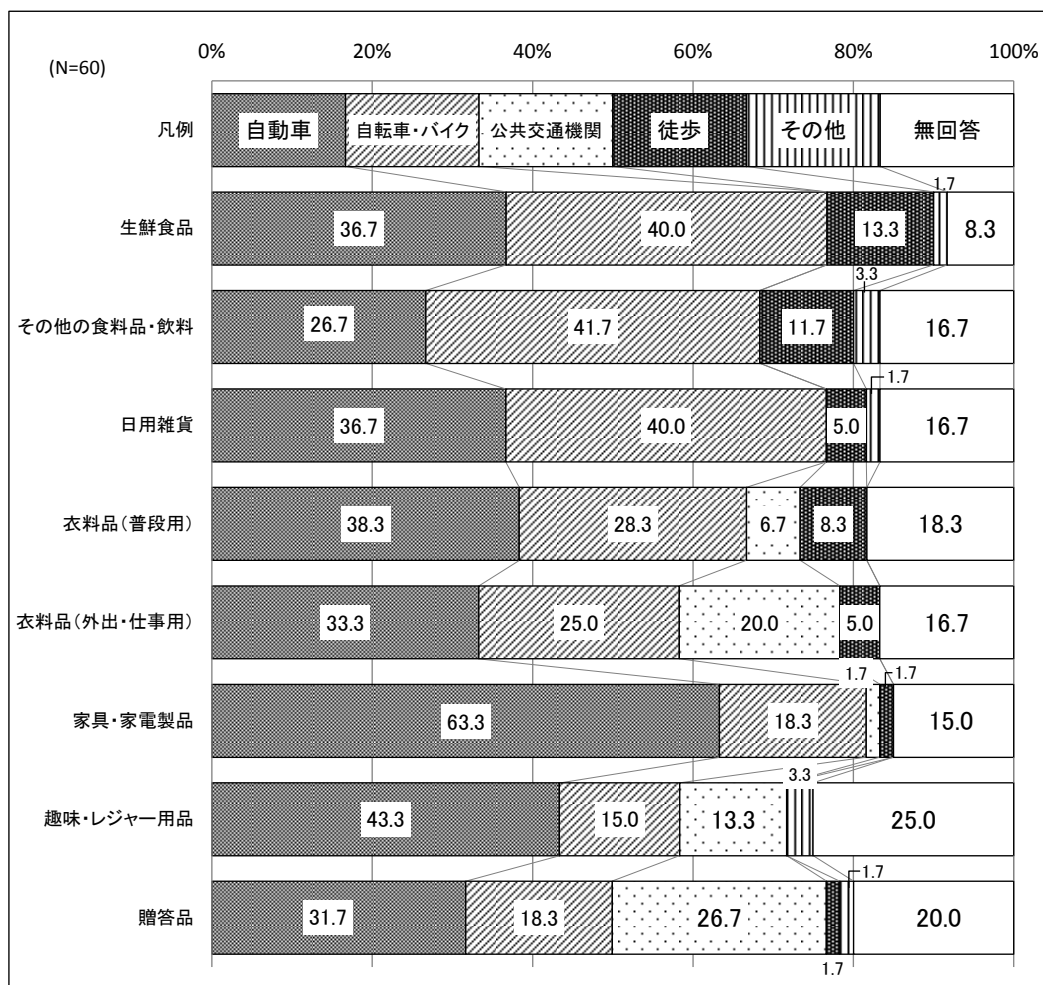
● (最も利用するお店の) 場所



買い物によく出かける場所については、衣料品（普段用）、衣料品（外出・仕事用）、贈答品は、「中心市街地」で買い物する割合が最も高い。

一方、生鮮食品、その他の食料品・飲料、日用雑貨、家具・家電製品は、いずれも「その他の上尾市内」が過半数を占めている。いずれの商品も「中心市街地」と「その他上尾市内」の合計が過半数を占めており、多くの回答者が日常的に上尾市内で買い物をしていることがうかがえる。

●交通手段

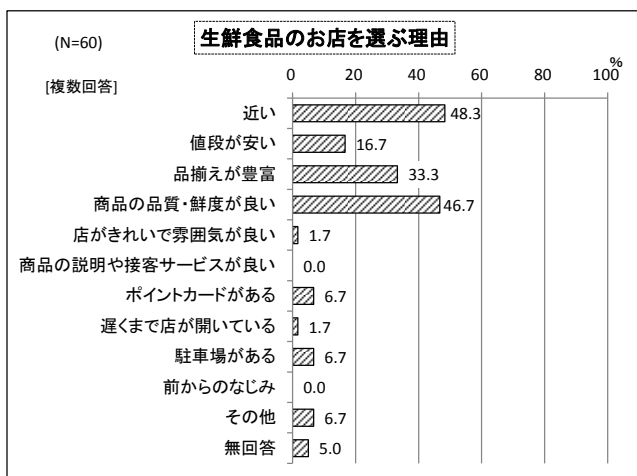


交通手段については、生鮮食品、その他の食料品・飲料、日用雑貨の買い物の時は「自転車・バイク」の利用が最も多い。その他の商品については、「自動車」の利用が最も多い。特に、家具・家電製品の買い物には「自動車」を利用する人が 63.3%と、他の交通機関を大きく上回っている。

また、衣料品（外出・仕事用）や贈答品の買い物の時には、他の商品よりも「公共交通機関」を利用する割合が高い。

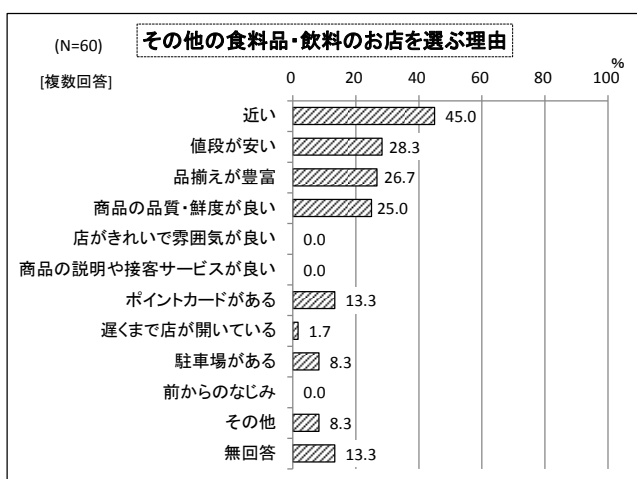
## ●お店を選ぶ理由（複数回答）

### ①生鮮食品



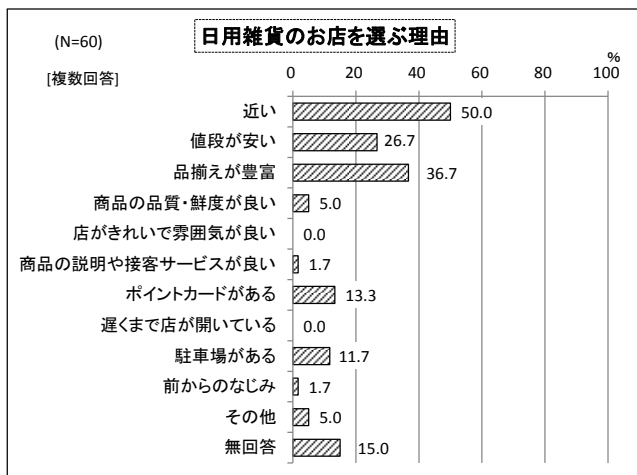
生鮮食品のお店を選ぶ理由は、「近い」が48.3%と最も多く、「商品の品質・鮮度が良い」が46.7%、「品揃えが豊富」33.3%と続いている。

### ②その他の食料品・飲料



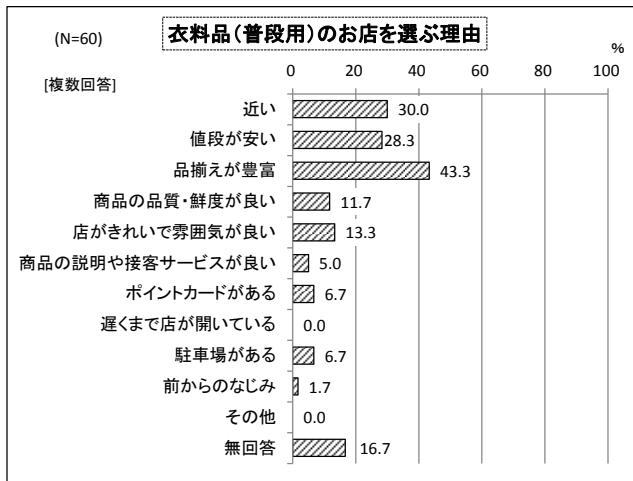
その他の食料品・飲料のお店を選ぶ理由は、「近い」が45.0%と最も多い。そのほかにも「値段が安い」(28.3%)、「品揃えが豊富」(26.7%)、「商品の品質・鮮度が良い」(25.0%)の回答も多い。

### ③日用雑貨



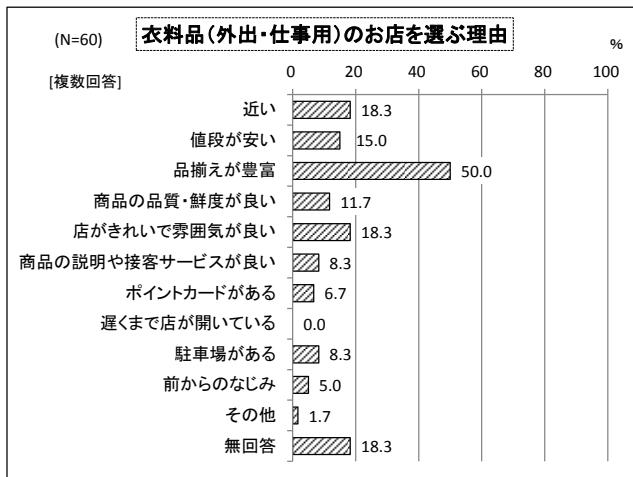
日用雑貨のお店を選ぶ理由は、「近い」が50.0%と最も多く、「品揃えが豊富」36.7%、「値段が安い」26.7%と続いている。

#### ④衣料品（普段用）



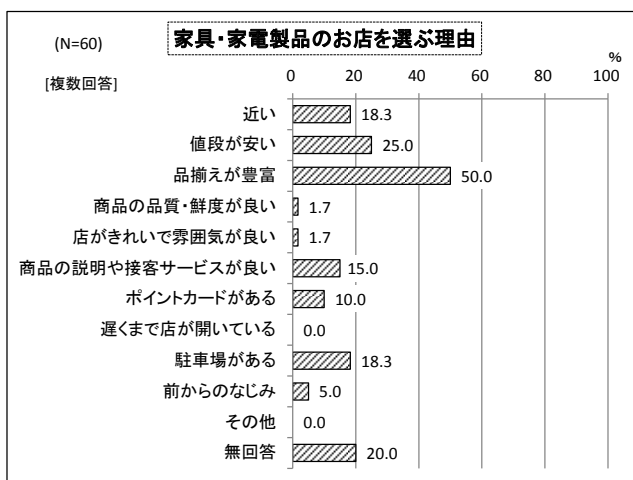
普段用の衣料品のお店を選ぶ理由は、「品揃えが豊富」が 43.3%と最も多く、そのほかにも「近い」30.0%、「値段が安い」28.3%などがあげられている。

#### ⑤衣料品（外出・仕事用）



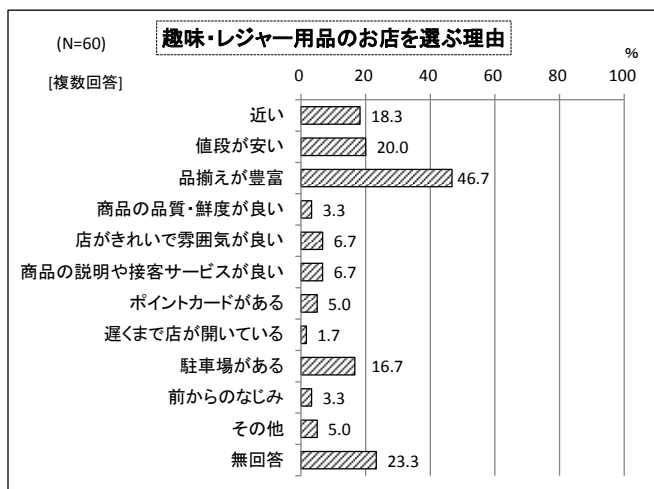
外出・仕事用の衣料品のお店を選ぶ理由は、「品揃えが豊富」が 50.0%と、他の理由と比較して突出して多い。

#### ⑥家具・電化製品



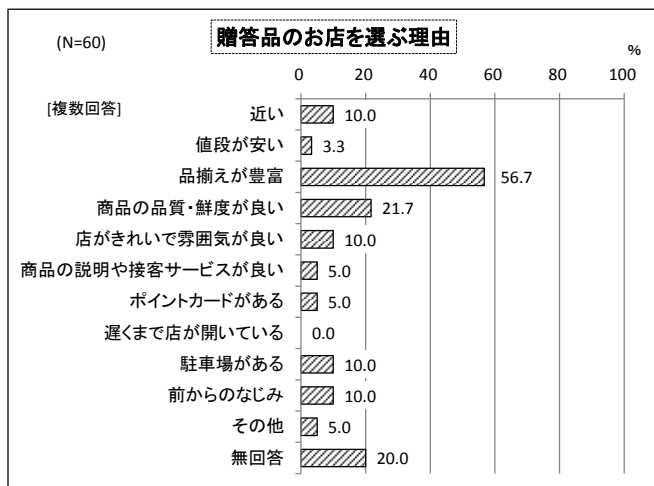
家具・電化製品のお店を選ぶ理由は、「品揃えが豊富」が 50.0%と、他の理由を大きく上回っている。次いで、「値段が安い」が 25.0%となっている。

### ⑦趣味・レジャー用品



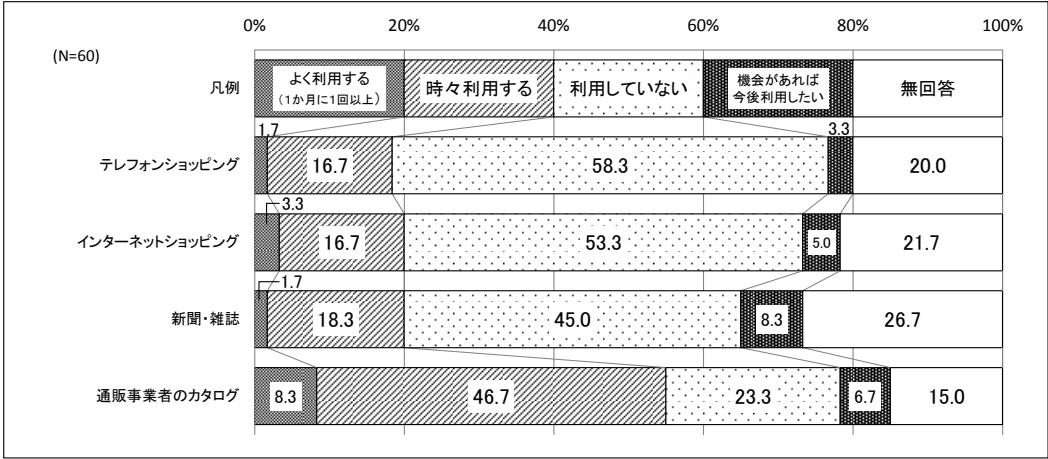
趣味・レジャー用品のお店を選ぶ理由は、「品揃えが豊富」が46.7%と最も多い。

### ⑧贈答品



贈答品のお店を選ぶ理由は、「品揃えが豊富」が56.7%と、他の理由を大きく上回っている。

問 10 通信販売の利用について、利用する回数をお答えください。

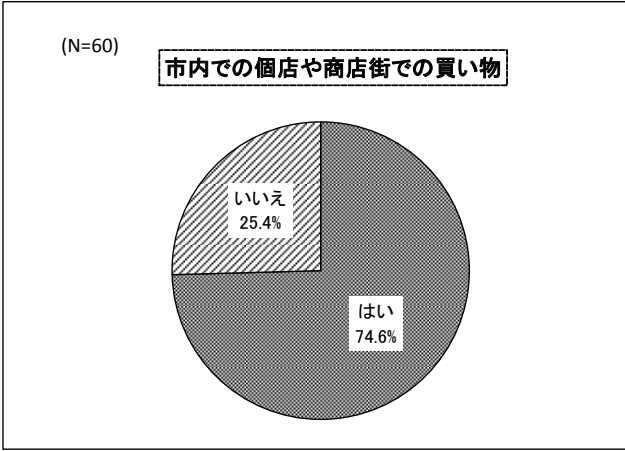


通信販売の利用については、テレフォンショッピング、インターネットショッピング、新聞・雑誌では、「よく利用する（1か月に1回以上）」と「時々利用する」の合計が約2割を占めている。

一方、通販事業者のカタログを利用する人は、「よく利用する（1か月に1回以上）」が8.3%、「時々利用する」が46.7%と、利用者は過半数に達しており、他の媒体よりも利用度が高いことがうかがえる。

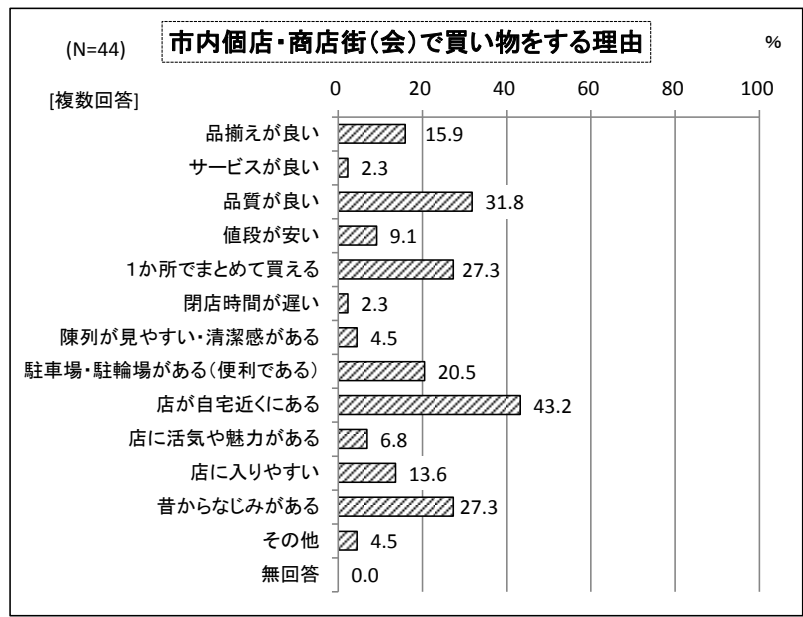
④ 市内の個店や商店街（会）での買い物（飲食・サービス）について

問 11 市内の個店や商店街（会）などで買い物（飲食・サービス）をしますか。



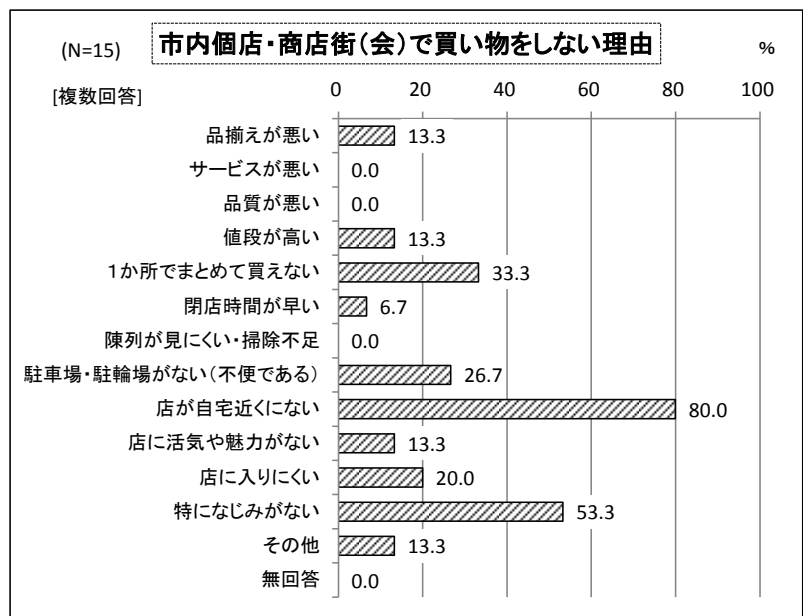
市内での個店や商店街での買い物については、「はい」と回答した人が74.6%と、約4分の3を占めている。

問 12 (問 11 で「はい」と回答した消費者のみ) 市内の個店や商店街(会)で買い物(飲食・サービス)をする理由は何ですか。(複数回答)



市内の個店や商店街(会)で買い物を理由については、「店が自宅近くにある」が43.2%と最も多く、次いで、「品質がよい」31.8%、「1か所でまとめて買える」と「昔からなじみがある」がともに27.3%となっている。

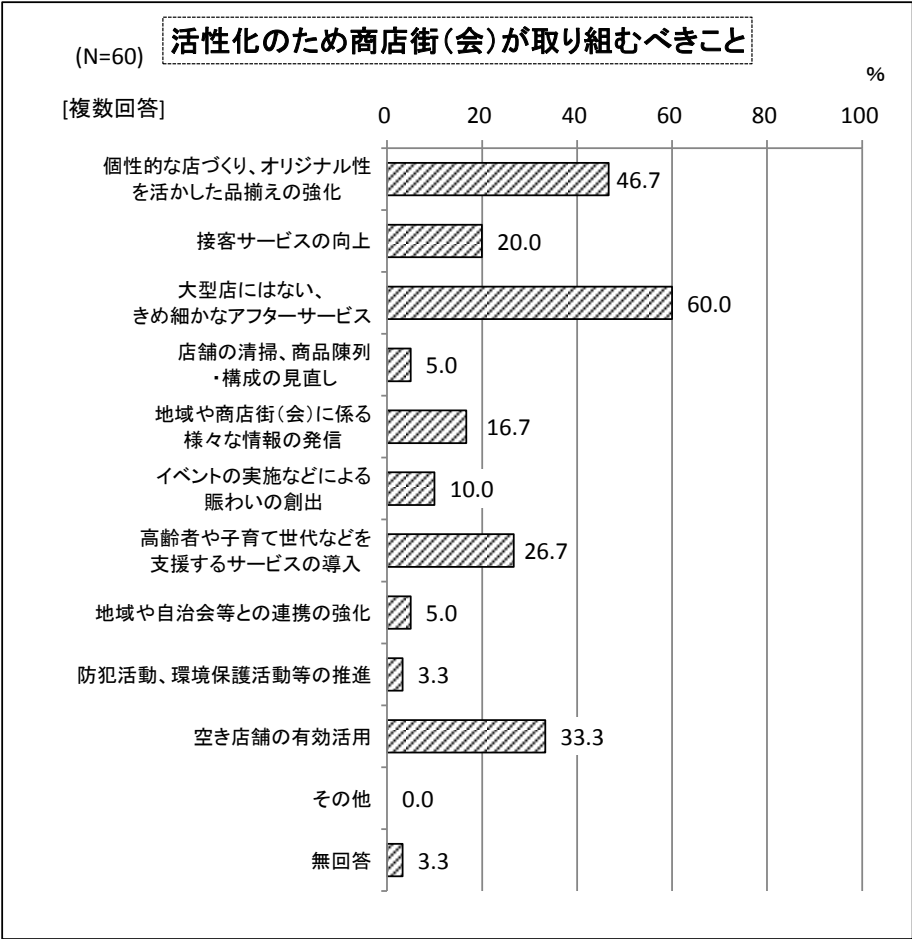
問 13 (問 11 で「いいえ」と回答した消費者のみ) 市内の個店や商店街(会)で買い物(飲食・サービス)をしない理由は何ですか。(複数回答)



市内の個店や商店街(会)で買い物をしない理由については、「店が自宅近くにない」が80.0%と突出して多かった。また、「特になじみがない」をあげる人も53.3%と多い。



問 14 地元の商店街（会）を活性化するために、取り組む必要性があると思うものは何ですか。（複数回答）

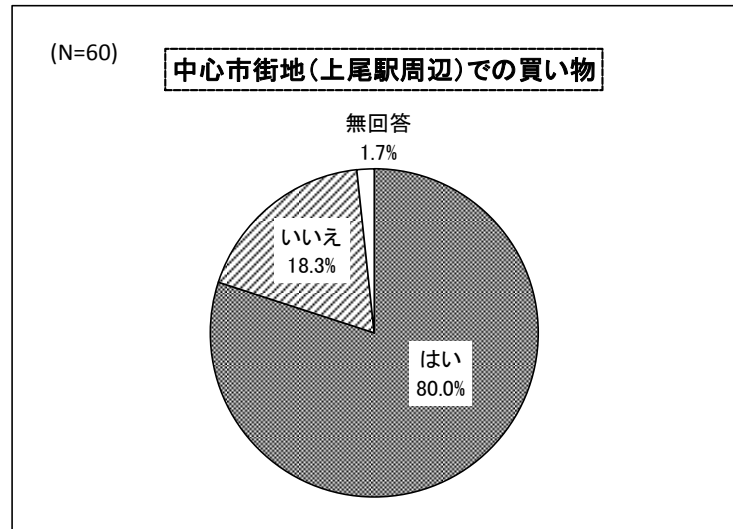


地元の商店街（会）を活性化するために、商店街（会）が取り組む必要性があるものとして、「大型店にはない、きめ細かなアフターサービス」60.0%、「個性的な店づくり、オリジナル性を活かした品揃えの強化」46.7%など、個店の魅力向上を重視する回答が多かった。

また、「空き店舗の有効活用」も33.3%と回答が多かった。

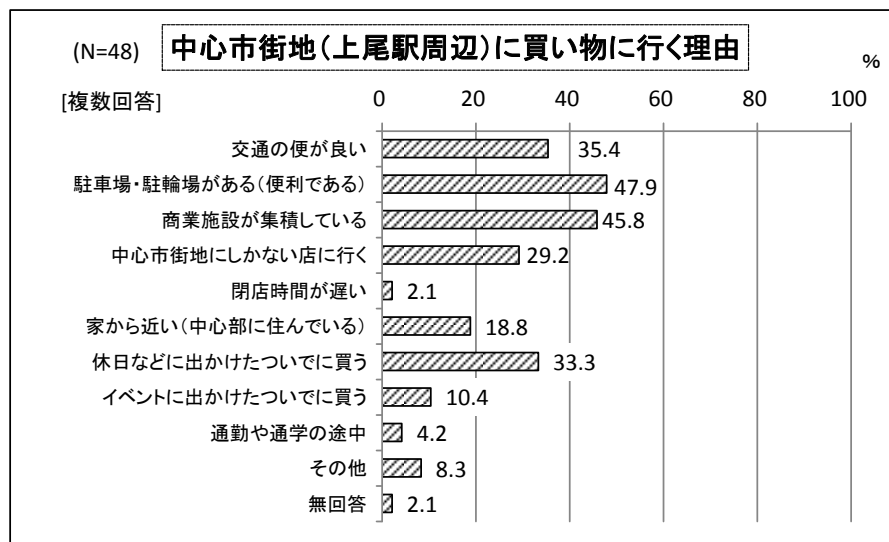
⑤ 中心市街地（上尾駅周辺）での買い物（飲食・サービス）について

問 15 中心市街地（上尾駅周辺）へ買い物（飲食・サービス）に行きますか。



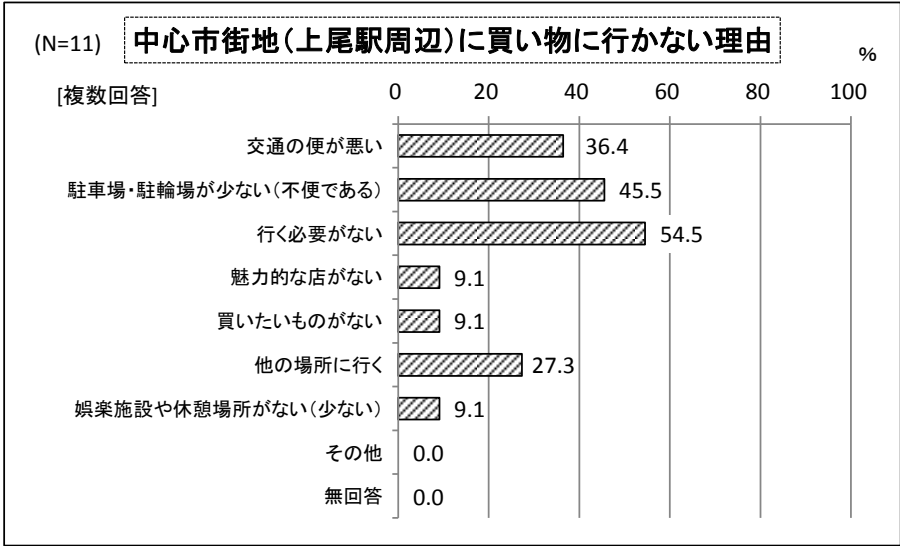
中心市街地（上尾駅周辺）での買い物については、「はい」と回答した人が 80.0%となっている。

問 16 （問 15 で「はい」と回答した消費者のみ）中心市街地（上尾駅周辺）へ買い物に行く理由は何ですか。（複数回答）



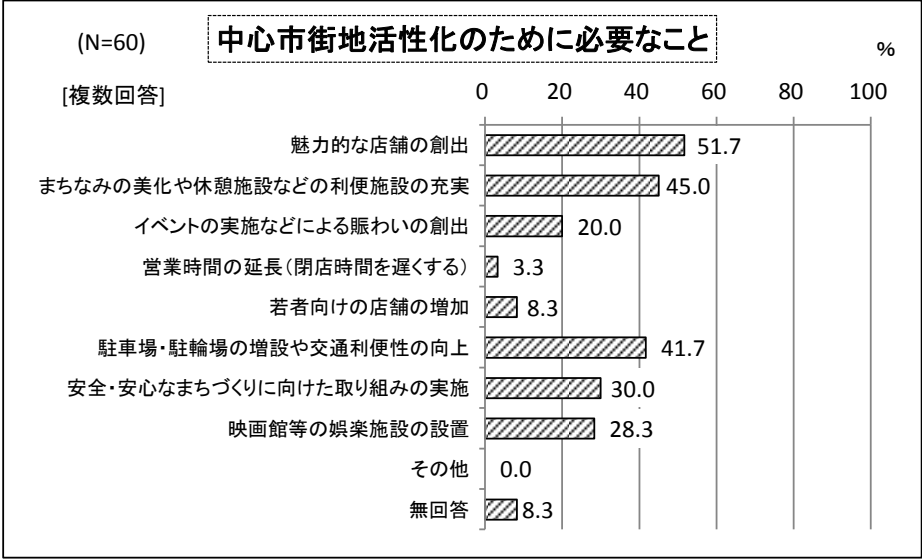
中心市街地で買い物をする理由については、「駐車場・駐輪場がある（便利である）」47.9%、「商業施設が集積している」45.8%などが多い。

問 17 (問 15 で「いいえ」と回答した消費者のみ) 中心市街地(上尾駅周辺)へ買い物に行かない理由は何ですか。(複数回答)



一方、中心市街地で買い物しない理由については、「行く必要がない」が 54.5%と過半数に達している。次いで「駐車場・駐輪場が少ない(不便である)」が 45.5%となっている。

問 18 中心市街地(上尾駅周辺)を活性化するために、取り組む必要があると思うものは何ですか。(複数回答)

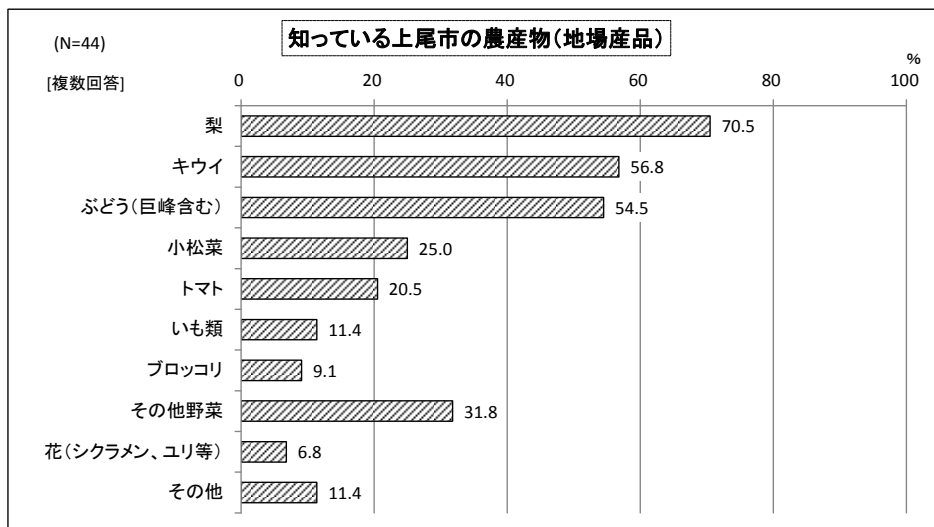
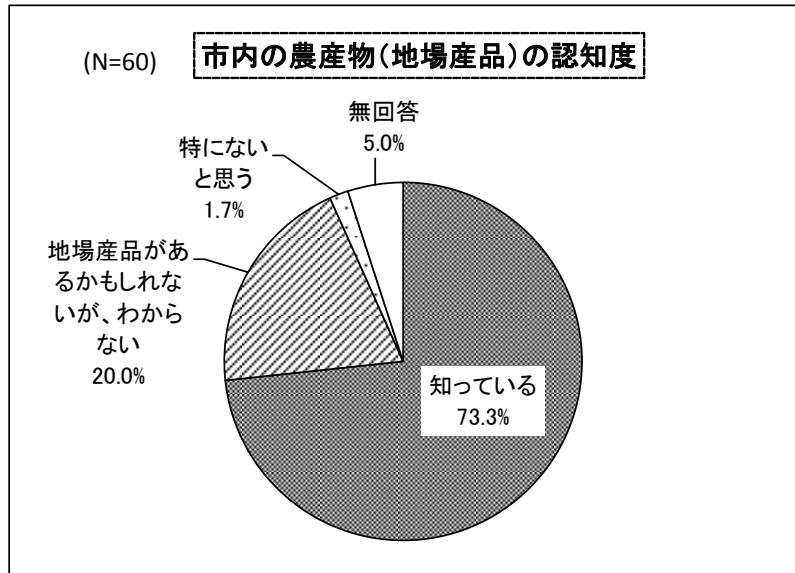


中心市街地を活性化するために取り組む必要があることとして、「魅力的な店舗の創出」51.7%が最も多く、個店の魅力向上に対する期待が大きい。

また、「まちなみの美化や休憩施設などの利便施設の充実」45.0%や、「駐車場・駐輪場の増設や交通利便性の向上」41.7%なども回答が多い。

## ⑥ 上尾市の産業振興政策について

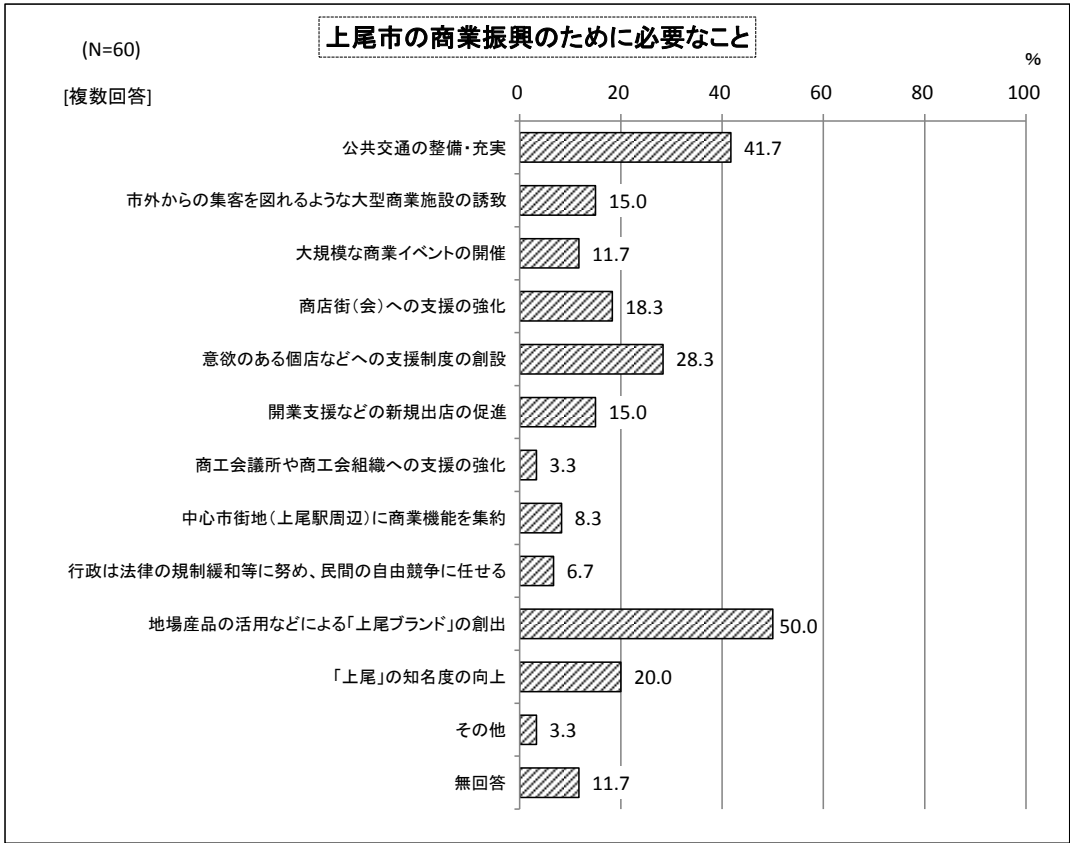
問 19 市内でとれる農産物（地場産品）を知っていますか。



市内でとれる農産物（地場産品）については、73.3%の人が「知っている」と回答している。

また、「知っている」と回答した人のみを対象に、具体的な農産物名をたずねたところ、「梨」をあげる人が70.5%、「キウイ」が56.8%、「ぶどう（巨峰含む）」が54.5%となっており、特に果実類が地場産品として広く認識されていることがわかる。

問 20 上尾市の商業振興を図るために、何が必要だと思いますか。(複数回答)



上尾市の商業振興を図るために必要なこととして、「地場産品の活用などによる「上尾ブランド」の創出」が50.0%にのぼっている。

次に、「公共交通の整備・充実」が41.7%、「意欲のある個店などへの支援制度の創設」が28.3%となっている。

問 21 その他意見（自由回答）

自由意見

1. 交通・高齢化

上尾市内を巡回する交通手段を充実させてほしい。

「ぐるっとくん」のような交通の便をもっと利用しやすい様にしてほしいと思います。

市民が街の中を動きまわれるよう、体の不自由な方、高齢の方などが行き来できる交通手段を確保してほしい。

市街地までの交通手段として「ぐるっとくん」の便数や巡回地域をもっと増やしてほしい。

これからますます高齢になり、車に乗らなくなったとき不安を感じます。

パソコンで買い物ができない高齢者もいます。高齢者も消費者であることをふまえて、出張販売等も充実してください。

これからますます高齢化が進むので、総合病院がもう一ヶ所あると良い。

2. 中心市街地・駅周辺

駅前の既存の駐輪場は使いにくい。無料の駐輪場を作ってほしい。施設が充実することでマナーの向上も図れると思う。

市や商工会議所との連携で地場産品販売や意欲的な個人事業者を中心としたショッピングモールを駅周辺開発に組み込めませんか。

東口開発で駅直結のペDESTリアンデッキが整備されるそうですが、JRのコンコースを含む場所に「地場産品コーナー」「アンテナショップ」など市民や通行者に情報発信するスペースを設けたら？

駅前、駅廻りがもう少し広くあれば、イベントや歩行ができ商店を見てまわるのに楽しみができる。

駅前に多目的施設が必要。

駅前・駅回りに緑・樹木がほしい、広場がない。

3. 直売所・近隣商業

野菜の産直所を多くしてほしい（スーパー等以外）。

駅前の直売所は、もう少し価格を安くし品数を多くして集客率を高める。

現在、西口にある駅前農産物直売所が、東口にも出来るとうれしいです。

近くの農家で収穫した四季折々の野菜や新鮮な果物をおいしくいただいています。農協のお店にも時々行きますが品揃えもイマイチで、買いたい気持ちになれないのが本当のところですよ。

年をとって自動車の運転もできなくなり、自転車にも乗れなくなると、近くのお店だけがたよりになります。

一大商業施設もありますが、身近にある個人商店も必要です。対面で言葉を交わせることも大切だと思います。

中心市街地の活性化は若者中心の発想。どこの店かわからないのではなく、上尾市内のお店であるという素性がわかると安心して買えると思います。大きな形ではなく、NPOや隙間産業を育てることもお願いします。

大型店ばかり誘致せず、工夫しながら頑張る個人商店を支援してほしい。

自由意見
<b>4. イベント・まちづくり</b>
上尾市内に住んでいても行ったことのないところがたくさんあり、もっとそれぞれの土地の良さを見直せるとよい。
中高年の手作りなどでイベントをおこせないでしょうか。
一通り、物は何でも間にあっていると思いますので、活性化にはどれだけ魅力があるかだと思います。
駅周辺に商業施設を集中させず、〇〇地区ごとに特徴のあるまちづくりをしてほしい。
上尾市中心部に桶川のホール程度のものがあると良いと思う。
催し物も役所が加わって、市民が大勢参加しやすいものを行って下さい。例：さくらまつり 自由広場等を作って出来合い店でなく、商店の出店、農産物店を出して、それに参加しやすいようにバスも出す。毎年恒例になれば、参加する人も増えるのでは？上尾に住んでいて楽しみとして感じるものを作って!!
映画館など娯楽施設がない。上尾の運動公園があるのにイベントなどが分からない。
緑と椅子、いつでも腰のおろせる場所。形づくられたものでなく、空間の中に椅子とか、2～3坪のお店を配置して屋根付の仕切りなしのお店等。
<b>5. 特産品・ブランド</b>
お土産に上尾の名物をとっても、店の場所がよくわからず、駐車場もないので、つい大型店に行ってしまう。
上尾市のイメージキャラクターをもっと前面に出しアピールする。
地場物産について迷いがありました。周辺の地域と共通で、上尾をアピールできる物産は「？」です。